

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントとセリフ表現						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J72780
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンスやプレゼンテーションなど言葉を明確に伝える能力の向上を目指す。場所の広さと聴衆の数に合わせた適切な声量と豊かな表現力を育む実践方法を学ぶ。						
授業の概要	身体の緊張、呼吸、表情、立ち方、身体の振る舞いなどと声がどのように連動しているか、毎回テーマを決めて解説し、実際に体を動かし、声を出して練習していく。練習にはシェイクスピアの『夏の夜の夢』の一節を使う。						
到達目標	①プレゼンテーション、または物語の朗読などの際に、適切な声量で、分かりやすく話すことができる。(汎用性) ②人前で話す際の適切な呼吸、発声、そして滑舌などの知識を身につける。また、感情などの豊かな発話表現には、表情だけでなくすべての身体行動が深く結びついていることを理解する(知識・理解)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：授業の進め方の説明、話し方の基本について</li> <li>2. 身体の緊張：喉を開けるということ、滑舌について</li> <li>3. 声の響き：声が共鳴するメカニズムについて</li> <li>4. 声の響き：母音と反響について</li> <li>5. 身体の動きと声：手と腕の動きを中心に</li> <li>6. 声の大きさ：息の出し方、母音の豊かさ</li> <li>7. 子音と表現力：子音を作る際の息の強弱と表現力の関係について</li> <li>8. 身体構造と声：骨盤と足の関係</li> <li>9. 身体構造と声：指と顎に注目して</li> <li>10. 身体構造と声：全身の身体構造をイメージして声を出す</li> <li>11. 豊かな表現力：声のウォームアップによる発話の関係</li> <li>12. 豊かな表現力：声のウォームアップと独白</li> <li>13. 豊かな表現力：声のウォームアップとマイクを通した声の実践</li> <li>14. 最終プレゼンテーションにむけて</li> <li>15. 最終プレゼンテーション</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(授業前準備学習) 各回、授業で提示された課題のテーマについても事前に調べておく。早口言葉などのルーティーンエクソサイズをこなす。(学習時間2時間程度) (授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で学んだエクソサイズを実践する。(学習時間2時間程度)						
授業方法	講義：各回のテーマを解説し、その後ペアやグループのエクソサイズを使って実践し学んでいく。ディスカッションも通じて内容の理解を深めていく。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物(40%)、最終プレゼンテーション(30%)とレポート(30%)</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。(到達目標②と③)</p> <p>最終プレゼンテーションとレポート：『夏の夜の夢』の一場面をグループで演じる。その際にどのようなセリフ表現の工夫を試みたか、そのためにどのような取り組みをしたかをレポートについて提出する。(到達目標①と②)</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。プレゼンテーションの講評は最終の授業で行い、レポートに関しては松蔭Manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションとレポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	ウィリアム・シェイクスピア/小田島雄志訳『夏の夜の夢』白水社、1983 ISBN:9784560070123						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子(編)『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007 ISBN:9784831511713						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	アミューズメント産業論						
担当教員	近藤 祐二					科目ナンバ-	J73730
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	これまでわが国は製造と貿易によって経済発展してきたが、地域への経済効果の高さから「観光立国」は政府の大きな成長戦略のテーマである。アミューズメント産業とともに旅行業や運輸業、飲食店、レジャー施設、ショッピング施設など観光業を幅広く学んでいく。観光学に関する基礎的・基本的な知識の習得、それらの基本的項目を幅広く学び、旅行者側よりも事業者目線でこれらの概要と問題点を知ることがこの講義のテーマである。						
授業の概要	この授業では、アミューズメント産業の事例を通じてその特性である「形のない商品」＝「サービス」の本質について学び、基本的なサービスマネジメントの考え方を理解する。サービスの特徴（無形性、変動性など）を加味しながら、サービス経済化が進む現在において、サービス経営の現場が直面する課題とその解決策をケーススタディを通じて考えます。本講義では観光の現場における課題をみんなで共有し、これからの観光のあり方について一緒に考える。						
到達目標	①サービス財の特性について理解する。 ②アミューズメント産業の諸相について、その文化史的意味や現代的な意義を理解し説明することができる。【知識・理解】 ③ケーススタディを通じて、アミューズメント産業の現状分析や課題を抽出し、これらの考察を明快な文章で記述することができる。【汎用的技能】 以上を授業の到達目標とします。						
授業計画	第1回 はじめに。なぜアミューズメント産業を学ぶのか、サービス経営について 第2回 エンターテイメントについて学ぶ。モノとサービスの違い 第3回<テーマパーク>国内外のテーマパークの歴史とサービスの特徴 第4回<ホテル業>ホテル旅館業の歴史とサービスの特徴 第5回<百貨店>百貨店の顧客戦略、通販と異なる対面販売の魅力、地域社会との関係 第6回<旅行会社>新しい顧客層へのアプローチ 第7回<京都花街の経営Ⅰ>業界特徴・規模・取引システム 第8回<京都花街の経営Ⅱ>ホスピタリティの事業システム 第9回<京都花街の経営Ⅲ>花街のマーケティング 第10回<外食産業経営>外食業界の特徴と新業態について 第11回<MICE>わが国の新しい観光マーケットへの取り組み 第12回<IR>わが国のIRへの取り組みと海外の事例 第13回<エキナカサービス>駅構内営業の歴史と商品 第14回<ハイウェーサービス>経営資源の再評価掘り起し 第15回<講義総括>授業の振り返りとこれからのアミューズメント産業について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】講義1週間前の関連の記事・情報を把握し問題点や課題を整理する(2時間) 【授業後】講義の後、講義ノートおよびレジュメを読み返し講義内容を整理し理解する。次回講義時にディスカッションペーパーにまとめて提出する(2時間)						
授業方法	対面にて講義を行う。講義前半は各講義回のテーマに沿ってスライドとレジュメによる説明、後半はケーススタディをもとに実社会での取り組みを説明する。						
評価基準と評価方法	・「講義期間中数回の学習到達度確認小テストと講義毎のミニツツペーパー 85%」 ・「講義に関するレポート課題 15%」						
履修上の注意	ビジネスの事例を多く取り入れるので、自分がその現場にいる意識を持って参加して欲しい。 講義に積極参加することを期待する。 講義環境で特別な配慮が必要な受講者は、初回講義終了後に申し出てください。						
教科書	講義中に指示する						
参考書	講義中に指示する						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	異文化コミュニケーション演習						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72560
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	グローバル社会を迎えて、多くの文化的背景が異なる人と共に暮らしていくことが当たり前となっています。一方、日本社会の国際化・多文化化の流れとは反対に民族や国籍の違う人に対する無意識の偏見や差別感が現れてい瞬間に出会うこともあります。このクラスでは多文化に対する知識とそれを需要するためのスキルトレーニングのための授業です。						
授業の概要	自分の「あたりまえ」や「常識」が他の人々にとってそうではない可能性があることを気づいていく活動をしていながら、社会にある差別や偏見について取り扱います。「もし自分だったら」という想像力を持ち、生活に潜む無意識の理不尽さ無関心さを考えます。最後に言語の平等性について考えます。英語をはじめとした特権的な言語について考えながら、複雑な言語環境化で育つ子供の言語習得などについて理解を深めます。						
到達目標	① 自分の「あたりまえ」を客観視し、他人との違いを議論することができる。【汎用的技能】 ② 日本社会の国際化・多文化を知り、差別や偏見について理解し、説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 郷入っては郷に従え ?-異文化間ソーシャルスキル1- 第3回 郷入っては郷に従え ?-異文化間ソーシャルスキル2- 第4回 言いにくいことをどう伝える?-アサーション・トレーニング1- 第5回 言いにくいことをどう伝える?-アサーション・トレーニング2- 第6回 「〇〇人」ってだれのこと?-日本人・外国人-1 第7回 みんなが暮らしやすく-ユニバーサルデザイン1- 第8回 みんなが暮らしやすく-ユニバーサルデザイン2- 第9回 「ことばができる」ってどんなこと?-国境を越える子どもの言語習得1- 第10回 「ことばができる」ってどんなこと?-国境を越える子どもの言語習得2- 第11回 わかりやすく伝えよう!-やさしい日本語1- 第12回 わかりやすく伝えよう!-やさしい日本語2- 第13回 英語だけでいいですか?-英語一極集中の功罪- 第14回 いくつもの言語とともに-複言語主義- 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習:各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、分からない言葉を調べたり、指定された事前課題についてやってくる。<学習時間2時間> 事後学習:授業で取り上げた内容の要点や重要箇所を確認し、確認テストで理解度を確かめたり、manaba上の課題に答える。<学習時間2時間>						
授業方法	講義と演習 ・テーマについて講義を行う。 ・それについて、グループワークあるいはペアワークによるディスカッションを行う。 ・授業後にmanaba課題を通じて自分の意見や考えをまとめる。						
評価基準と評価方法	A. 授業内での提出物や授業の参加度60%【到達目標①に関する達成度の確認】 B. 期末レポートあるいは試験40%【到達目標②に関する達成度の確認】 AとBの総合的評価で成績を出す。  <Aの授業内での提出物に含まれるもの> 授業内での提出物は事前課題や宿題・リアクションペーパーなど。【到達目標①に関する達成度の確認】 授業の参加度は授業内での発言やグループワークで判断する。【到達目標①に関する達成度の確認】						
履修上の注意	1. この授業はグループワークあるいはペアワークによるディスカッションを行うため、積極的な参加を望む。 2. 4/5以上の出席がないと受講資格を失う。						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	有田佳代子他編著(2018)『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社 ISBN978-4-327-37745-8 ¥2200						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	イベント演出論						
担当教員	枘井 智英					科目ナンバ-	J73720
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日常には様々なイベントがある。ホームパーティや地域のお祭りからオリンピックまでその大きさも形態も様々である。この授業ではイベントの企画や運営に必要な知識から学び、効果的なイベントの演出について学ぶ。またそれとともにイベントにかかわる社会的、文化的、芸術的な側面についても考えてみたい。						
授業の概要	イベントの定義づけから始まり、イベントの企画運営にかかわる要素、そしてイベントが行われる空間の効果的な演出について、いくつかのイベントを例にとって学び、最終的にテーマを決めてイベントの企画と演出についてのプランを作成して発表してもらう。						
到達目標	① イベントの企画から当日までの流れを理解し、自分の言葉で誰にでも説明できるようになる。(知識・理解) ② 将来関わることになるかもしれない地域のイベント、仕事に関わったイベントに応用できる能力を身につける。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：授業の進め方や評価、イベントの定義づけについて</li> <li>2. イベントの主役：商品、参加者、施設、スポーツ選手、歌手、俳優など</li> <li>3. イベントの演出：空間</li> <li>4. イベントの演出：音楽と照明</li> <li>5. イベントの演出：人の動かし方、観客</li> <li>6. ターゲット層に向けた広報と当日の演出、予算について</li> <li>7. (事例1) 演劇① 公演の企画から当日までの準備</li> <li>8. (事例1) 演劇② 劇場という空間について</li> <li>9. (事例2) オリンピック：開催までの4年間の流れ</li> <li>10. (事例2) オリンピック：開会式のパフォーマンス</li> <li>11. (事例3) 夏祭り：野外でのステージやブースの使い方</li> <li>12. 演習：グループでイベントの企画(催し物とテーマ設定)</li> <li>13. 演習：グループでイベントの企画(具体的な内容)</li> <li>14. 演習：プレゼンテーション</li> <li>15. 授業内容のまとめ、グループ発表の講評</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：与えられたテキストの予習、または企画を立案する課題などでも、詳細を参考図書やインターネットで情報収集を行ってください。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を整理してまとめる。グループでうまくコミュニケーションをとり、プレゼンテーションの準備を行う。(学習時間：2時間)</p>						
授業方法	講義：イベントを演出する諸要素の解説を講義で行うとともに、実際に体験してみることでさらに理解を深める。各回のテーマに応じてグループディスカッションを行い、その結果を受けて講義により解説を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物(50%)、最終プレゼンテーション(50%)</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標①の確認。</p> <p>最終プレゼンテーション：グループでイベント企画のプレゼンテーションを行い、これまで学んだイベント演出の知識をどの程度理解できているか、どの程度実際に応用できるかを評価する。到達目標②の確認</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。プレゼンテーションに関しては最終の授業で講評する。</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションの資格を失うものとする。						
教科書	適宜資料としてプリントを配布する。						
参考書	『新イベント運営完全マニュアル 最新改訂版』高橋フィデル(著)、宮崎博(編集)、ジャパンビジターズビューロー						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	映像と大衆文化						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	J72770
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	大衆の意識が、どのように映像作品に反映しているかを探る。						
授業の概要	具体的な映像作品（マンガ、アニメ、映画）を見ながら、その背後にある社会・時代・文化との関わりを解説し、分析・検討する。						
到達目標	【知識・理解】映像のヒット作に触れることによって、日本の社会と文化の特質を知ることができる。 【汎用的技能】映像作品の分析を通して、現代社会の動向を見抜く力をつけることができる。						
授業計画	<p>I. 映像と時代：アニメと時代：少年マンガにおける敵の存在について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『ドラゴンボール』と少年ジャンプ</li> <li>昭和のSFマンガと石ノ森章太郎</li> <li>「人喰い」のテーマ：『進撃の巨人』『約束のネバーランド』</li> </ol> <p>II. 映画と大衆文化：「四谷怪談」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>四谷怪談映画について</li> <li>原作『東海道四谷怪談』は怎么样了のか</li> <li>「忠臣蔵」と四谷怪談の関係について</li> <li>大衆の欲望と映画</li> </ol> <p>III. 映画と日本文化：日本のメロドラマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>難病映画：『余命10年』『世界の中心で愛を叫ぶ』</li> <li>日本的メロドラマ（1）：1950年代『野菊の如き君なりき』</li> <li>日本的メロドラマ（2）：1960年代『愛と死をみつめて』</li> <li>『時をかける少女』と時間の法則</li> </ol> <p>IV. 映像と心理：マンガの性差</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>少年マンガと少女マンガの違い</li> <li>少女マンガの成立：『風と木の詩』</li> <li>マンガと精神分析</li> <li>まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	過去半世紀の映像作品（マンガ、アニメ、映画etc）をできる限り鑑賞し、時代や社会との関係を考える（60時間）。特に、映画は1970年以前の作品に触れることが望ましい。						
授業方法	講義。 講義形式で行うが、途中、提示映像に関して質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）＋テスト（50%） 平常点、テストともに、以下の2点を中心に評価する。 ・映像作品と現代社会とのかかわりが理解できている。 ・映像と日本的文化との関係が理解できている。						
履修上の注意	1/3欠席の者は受験資格を失う。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	演劇と現代社会						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J73700
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本演劇の発展と英米のマイノリティーを扱った演劇、そしてミュージカルに関する基本的知識を習得する。						
授業の概要	戦後日本の現代演劇と英米演劇の発展を政治や社会背景と結びつけて解説する。また、作劇術や演技術の発展などの要素も含めて紹介する。それに加え、映画やアニメなどの映像作品とも関連させて授業を行う。						
到達目標	①上演分析に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成に応用することができる(汎用的技能) ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる(知識・理解)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について</li> <li>2. 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について</li> <li>3. 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動</li> <li>4. 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察</li> <li>5. 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅</li> <li>6. 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績</li> <li>7. 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場</li> <li>8. 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践</li> <li>9. 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技術の発展</li> <li>10. 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー</li> <li>11. 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム</li> <li>12. ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史</li> <li>13. ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル</li> <li>14. ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。(学習時間2時間程度) 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物(40%)、期末レポート(60%) 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①の確認 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	演劇とパフォーマンスの歴史						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J73690
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	シェイクスピアから大戦前までの演劇の歴史を理解し、現代演劇と映画やアニメなどの映像作品との関係を考える。						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成に応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文芸と演劇について</li> <li>2. ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画</li> <li>3. ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画</li> <li>4. ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画</li> <li>5. ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性</li> <li>6. 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て</li> <li>7. 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ</li> <li>8. 近代：イブセン① イブセンについて</li> <li>9. 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニック</li> <li>10. 近代：自然主義から表現主義までの流れ</li> <li>11. 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について</li> <li>12. 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術</li> <li>13. 現代：プレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介</li> <li>14. 現代：プレヒト② 現代劇への影響について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40%）、期末レポート（60%） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①の確認 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	J73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	就職活動や卒業論文の執筆を視野に入れた実践的な文章表現能力の養成。						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および、就職活動や社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。 各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行ないます。 必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、自分が伝えたいことを相手から明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できるようになる【知識・理解】 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につける【汎用性技能】 3. 日常の言葉や文章、仕事等で使う文章、アカデミックなレポートや論文の文章それぞれの違いを理解できるようになる【知識・理解】 4. 日常生活、就職活動や社会に出て働くに際して、適切な文章を書くことができるようになる【汎用性技能】 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くスキルを身につける【汎用性技能】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文章作成とは、授業内で教える知識を身につけるだけでなく、復習や自主的な取り組みが必要な技術です。講義内では文章作成の参考書だけでなく、良質な学術書（文庫や新書を含む）、小説やエッセイ、図書館の活用方法なども紹介します。適切な書籍や論文等の文章を探し、読み、なおかつノートやパソコンでそれを書き写すことがトレーニングになりますので、上記に基づいた学習を週1日2時間行ってください。以上の自主学習と準備学習を合わせて、週2〜3時間程度授業外における学習をしてください。						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で学習してもらいます。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。 また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポートの執筆への実践的な取り組みもしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習へ取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。 最終レポートは授業参加度に比例した成果が出ますので、その点を意識して授業を受けてください。 ・テストおよび最終レポート50%：小テスト2回と最終レポートの総合点（到達目標1〜5） ・授業内課題30%：授業内で出した課題の提出（到達目標2、3、4） ・授業参加態度20%：授業への取り組み姿勢						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません（正式な理由があつての欠席は必ず事前に担当教員と教務課に届け出てください。） 特にテストの欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。） 私語やスマホの利用等において、授業を妨げる行為、とりわけ他学生の学習の邪魔になる行為は厳禁です。 初回のガイダンスにて履修上の注意点を述べるので、履修予定者は必ず出席してください。						
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。 本授業は基本的にPowerPointを用いた説明を行いますので、必ず各自でノートをまとめるようにしてください。						
参考書	・佐藤望編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』第3版、慶応大学出版会、2020年（ISBN-10：4766426568/ISBN-13：978-4766426564）。 ・戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで』NHK出版、2002年；[新版]2012年（ISBN-10:4140911948/ISBN-13:978-4140911945）。 ・他の参考書は授業内で指示します。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法						
担当教員	瀬戸 祐規					科目ナンバ-	J73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	就職活動や卒業論文の執筆を視野に入れた実践的な文章表現能力の養成。						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および、就職活動や社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行ないます。必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、伝えたいことを相手に明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できる【知識・理解】 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につけ、それらを意識して書くことができる【汎用的技能】 3. 日常で使う言葉や文章、仕事等で使う文章、レポートや論文などアカデミックな文章の違いを理解できる【知識・理解】 4. 日常生活、就職活動や社会に出て働くに際して、適切な文章を書くことができる【汎用的技能】 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くことができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インタロダクション 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文章作成とは、授業内で教える知識を身につけるだけでなく、復習や自主的な取り組みが必要な技術です。講義内では文章作成の参考書だけでなく、良質な学術書（文庫や新書を含む）、小説やエッセイ、図書館の活用方法なども紹介します。適切な書籍や論文等の文章を探し、読み、それをノートやパソコンで書き写すことがトレーニングになりますので、上記に基づいた学習を行ってください。毎週〈1~2時間〉以上の自主学習と準備学習を合わせて、週4時間の授業外における学習をしてください。合計毎週〈4時間〉						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で行います。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポート執筆への実践的な取り組みもしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習に取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。最終レポートは授業参加度に比例した成果が出ますので、その点を意識して授業を受けてください。テストおよび最終レポート50%：小テスト2回と最終レポートの総合点（到達目標1~5） 授業内課題30%：授業内で出した課題の提出（到達目標2、3、4） 授業参加態度20%：授業への取り組み姿勢						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません。（正式な理由があつての欠席は必ず事前に担当教員と教務課に届け出てください。特にテストの欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。） 授業をさまたげる私語やスマホの利用は厳禁です。 初回のガイダンスにて履修上の注意点を述べるので、履修予定者は必ず出席してください。						
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。 また、説明の中で重要なものは、適宜必ず各自でノートにまとめるようにしてください。						
参考書	・戸田山和久著『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで（NHKブックス No. 1272）』NHK出版、2022；（ISBN:978-4-14-091272-0） ・佐藤望編著『アカデミック・スキルズ 一大学生のための知的技法入門』慶応大学出版会、2006； 【第3版】2020（ISBN:9784766413243/ISBN-3:9784766426564） ・他の参考書は授業内で指示します						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学および音韻論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を理解したのち、音声に象徴性が備わっていることを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 音声、音素、文字の関係が理解できる</p> <p>b. 音声に象徴性が備わっていることが理解できる。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 事物の構造に意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 音声と文字との関係</p> <p>03: 第2章の講読</p> <p>04: 阻害音と共鳴音との違い</p> <p>05: 第3章の講読</p> <p>06: 母音の調音</p> <p>07: 第4章の講読</p> <p>08: 清音と濁音との違い</p> <p>09: ここまでのまとめと期末課題指導</p> <p>10: 第5-7章の講読</p> <p>11: 音韻研究: データ収集</p> <p>12: 音韻研究: データ整理</p> <p>13: 音韻研究: データ分析</p> <p>14: 音韻研究: 分析結果に基づく考察</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。</p> <p>(3) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川原 繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?!』 ひつじ書房 ISBN-13: 978-4894768864						
参考書	<p>服部 四郎 (1951) 『音声学』 (岩波全書131) 岩波書店</p> <p>服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』 大修館書店</p> <p>斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』 三省堂</p> <p>川原 繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界』 岩波書店</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	海外日本語教育実習						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	海外の協定大学で日本語教育の教育実習を行い実践的な力を付ける。 (この授業は集中のため履修登録期間中には登録できません。募集時期が来ましたら、ポータルや授業で連絡いたします)						
授業の概要	この授業は、教員の引率の下で海外の協定大学の日本語学科で日本語教育の教壇実習を行う授業です。日本語教育は実際に教えるという体験が非常に重要です。この経験を通して、クラスコントロールなど現場でしか学べないことを学びます。この授業は8回の学内での授業と海外での教育実習に分かれています。人数制限や実習費用がかかるため、必ず説明会に出席することを条件とします。費用は自己負担となります。行き先は毎年変わる可能性があります。						
到達目標	① 指定されたテキストを分析し、教えるべき文型や注意点が理解できる。【知識・理解】 ② テキストを分析し、対象者のレベルにあった教案を作るスキルを身につけることができる。【汎用的技能】 ③ 教室において柔軟に意欲的に行動し、海外で日本語教師として教壇に立ち授業を行うことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 海外日本語教育実習オリエンテーション 第2回 授業準備1・いつ・どこで、誰にどのように教えるのか 第3回 授業準備2・教材研究 実習担当箇所の分析と研究 第4回 授業準備3・教案指導の書き方 第5回 授業準備4・教材の作成～日本語教育ICT・著作権～ 第6回 授業準備5・教案を仕上げる 第7回 授業準備6・教材の完成 第8回 実践練習7・教壇実習の練習  海外教育実習（授業見学と授業実習 45時間以上）45分の実習を2回以上  第9回 フィードバック 第10回 まとめと振り返り～実践研修全体総括～						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の為の教材作を積極的に行うこと。 事前に自分の担当箇所の教案とPPTを作成（学習時間2時間） 授業の準備とリハーサル（学習時間2時間）						
授業方法	講義と演習形式＋プレゼンテーション（模擬授業）＋海外の協定大学における日本語教壇実習						
評価基準と評価方法	教案・実習レポート（締切厳守） 50% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 教案は文法の理解度、書き方、アクティビティなどの内容で評価する。 教壇実習50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 ・「日本語教育実習の基礎・実践」を履修している人を優先する。 ・単位認定には実際の教壇実習へ行くことが必須である。 ・海外での教育実習のための費用が必要である。 ・集中講義であるため、すべての事前授業に出ることを条件とする。						
教科書	適宜、教師が作成したプリントを使用						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	華道文化を学ぶ						
担当教員	今井 孝司					科目ナンバ-	J72510
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	1. いけばなを通して日本文化の根底に流れるもの・ことを知る 2. 現代社会におけるいけばなの可能性について考える						
授業の概要	いけばなは日本の風土、文化、精神から発生した、日々の生活に密着しながら発展してきた「生活芸術」です。まずその起源を知り、いけばなが日本人の日常生活の中で様式化されていった過程について理解します。次に現代に蔓延するストレスフルな生活に潤いを与える可能性についてひもといていきます。またいけばなが西洋あるいは戦前の植民地に与えた影響と、高齢社会における可能性についても言及する予定です。						
到達目標	(1)いけばなの成立背景と変遷の過程について、日本の風土や信仰が大きく作用していることを理解し、住空間の発展、もてなしの文化、女性の生活芸術であったなどの知識を身につけ、説明ができる。【知識・理解】 (2)応用力として、いけばなは民族・文化を越えて現代人の生活に潤いをもたらせ、未来志向の生活芸術であるという可能性を理解し説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：いけばな・日本の歴史文化に関するクイズと授業方針の伝達 第2回：いけばな史① いけばな成立の背景 『いけばなの道』DVDの視聴 第3回：いけばな史② 古代から江戸期まで 植生・信仰・住環境との関連性を中心に 第4回：いけばな史③ 明治期から現代まで 社会文化・経済との関連性を中心に 第5回：いけばな史④ 女性といけばな 江戸期と大正期の二つの変節点を中心に 第6回：様式の成立背景と技法の進化① カミ(神)とブツ(仏)の影響 第7回：様式の成立背景と技法の進化② なぜ花は空に向かって活けるのか 第8回：家元制度について考える 第9回：いけばなと外国との関わり…いけばなに魅せられた西洋人(明治期初期及び戦後)と戦前アジア地域への伝播過程 第10回：現代生活といけばな ①花のもつ潜在力…色・形の効用 第11回：現代生活といけばな ②花の持つ潜在力…香りの効用 第12回：現代生活といけばな ③住環境のアクセントとしてのいけばな 第13回：未来志向のいけばな ①高齢者の脳活、潤いとしてのいけばな 第14回：未来志向のいけばな ②潜在学習者市場は男性 第15回：総括および提出物評価						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	○授業前準備学習：毎回授業の終わりに翌週分のレジュメを予め配布する。熟読ならびに予め調べておく事項を示しておくのでレジュメのメモ書き欄に書き留めておくこと。(学習時間2時間) ○授業後学習：毎回配布する用紙に授業の要点をまとめておき、翌週提出すること。(学習時間2時間) ○その他：本授業の開講期にあたる秋には多くのいけばな流派の花展が開催されます。どの流派でもかまわないので会場に足を運ぶ、またはネット上で閲覧し、与えられたタイトルでレポートを仕上げ、提出してください。これに要する時間は おおむね6時間(スケッチ・メモを含む花展見学2時間、レポート作成4時間)を目安とします。						
授業方法	基本は講義(座学)ですが、過去または現代の作品(プロジェクター掲示や写真の配布など)について、ディスカッションも予定しています。						
評価基準と評価方法	レポート(2回)50% 到達目標(1)・(2)に関する到達度の確認。 平常点①：授業内容確認テスト(2回)30% 到達度(1)に関する到達度の確認。 平常点②：ディスカッションでの発言、受講態度など講義への参加度 20% 到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	いけばな経験の有無は問いません						
教科書	特に指定はしません。毎回レジュメを配布します						
参考書	『いけばなの道』工藤昌伸、主婦の友社、1985年 『「花」の成立と展開』小林善帆、和泉書院、2007年 『美しい日本のいけばな』ジョサイア・コンドル(工藤恭子訳)、講談社、1999年 『植民地朝鮮の教育資料Ⅰ・Ⅱ』小林善帆編、国際日本文化教育センター(非売品・図書館所蔵) その他いけばなに関する論文、雑誌記事など						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の応用						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J72450
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—応用編〉						
授業の概要	書道実技（仮名A）基礎の応用として、様々な書式を試みる。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などへの創作に挑戦する。創作の際、参考にする古典作品（古筆）を各自が選び、研究する。						
到達目標	①さまざまな仮名の古典作品の書風や歴史について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②仮名の散らし書きを学び、色紙、短冊、扇面、半切など様々な作品形式に俳句、和歌を創作することができる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 古筆の鑑賞—学ぶ古筆を選ぶ</li> <li>2) 古筆の臨書—練習</li> <li>3) 古筆の臨書—清書</li> <li>4) 短冊に書く</li> <li>5) 色紙に書く</li> <li>6) 扇面に書く</li> <li>7) 大字仮名の創作について</li> <li>8) 大字仮名を書く：作品A①—構図を考える</li> <li>9) 大字仮名を書く：作品A②—墨量を考える</li> <li>10) 大字仮名を書く：作品A③—線質を考える</li> <li>11) 大字仮名を書く：作品A④—清書</li> <li>12) 大字仮名を書く：作品B①—構図を考える（ゲストスピーカーからのアドバイス）</li> <li>13) 大字仮名を書く：作品B②—墨量・線質を考える</li> <li>14) 大字仮名を書く：作品B③—清書</li> <li>15) 批評会・まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：実技添削物の復習。（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p> <p>授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。</p>						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	<p>平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認</p> <p>レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認</p> <p>提出作品50%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、レポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>以下の書道道具を持参のこと：仮名用小筆、硯、墨、文鎮、下敷き、仮名半紙、雑巾（書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する）</p> <p>関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。</p> <p>授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。</p> <p>書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。</p> <p>学科関係のイベントがあれば、それに即した制作を行うこともあり。</p>						
教科書	各自が選ぶ古筆の法帖。詳しくは最初の授業で説明する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の基礎						
担当教員	岡田 直樹					科目ナンバ-	J72440
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	仮名の学習、仮名への理解を深め技術を習得する。						
授業の概要	高等学校芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎的知識・技術を講義・実習を通して研修する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の書の指導に必要な基礎的知識・技術を身につけることができる。(汎用的技能)</li> <li>・仮名の書の繊細優雅な美しさを古筆の臨書を通して理解することができる。(知識・理解)</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 仮名について(成立と種類)</li> <li>2 仮名の用具・用材と基本用筆</li> <li>3 「いろは」の単体</li> <li>4 変体仮名</li> <li>5 連綿</li> <li>6 蓬萊切(原寸臨書)</li> <li>7 高野切第三種(原寸臨書)</li> <li>8 高野切第一種・二種(原寸臨書)</li> <li>9 高野切第三種(原寸倣書のための集字)</li> <li>10 高野切第三種(前時の資料を基にして原寸倣書)</li> <li>11 関戸本古今集(原寸臨書)</li> <li>12 寸松庵色紙(原寸臨書)</li> <li>13 継色紙(原寸臨書)</li> <li>14 一条撰政集(原寸臨書)</li> <li>15 授業内容のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>初回の授業で資料を配布するので、指導計画をよく見て次時の資料をしっかりと読んでおくこと。(1時間)</p> <p>授業後学習として、授業で行った内容を更に深めるため筆を執ってさらに臨書等をする事。(2時間)</p>						
授業方法	講義・実習。授業計画の内容を説明し、その後実習をする。また、必要に応じて課題解決のための自己批正・相互批正を行う。						
評価基準と評価方法	<p>提出作品70%</p> <p>提出された作品を授業の到達目標の到達度に従って評価する。</p> <p>実習への取り組み30%</p> <p>授業へいかに積極的に取り組んでいたかを評価する。</p>						
履修上の注意	<p>実習のため出席することを原則とする。</p> <p>11回以上の出席がないと受講資格を失う。</p> <p>15分以上の遅刻は欠席とする。</p>						
教科書	プリントの配布をする。						
参考書	特になし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文講読						
担当教員	福留 瑞美					科目ナンバ-	J72230
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を応用し、漢文を鑑賞する。						
授業の概要	日本文学（和歌・物語・史書など）に影響を与えている漢文を取り上げて読解・鑑賞し、日本人がどのように享受したかについて考察・解説を行う。一連の講読により漢文読解の知識・応用力を養うことを目指す。						
到達目標	(1) 漢文読解ができる【知識・理解の観点】 (2) 作品の内容を理解できる【汎用的技能の観点】 (3) 日本文学と漢文学の影響関係が説明できる【汎用的技能の観点】 (4) 書き下しや要点について、板書・解説ができる【態度・志向性の観点】						
授業計画	第1回 講義の進め方、作品読解 (1) 蛍雪 第2回 基礎知識 (1) 構造・訓読 第3回 基礎知識 (2) 助字・句形 第4回 作品読解 (2) 完璧 第5回 作品読解 (3) 先従隗始 第6回 作品読解 (4) 守業 第7回 作品読解 (5) 性善・性悪 第8回 作品読解 (6) 井蛙 第9回 作品読解 (7) 古詩・楽府 第10回 作品読解 (8) 李白・杜甫 第11回 作品読解 (9) 七言詩 第12回 作品読解 (10) 桃花源記 (前半) 第13回 作品読解 (11) 桃花源記 (後半) 第14回 作品読解 (12) 枕中記 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：松蔭manabaのコンテンツから予習用の漢文本文をダウンロードし、辞書で語意や句法を調べて、書き下し文・口語訳にし、漢文ノートを作成する。(2時間) 授業後学習：授業内容を漢文ノートに整理する。(2時間)						
授業方法	講義：事前学習で仕上げた書き下し文や口語訳をもとに課題に取り組み、双方向またはグループワークによる発表結果を踏まえて、解説・講義を行う。最後に理解度の確認のため小テスト・小論文（リアクションペーパー）を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 60% 期末試験 40% 授業内での提出物：各回提出したリアクションペーパーの内容の的確さなどを評価する【到達目標 (1) ~ (4) の確認】 期末試験：授業で扱った作品や応用問題に対する理解度、応用力を評価する【到達目標 (1) ~ (4) の確認】						
履修上の注意	1, 予習として書き下し文・口語訳・意味調べをしておくこと。 2, 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには原則として単位認定を行わない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文入門						
担当教員	福留 瑞美					科目ナンバ-	J71530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文の基礎知識を習得し読解する。						
授業の概要	古来から日本人は訓読することで漢文を理解し、日本文化に取り入れてきた。そこで、授業の前半では漢文法や訓読などの基礎知識に重点を置き、後半で様々な作品を訓読・読解することで、日本文学に影響を与えた漢詩文に親しんでもらうことを目指す。						
到達目標	(1) 漢文読解ができる【知識・理解】 (2) 漢文作品を自力で読解できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 講義の進め方、基礎知識 (1) 構造 第2回 基礎知識 (2) 返り点 第3回 基礎知識 (3) 助字 第4回 基礎知識 (4) 再読文字 第5回 基礎知識 (5) 句形 第6回 作品読解 (1) 矛盾 第7回 作品読解 (2) 守株 第8回 作品読解 (3) 隠者 第9回 作品読解 (4) 儒学 第10回 作品読解 (5) 道家 第11回 作品読解 (6) 近体詩・杜甫 第12回 作品読解 (7) 孟浩然・李白 第13回 作品読解 (8) 長恨歌 第14回 作品読解 (9) 長恨歌の影響 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：事前に指定するプリント課題に解答したり、下調べしたりする。(2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の確認・整理する。(2時間)						
授業方法	講義：各回授業で配付するプリントの練習問題について、双方向またはグループワークによる発表の結果を踏まえて、解説を行う。最後に理解度の確認のため小テスト(リアクションペーパー)を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 60% 期末試験 40% 授業内での提出物：①課題、②リアクションペーパー(解答)を評価する【到達目標(1)(2)の確認】 期末試験：授業で扱った作品や応用問題に対する理解度、応用力を評価する【到達目標(1)(2)の確認】						
履修上の注意	1, 漢和辞書を持参して活用すること(無料アプリ・ネット上の簡易辞書は不可) 2, 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには原則として単位認定を行わない。 3, 二次以降に「漢文講読」を引き続き履修することが望ましい。						
教科書	なし						
参考書	なし						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	外国語としての日本語と日本文化						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J7154A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	世界と日本の社会と文化 ～外国語としての日本語の特徴と言葉に潜む日本文化を知る～						
授業の概要	留学生と日本人の両方を対象としたクラスで、国際的観点から日本の文化について考える。世界の様々な言語や文化と比較しながら、日々の生活の中に見られるさまざまな、言葉や表現、生活習慣の中に潜んでいる「文化」について学ぶ。また、いろいろな事例を自分でも探し出し、理解を深めていくことを目指す。自分達の考えをグループで論じたり、課題で自分の考えを書いたりなど、考えたことをまとめる作業を行う機会を設ける。						
到達目標	①異文化や多文化と比較することで、日本語の語彙や表現、生活習慣の中から日本的なものとのらえ方や価値観文化などを理解できるようになる【知識・理解①】 ②説得力のある形で日本文化に関する自分の考えをまとめたり、発表したりできるようになる【汎用性技能②】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション～海外で日本語に興味を持つ人々～ 第2回 「自分」を表す呼び方 第3回 「さくら」がつく言葉 第4回 トイレの呼び方とバリエーション 第5回 「すみません」の使い方 第6回 湿気や水分の多いことを表す表現 第7回 同音異義語「あつい」 第8回 日本の衣食住 第9回 相手をほめる表現 第10回 日本語の呼びかけの人称代名詞 第11回 日本の四季 第12回 日本の年中行事 第13回 日本の祝日 第14回 贈り物とお返し 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【事前学習】各テーマについて、事前に図書館やウェブ上の資料などを利用して、積極的に調べてくる。 <学習時間2時間> 【事後学習】授業中に与えられた課題について、各テーマに関する書籍や新聞記事を読んでまとめる。 <学習時間2時間>						
授業方法	講義・演習 ・このクラスはmanabaを利用しながら双方向的な授業を行う。 ・ペアワークやグループワークを多用するため、積極的な参加を望む。 ・各テーマについて講義を聞き、その後、パソコン等を用いて事例を探し出し、分類、分析する。 ・分析した結果をもとに、自分なりの考えや意見を発表したり、提出する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み・発表 40%【到達目標①に関する到達度の確認】 授業内での提出物（課題・リアクションペーパー等） 30%【到達目標②に関する到達度の確認】 期末レポート 30%【到達目標②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・4/5以上の出席がないと、単位の認定はありません。 ・出席するだけでは単位は得られません。積極的に授業に参加してください。						
教科書	適宜ハンドアウトを配布する						
参考書	武田/聡子他 (2009) 『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化—多辺田家が行く!!』アルク ISBN-10 : 475741630X ISBN-13 : 978-4757416307						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	キャラクタービジネス論						
担当教員	釣 馨					科目ナンバ-	J72710
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本に深く浸透しているキャラクターの歴史とその文化背景を知り、またキャラクターがマーケティングにおいてどのような役割を果たしているのかを学ぶ。						
授業の概要	マンガやアニメなどを通して生まれたキャラクターは現代日本において極めて重要なコミュニケーション・ツールとなっている。文学やアートやマスカルチャーなどの文献資料にあたりながら、キャラクターの歴史と文化的背景をたどりつつ、その特徴と魅力の本質を理解する。さらにキャラクターが商品やサービスの受容にどのような役割を果たしているかを明らかにしながら、キャラクターをマーケティングに活用するビジネスモデルについても学習する。						
到達目標	日本でキャラクターが生まれた文化的な背景を知り、キャラクターの美的価値だけでなく、マーケティング的な価値を理解することができる。【知識・理解】 キャラクタービジネスを通してマーケティングの手法を学び、アウトプットとして、その社会的な価値を説明し、また自ら企画を立案できるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 キャラクターとは何か 第2回 キャラクターの種類 第3回 日本産キャラクターの歴史 第4回 日本産キャラクターの特徴と魅力 第5回 美少女キャラについて 第6回 ゆるキャラについて 第7回 キャラクターを演じることと生身の身体 第8回 キャラクターとメタバース 第9回 キャラクターとマーケティング：不二家のペコちゃんの事例 第10回 キャラクターとマーケティング：消費者心理とキャラクターの特性 第11回 キャラクターとマーケティング：キャラクターグッズへの理解 第12回 キャラクターとマーケティング：ビジネス活用とキャラクターの魅力 第13回 キャラクターとマーケティング：キャラクタービジネスの事例 第14回 キャラクタービジネスに関する法律とファイナンス 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業用に配布するプリントの内容や資料にあらかじめ目を通しておく。扱う作品や資料についてあらかじめ鑑賞し、インターネットなどで調べておく。（学習時間2時間） 授業後学習：復習をしながら、授業中に埋めたプリントの空欄部分を確認する。またリアクションペーパーも配布するので、講義内容について関心を持ったことや自分の意見をリアクションペーパーを書いておく。（学習時間2時間）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて抗議を行う。各回の授業内で講義を聞きながら、配布するプリントの空欄を埋めていく）						
評価基準と評価方法	授業内の提出物50%：各回の授業の最後にリアクションペーパーとして授業内容の簡単なまとめと自分なりの解釈や意見を書いてもらい、評価します。それによって到達目標に関する到達度を確認します。 筆記試験50%：授業で扱ったキャラクタービジネス論に関する理解度、それを自分の言葉で表現し、新しく立案する力を評価します。						
履修上の注意	出席を重視します。						
教科書	教科書は指定せず、随時プリントを配布します。						
参考書	『キャラクター総論』、辻幸恵他著、白桃書房、2009年 『売れるキャラクター戦略』、いとうとしこ著、光文社新書、2016年 『キャラクター・パワー』、青木茂著、NHK出版新書、2014年						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／基礎演習						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の収集・整理と論理的な文章の作成						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要となる基礎知識や技能を身につける。情報の収集方法や文章表現、研究倫理、レポートの作成に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	① 他者が理解しやすい、わかりやすい文章で伝えることができる。【汎用的技能(1)】 ② 情報を収集・整理したうえで、論理的な思考にもとづいた文章を書くことができる。【汎用的技能(2)】 ③ グループワークを通じて他者と協力して課題に応えることができる。【汎用的技能(3)】						
授業計画	第01回 授業概要の説明と自己紹介 第02回 松蔭manaba／Zoomの使い方 [PC必携] 第03回 キャンパスツアー 第04回 図書館オリエンテーション 第05回 エッセイを書く [PC必携] 第06回 ここまでの振り返り／事実と意見 [PC必携] 第07回 レポートの書き方①作成手順 [PC必携] 第08回 レポートの書き方②主題の設定 [PC必携] 第09回 レポートの書き方③先行研究の整理 [PC必携] 第10回 論文の構成 [PC必携] 第11回 資料の収集・整理／引用の仕方（研究倫理） [PC必携] 第12回 資料の分析 [PC必携] 第13回 論文のパラグラフ [PC必携] 第14回 論文における文章表現 [PC必携] 第15回 論文の執筆 [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 授業に関する重要語句などを予習する。（学習時間：2時間） 授業後学習： 授業内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）						
授業方法	<BYOD対象科目>演習形式。簡単なグループワークをする機会を設けることがある。						
評価基準と評価方法	期末レポート 50%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているかで評価する。到達目標(1)および(2)の到達度を確認。 授業内課題 20%： 授業中に課した課題の内容・文章の技巧を評価する。到達目標(1)の到達度を確認。 授業態度 30%： 授業に対する意欲やグループワークへの参加の積極性を評価する。到達目標(3)の到達度を確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がなければ単位の認定はできない。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／基礎演習						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の収集・整理と論理的な文章の作成						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要となる基礎知識や技能を身につける。情報の収集方法や文章表現、研究倫理、レポートの作成に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	① 他者が理解しやすい、わかりやすい文章で伝えることができる。【汎用的技能(1)】 ② 情報を収集・整理したうえで、論理的な思考にもとづいた文章を書くことができる。【汎用的技能(2)】 ③ グループワークを通じて他者と協力して課題に応えることができる。【汎用的技能(3)】						
授業計画	第01回 授業概要の説明と自己紹介 第02回 松蔭manaba／Zoomの使い方 [PC必携] 第03回 キャンパスツアー 第04回 図書館オリエンテーション 第05回 エッセイを書く [PC必携] 第06回 ここまでの振り返り／事実と意見 [PC必携] 第07回 レポートの書き方①作成手順 [PC必携] 第08回 レポートの書き方②主題の設定 [PC必携] 第09回 レポートの書き方③先行研究の整理 [PC必携] 第10回 論文の構成 [PC必携] 第11回 資料の収集・整理／引用の仕方（研究倫理） [PC必携] 第12回 資料の分析 [PC必携] 第13回 論文のパラグラフ [PC必携] 第14回 論文における文章表現 [PC必携] 第15回 論文の執筆 [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 授業に関する重要語句などを予習する。（学習時間：2時間） 授業後学習： 授業内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）						
授業方法	<BYOD対象科目>演習形式。簡単なグループワークをする機会を設けることがある。						
評価基準と評価方法	期末レポート 50%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているかで評価する。到達目標(1)および(2)の到達度を確認。 授業内課題 20%： 授業中に課した課題の内容・文章の技巧を評価する。到達目標(1)の到達度を確認。 授業態度 30%： 授業に対する意欲やグループワークへの参加の積極性を評価する。到達目標(3)の到達度を確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がなければ単位の認定はできない。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	資料の調査・探究と効果的な発表の方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要となる基礎知識や技能を身につける。文献資料の探索やデータベースでの調査、研究倫理、発表資料の作成、聴衆の前での発表に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文献資料の探索やデータベースで調査したことを発表資料にまとめることができる。【汎用的技能(2)】</li> <li>② 作成した資料を使って、聴衆にわかりやすく訴えかけることができる。【汎用的技能(1)】</li> <li>③ 他者の発表を聞いて、内容を批判的に検討することができる。【汎用的技能(3)】</li> </ul>						
授業計画	第01回 前期レポートのフィードバック (1) 全体的な講評 第02回 前期レポートのフィードバック (2) 改善点の指摘/研究倫理に関する動画視聴 [PC必携] 第03回 論文探索法・資料の探し方 [PC必携] 第04回 資料収集 [PC必携] 第05回 課題の決定 [PC必携] 第06回 要約の仕方 [PC必携] 第07回 要約文作成 [PC必携] 第08回 Wordの使い方 [PC必携] 第09回 レジюме作成 [PC必携] 第10回 レジюме提出 [PC必携] 第11回 発表1 [PC必携] 第12回 発表2 [PC必携] 第13回 発表3 [PC必携] 第14回 発表4 [PC必携] 第15回 まとめ・発表予備日 [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の前後で、文献精読や資料作成など発表に向けた準備を行う。(学習時間:4時間)						
授業方法	<BYOD対象科目>演習形式。発表の機会を設ける。						
評価基準と評価方法	発表資料と発表内容 80% : Wordを使って作成した発表資料とそれもとづく発表の内容で評価する。到達目標 (1) および (2) の到達度を確認。 授業態度 20% : 授業に対する意欲や他者の発表に対する評価への積極性を評価する。到達目標 (3) の到達度を確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がなければ単位の認定はできない。 授業中の作業には積極的に参加すること。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	資料の調査・探究と効果的な発表の方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要となる基礎知識や技能を身につける。文献資料の探索やデータベースでの調査、研究倫理、発表資料の作成、聴衆の前での発表に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	① 文献資料の探索やデータベースで調査したことを発表資料にまとめることができる。【汎用的技能(2)】 ② 作成した資料を使って、聴衆にわかりやすく訴えかけることができる。【汎用的技能(1)】 ③ 他者の発表を聞いて、内容を批判的に検討することができる。【汎用的技能(3)】						
授業計画	第01回 前期レポートのフィードバック (1) 全体的な講評 第02回 前期レポートのフィードバック (2) 改善点の指摘/研究倫理に関する動画視聴 [PC必携] 第03回 論文探索法・資料の探し方 [PC必携] 第04回 資料収集 [PC必携] 第05回 課題の決定 [PC必携] 第06回 要約の仕方 [PC必携] 第07回 要約文作成 [PC必携] 第08回 Wordの使い方 [PC必携] 第09回 レジюме作成 [PC必携] 第10回 レジюме提出 [PC必携] 第11回 発表1 [PC必携] 第12回 発表2 [PC必携] 第13回 発表3 [PC必携] 第14回 発表4 [PC必携] 第15回 まとめ・発表予備日 [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の前後で、文献精読や資料作成など発表に向けた準備を行う。(学習時間:4時間)						
授業方法	<BYOD対象科目>演習形式。発表の機会を設ける。						
評価基準と評価方法	発表資料と発表内容 80% : Wordを使って作成した発表資料とそれもとづく発表の内容で評価する。到達目標 (1) および (2) の到達度を確認。 授業態度 20% : 授業に対する意欲や他者の発表に対する評価への積極性を評価する。到達目標 (3) の到達度を確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がなければ単位の認定はできない。 授業中の作業には積極的に参加すること。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学講読						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72220
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を享受した上で、その文化史的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に90時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。 必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「文化史的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。 その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	山前謙 編『文豪の探偵小説』集英社文庫 ISBN 978-4087460995						
参考書	授業中に適宜指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学史						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J72140
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解し、その文学史的意味、現代的な意義を享受することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習し、授業中に指示した本文テキストを精読しておくこと。関連する作品を数多く読む必要があるため、自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式。必要に応じて各自の読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業をする。適宜、松蔭manabaの「コースニュース」を使用する。						
評価基準と評価方法	到達目標への達成度を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学特殊講義						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J73370
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	夏目漱石『坊ちやん』の研究						
授業の概要	夏目漱石の諸作品、特に『坊ちやん』をメインテーマとし、各論文の問題点、課題を検討する。併せて、漱石および、その他の作家の諸作品、文学思潮、文学理論等についても、最新の情報、最新の研究成果を盛りこみ、大学院生諸君の知見を広める。						
到達目標	高校までの国語と、大学以降で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 漱石の時代 第3回 漱石の作風 第4回 『坊ちやん』の世界 第5回 『坊ちやん』の人物 第6回 『坊ちやん』のドラマ化 第7回 観光資源としての『坊ちやん』 第8回 メディアの『坊ちやん』 第9回 『坊ちやん』の翻訳 第10回 中央と地方 第11回 鉄道の文学 第12回 ミステリーの世界 第13回 新しい漱石像 第14回 今後の課題 第15回 総まとめガイダンス						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	数多くの文学作品を読み、関連する映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、文学作品の魅力を説得力のある形で主体的に発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するために筆記試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	夏目漱石全集2 ちくま文庫 ISBN:4-480-02162-0						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学の基礎						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72210
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を享受した上で、その文化史的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「文化史的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程を把握するために日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	山前譲 編『文豪の探偵小説』集英社文庫 ISBN 4087460991						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学の研究						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J73360
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた物語						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの種類を含む)を中心にして、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	文学作品や映画、ドラマの新たな魅力を発見することにより、その文化史的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 小説を読むこと 第3回 ドラマ・映画を見ること 第4回 梶尾真治の世界 第5回 タイタニック 第6回 ある日どこかで 第7回 時空を超える旅 第8回 タイムパラドックス 第9回 オーロラの彼方へ 第10回 鉄道員 第11回 この胸いっぱいのお愛を 第12回 ビューアーな愛の物語 第13回 フォーエバー・ヤング 第14回 旅と文学・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、講読的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づければよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「文化史的意味、現代的な意義を享受、理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	梶尾真治『つばき、時跳び』(徳間文庫) ISBN: 978-4-19-894299-1						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	行書法						
担当教員	小出水 博					科目ナンバ-	J71430
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆の理解と習得 行書の古典作品の臨書と行書創作作品制作						
授業の概要	行書の特徴を理解し、用筆法を学習する。 行書の古典作品を臨書するとともに歴史的背景も理解する。 臨書学習の技法を活かし、行書の創作作品制作へつなげる。						
到達目標	①行書の基本知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②行書の基本用筆法や古典臨書を習得し、創作につなげることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③古典臨書により歴史的背景を理解することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：ガイダンス(用具、授業内容の説明) 行書の特徴と表現法を硬筆で体験 第2回：行書演習 王羲之『蘭亭序』① 結構法を学ぶ 半紙四字臨書 第3回：行書演習 王羲之『蘭亭序』② 結構法を学ぶ 半紙六字臨書 提出作品制作 第4回：行書演習 王羲之『蘭亭序』③ リズムを学ぶ 半紙四字臨書 第5回：行書演習 王羲之『蘭亭序』④ リズムを学ぶ 半紙六字臨書 提出作品制作 第6回：行書演習 王羲之『蘭亭序』⑤ 構成、余白を学ぶ 半切臨書 第7回：行書演習 王羲之『蘭亭序』⑥ 構成、余白を学ぶ 半切臨書 提出作品制作 第8回：行書演習 中国(北宋、明、清時代)および日本の行書古典作品を学ぶ (歴史的背景の理解) 第9回：行書演習 王鐸の古典を学ぶ① 半紙六字臨書 第10回：行書演習 王鐸の古典を学ぶ② 半紙六字臨書 提出作品制作 第11回：行書演習 王鐸の古典を学ぶ③ 半切臨書 第12回：行書演習 王鐸の古典を学ぶ④ 半切臨書 提出作品制作 第13回：行書演習 半紙創作作品制作① 構成を学ぶ(余白、文字の大小) 第14回：行書演習 半切創作作品制作② 表現を学ぶ(墨の濃淡) 第15回：行書演習 半切創作作品制作③ 提出作品制作						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：次時の内容に関して下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業時に表現できなかった技法を次時までで復習しておく。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義：各回講義で扱う古典の解説を行う。 実技：行書技法を理解し、臨書および創作の作品制作を行う。						
評価基準と評価方法	平常点(作品制作への取り組み、態度)20%：到達目標①の到達度確認 レポート、小テスト(古典臨書や歴史的背景の理解)30%：到達目標②③の到達度確認 提出作品(書技法と表現法)50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品は毎時添削を行う。						
履修上の注意	書道用具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 第2回からの講義に書道用具一式を持参する。 授業での作品成果を発表する場(作品展)を行う予定である。						
教科書	中国法書選⑮ 蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之/行書] 二玄社 ISBN：978-4544005158						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバ-	J73640
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	<p>広告の手法を理解し説明することができるようになります。（知識・理解）          広告を立案し、文章制作、編集することができるようになります（汎用的技術）          自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現することができます。（態度・志向性）、          自分の意見を、相手にうまく伝えることができるようになります。（態度・志向性）          また、ものごとの本質を見極める力、他者へ共感する力を育て、これらで社会に貢献することができます。（態度・志向性）</p>						
授業計画	<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。</li> <li>2. 自己紹介を広告的にしてみよう ※広告のコミュニケーション法</li> <li>3. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。</li> <li>4. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。</li> <li>5. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。</li> <li>6. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。</li> <li>7. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？</li> <li>8. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？</li> <li>9. 表現アイデアとその発想法。 ※どう訴えるか？</li> <li>10. ターゲットの選定とポジショニング ※誰に訴えるか？</li> <li>11. 広告プランニング演習（新聞広告） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。</li> <li>12. 広告プランニング演習（TVCF） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。</li> <li>13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。</li> <li>14. クリエイターの現場（ゲストスピーカーによる講義） ※実勢の制作とは？</li> <li>15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習として、ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。（90分）事後学習として、授業で学んだ広告理論等が、どのように社会で反映されているかを検証してみましょう。（90分）						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						
教科書	なし						
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』（株）電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザインーコミュニケーションをデザインする』（株）電通						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆						
担当教員	小出水 博					科目ナンバ-	J71420
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	①文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 日常生活で美しい字を書くことを意識できるようになる。【汎用的技能】 ②漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 第2回 楷書体について 第3回 行書体について 第4回 楷書体と行書体を書き分ける 第5回 平仮名と片仮名について 第6回 縦書きと横書きについて 第7回 はがき、手紙について 第8回 掲示文の書き方について 第9回 質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 第10回 筆ペンによる実用書—基本用筆について 名前を書く 第11回 筆ペンによる実用書—熨斗書について 第12回 筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 第13回 手紙を書く—手紙文の書き方①(草稿) 第14回 手紙を書く—手紙文の書き方②(清書) 第15回 手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	講義前準備学習：各講義で扱う内容を確認し、実際に書いて予習してくる。(学習時間2時間) 講義後学習：講義で学んだ内容を自宅でも確認、練習する。 理論に関しては、小テストを行うのでしっかりと復習してくる。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義：各講義で扱う内容の解説をはじめの約30分で行う。小テストを行うこともある。 実技：各自で練習問題に取り組む。						
評価基準と評価方法	提出作品50% 到達目標①の到達度確認 小テスト30% 到達目標②の到達度確認 平常点20% 取り組み姿勢 課題に関するフィードバック 作品は毎時添削を行い、小テストは次時に採点をして返却する。						
履修上の注意	書道実技(硬筆) 1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技(硬筆) 2限は硬筆書写検定2級受験レベル それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。 毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。 私語は慎む。携帯電話のマナーは厳守する。						
教科書	『令和五年度 硬筆書写検定1・2級合格のポイント』日本習字普及協会 ISBN:9784819503594 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	広報広告と社会						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J72600
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	<p>広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指す。私たちはふつう広告や広報を受け取る側において、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどない。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけている。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告表現、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。実際にテレビCMやネット広告、クリエイターの仕事、広報活動などを見ながら解説していく。</p>						
到達目標	<p>（1）広告や広報の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告・広報を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができる。【知識・理解】</p> <p>（2）実際の広告物を専門用語を使って分析できる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨン</li> <li>2 広告とは何か</li> <li>3 マーケティングと広告</li> <li>4 広告主と広告会社</li> <li>5 広告費</li> <li>6 広告表現①：比較広告</li> <li>7 広告表現②：アートディレクターの仕事</li> <li>8 広告表現③：映画の予告</li> <li>9 広告媒体</li> <li>10 広告関連の法規と規制</li> <li>11 インターネット広告</li> <li>12 広報（PR）の基本</li> <li>13 地域社会と広報</li> <li>14 広告を楽しむ：広告鑑賞</li> <li>15 授業のまとめと小テスト</li> </ol> <p>※授業資料はデータで配布するため、毎回【PC必携】。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関する広告を下調べする。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>〈BYOD対象科目〉</p> <p>講義形式。簡単なグループワークをする機会を設けることがある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末課題（レポート＋小テスト） 70%： 授業で学習した概念を理解し、それを踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述的的確さを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	<p>岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論 [新版]』、有斐閣、2008年</p> <p>日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学史						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J72130
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	時間を軸に日本古典文学の全般を見渡し、古典作品の歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	歴史の変化の中で、どのような文学が生み出されてきたか、その特質を講義する。						
到達目標	(1) 古典文学史について理解し、その流れをおおよそ説明できる。【知識・理解】 (2) 個々の代表的な古典文学作品の名称・作者・ジャンル・内容などの特徴について説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 文学史の基礎的理解法 時代区分とジャンル 第2回 上代の文学① 歴史を描く 『古事記』『日本書紀』 第3回 上代の文学② 韻文 『万葉集』 第4回 上代の文学③ 韻文 『万葉集』から『古今和歌集』へ 第5回 中古の文学① 散文 日記が文学に ・ 随筆 第6回 中古の文学② 散文 物語文学の展開① 『源氏物語』まで 第7回 中古の文学③ 散文 物語文学の展開② 『源氏物語』以降 第8回 中古の文学④ 散文 中世への架け橋 『今昔物語集』と『大鏡』 第9回 中世の文学① 韻文 和歌から連歌、連句へ 第10回 中世の文学② 散文 軍記物語 ・ 随筆 第11回 中世の文学③ 芸能 能と狂言 第12回 近世の文学① 市民の文学 井原西鶴から読本へ 第13回 近世の文学② 市民の文学 松尾芭蕉と俳諧 第14回 近世の文学③ 芸能と国学 近松門左衛門と本居宣長 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 古典文学史の大きな流れを教科書とプリントで整理しておく。〈2時間〉 授業後学習： 教科書とプリントで成立年代とジャンル、作者や内容の特徴など説明できるように復習する。〈2時間〉						
授業方法	講義を理解し、文学史の流れと個々の作品の歴史的な特質についての理解をより深めるため、授業内容に関する分かち合い（ディスカッション）やプレゼンテーションにも取り組む。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1) (2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1) (2)に関する到達度の確認。 取り組み姿勢 10% 到達目標(1) (2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	範囲を示した上で小テストも実施する。 3分の2以上出席に満たない者は期末試験を受ける資格が無いものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』秋山 虔、三好行雄(文英堂) ISBN-13 : 978-4578271925 必要に応じ、適宜プリントを配布する。						
参考書	『日本文学新史』 全6巻 至文堂						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学特殊講義						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J73350
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『枕草子』講読						
授業の概要	女流文学、随筆文学の最高峰である『枕草子』について講義を行う。 現実をリアルに、みずみずしい感性で人間・文化・自然を描ききる個性で多くのファンを魅了し続ける作者清少納言の表現力は、現代のわたしたちにとっても学ぶところが多く、『枕草子』は『源氏物語』とともに、日本文学を学ぶ大学生が一度は味わってみたい作品です。						
到達目標	(1) 『枕草子』を生んだ作者、社会環境について説明できる。【知識・理解】 (2) 作品の理解に必要な文法・語彙力と生活文化の常識を踏まえ、『枕草子』を原文で読解して味わうことができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 『枕草子』についての概説 第2回 類聚的章段① 「～は」① 「木の花は」34段 第3回 類聚的章段② 「～は」② 「鳥は」38段 ・ 「虫は」40段 第4回 類聚的章段③ 「～もの」① 「にくきもの」23段 第5回 類聚的章段④ 「～もの」② 「なまめかしきもの」85段 ・ 「はづかしきもの」120段 第6回 類聚的章段のまとめ 第7回 日記的章段① 「大進生昌が家に」5段 第8回 日記的章段② 「宮の五節出させたまふに」86段 第9回 日記的章段③ 「方弘は」104段 ・ 「関白殿、黒戸より」125段 第10回 日記的章段のまとめ 第11回 随想的章段① 「春は曙」1段 ・ 「ころは、正月、三月、」2段 第12回 随想的章段② 「思はむ子を法師に」4段 ・ 「生い先なく」21段 第13回 随想的章段③ 「七月ばかりに、風いたう」41段 ・ 「暁に帰らむ人」60段 ・ 「卯月のつごもり方に」110段 第14回 随想的章段のまとめ 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 次の授業で触れる内容について、口語訳を頼りに原文を読み、読解に必要な古典文法を学習し古語の意味を調べて覚えておく。〈2時間〉 授業後学習： 授業で触れた部分について、原文だけで味わえるよう読み込むと同時に、古文単語・古典文法や古典常識を定着させる。〈2時間〉						
授業方法	原文の読解に関する講義。 内容の理解と鑑賞を互いに分ち合い深めるため、ディスカッションやプレゼンテーションに取り組む。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 取り組み姿勢 10% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない場合は、期末試験を受ける事はできない。						
教科書	石田 穰二『新版 枕草子 上巻 現代語訳付き』（角川文庫） ISBN-13：978-4044026011						
参考書	石田穰二『新版 枕草子 下巻 現代語訳付き』（角川文庫） 田中重太郎『枕草子全注釈』（角川書店） 萩谷 朴『枕草子解環』（角川書店（同朋舎）） 新編日本古典文学全集『枕草子』（小学館）						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	古典文学の基礎						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J72190
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』須磨・明石の講読						
授業の概要	世界規模で知られる日本古典文学の代名詞『源氏物語』を講読する。とくに神戸の地の利を生かせる二つの巻を取りあげる。 担当者に発表してもらう演習形式を併用する。 光源氏の政治家としての挫折、都に残した最愛の妻と新たな女性との出会いが生み出す、登場人物たちの心の変化には、古さを感じさせない読み応えがある。 なお、並行して読解に必要な単語・文法(特に用言の活用と助動詞(活用・接続・意味)と敬語)と古典常識に関する小テストを実施する。						
到達目標	(1) 『源氏物語』の特質が説明できる。【知識・理解】 (2) 『源氏物語』を原文で読み味わうことができる。【知識・理解】 (3) 『源氏物語』に現れる基礎単語・文法・古典常識を理解し、説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 『源氏物語』の全体と、作品の冒頭から須磨巻シーン12までの主な内容。 第2回 シーン13 紫の上との別れ ・ シーン14 須磨下向 第3回 シーン15 須磨の住まい ・ シーン16 京に使者 第4回 シーン17 紫の上の思慕 ・ シーン18 入道の宮の返事 第5回 シーン19 尚侍の返事 ・ シーン20 紫の上の返事 第6回 シーン21 伊勢の御息所の手紙 ・ シーン23 花散里の手紙 第7回 シーン23 尚侍の参内 ・ シーン24 須磨の秋 第8回 シーン25 源氏の絵 ・ シーン26 須磨で人々の歌 第9回 シーン27 須磨の八月十五夜 ・ シーン28 大弐の上京 第10回 シーン29 五節と贈答 ・ シーン30 弘徽殿の怒り 第11回 シーン31 紫の上の生活 ・ シーン32 須磨の生活 ・ シーン33 須磨の冬 第12回 明石巻シーン13 八月十三夜、女を訪問 第13回 シーン14 紫の上に報告 ・ シーン15 人々の嘆き 第14回 シーン16 源氏召還の宣旨 ・ シーン17 別れを惜しむ 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 次の授業で触れる内容について、口語訳を頼りに原文を読み、読解に必要な古典文法と古文単語の意味を調べて覚えておく。<2時間> 授業後学習: 授業で触れた部分について原文だけで味わえるよう読み込むと同時に、授業で学習した古文単語・文法・古典常識を定着させる。<2時間>						
授業方法	所定のテキストを読解の際、共有する必要がある。 発表者は読み取った所見を参加者が理解しやすいよう整理し、積極的にPCなど情報機器を活用する。 参加者全員は発表内容について積極的に分かち合うことを通じて、互いのプレゼンテーション・ディスカッション能力の向上を目指す。						
評価基準と評価方法	試験(期末試験と小テスト) 60% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 担当発表 30% 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 平常点 10% 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	各自に担当発表を課す。発表に際し、資料作成に必要な情報機器取り扱いのスキルを生かす。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない者は期末試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	玉上琢也『源氏物語(3)付現代語訳』(角川文庫) ISBN-13 : 978-4044024031						
参考書	玉上琢也『源氏物語評釈』全8巻(角川書店) 新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館) 池田亀鑑『源氏物語事典』(東京堂出版) 北山谿太『源氏物語辞典』(平凡社)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学の研究						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J73340
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今和歌集』の研究						
授業の概要	『古今和歌集』を対象とした講義をする。 『万葉集』以降に衰えた日本語の文学を復興し、独特な美質を確立して和歌文学の一翼を担い、現在にまで強い影響を与え続ける『古今和歌集』について、理解を深める。						
到達目標	(1) 古典和歌の文法・語彙や修辞法を理解し、和歌の内容を説明できる。【知識・理解】 (2) 『古今和歌集』の特質について理解し、説明できる。【知識・理解】 (3) 『古今和歌集』の特質の一つである古写本への興味を深め、古典籍への関心を表現し積極的に関わることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入 『百人一首』から『古今和歌集』へ 第2回 作者① 詠み人知らずの時代と平仮名の成立 第3回 作者② 六歌仙 第4回 作者③ 晴れの場での活躍 : 歌合と屏風歌 第5回 作者④ 撰者 第6回 内容① 八代集の中の『古今和歌集』 第7回 内容② 『古今和歌集』の構成上の特徴 第8回 内容③ 春夏の部 第9回 内容④ 秋冬の部 第10回 内容⑤ 恋の部① 第11回 内容⑥ 恋の部② 第12回 内容⑦ その他の部立て 第13回 影響① 平安時代から中世へ 第14回 影響② 近世から現代、そして未来への展望 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 次回テーマについて指示した本文を口語訳をたよりながら読み、読解に必要な古典文法や古文単語を調べておく。〈2時間〉 授業後学習: 授業で学んだ和歌について必要な古典文法・古文単語をインプットして味わえるようにする。授業で提示した古写本の文字を翻字して、くずし字が読めるようになる。〈2時間〉						
授業方法	『古今和歌集』について講義する。 併せて、内容の理解を参加者の中で一層深めるため、グループワークや分かち合いを取り入れた演習も行う。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 取り組み姿勢 10% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	高田祐彦『新版 古今和歌集 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫) ISBN-13 : 978-4044001056						
参考書	新潮日本古典集成『(新装版) 古今和歌集』(新潮社) 新編日本古典文学全集『古今和歌集』(小学館) 片桐洋一『古今和歌集全評釈』全3巻(講談社学術文庫) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典: 増訂版』(笠間書院)						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古文講読						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72200
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典講読を通して、書誌学、国文法、日本文化の理解を深める。						
授業の概要	各受講者が演習発表で取り上げる古典作品をひとつ選んだのち、まずは、古典に関する書誌学的知識を身に付ける。次いで、影印本の翻刻、古典日本語の直訳、難解語句の注釈を行ない、講読資料を作成する。更には、発表担当者と受講者との質疑応答を通じて、話す力と聞く力を向上させる。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 古典に関する書誌学知識を身に付けている。</p> <p>b. 崩し字が読める。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 他者と意見交換や議論ができる。</p> <p>b. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。</p> <p>c. 国文法の基礎を理解し、古典読解や日本語理解に役立てることができる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 現行古典テキストと影印本との比較</p> <p>03: 書誌情報の確認</p> <p>04: 影印本の翻刻</p> <p>05: 文節単位の分かち書き</p> <p>06: 古典日本語から現代日本語への直訳</p> <p>07: 講読: 翻刻方針の再確認</p> <p>08: 講読: 直訳と意識との違い</p> <p>09: 講読: 文の構造</p> <p>10: 講読: 文節の構造</p> <p>11: 講読: 名詞の構造</p> <p>12: 講読: 動詞の活用</p> <p>13: 講読: 形容詞の活用</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習(毎週2時間): 教員の指導を踏まえて、講読資料を作成。</p> <p>(2) 授業後学習(毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p> <p>(3) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標(1, 3)の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>読み手に配慮した講読資料を作成し、古典講読を円滑に進めたか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標(2, 3)の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	無し。						

参考書	清瀬 義三郎 則府 (1971) 「連結子音と連結母音と：日本語動詞無活用論」 『國語學』 86、pp. 42-56、國語學會 小田 勝 (2015) 『実例詳解 古典文法総覧』 和泉書院 児玉 幸多 (編) (1970) [2013] 『くずし字解説辞典 普及版』 東京堂出版 児玉 幸多 (編) (1981) [2011] 『くずし字用例辞典 普及版』 東京堂出版 飯倉 洋一 (編) (2017) 『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習アプリKuLAの使い方』 笠間書院
-----	---

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	茶道文化と美術						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ	J72500
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本における喫茶文化の歴史の変遷と、美的意識や精神性の形成と展開を概観する。						
授業の概要	喫茶文化である茶道は、様々な日本の伝統文化と密接に関わりを持ちながら、総合芸術・総合文化へと発展した。中国から伝来した喫茶習慣が日本特有の文化へと昇華していく歴史の変遷を概観するとともに、茶道における美意識や精神性などを通して日本の伝統文化の特質を美術的観点からも考察する。						
到達目標	(1)関連する様々な事象の知識とともに、「喫茶」における日本の伝統文化のあり方や美的な傾向について深く理解することができる。【知識・理解】 (2)「茶道」という芸道文化を切り口に、日本の伝統文化の特色を考察し、次世代の人々や諸外国の人々に紹介することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクションー「お茶」とは何かー 第2回 茶の種類と日本への伝来 第3回 南北朝・室町期の「点茶」ー会所の茶、茶寄合(鬪茶)、門前の茶屋ー 第4回 「茶の湯」の始まりと千利休にみるわび茶の美意識 第5回 点茶法と茶道具にみる用の美 第6回 茶事の構成ー炭・懐石料理・菓子と濃茶・薄茶ー 第7回 総合芸術・総合文化としての茶道①ー華道、香道、書、文房四宝との関わり 第8回 総合芸術・総合文化としての茶道②ー懐石料理、菓子、茶室建築、露地 第9回 総合芸術・総合文化としての茶道③ー茶道具(陶磁器、漆器、金工、竹工) 第10回 総合芸術・総合文化としての茶道④ー仏教、儒教、道教、キリスト教との関わり 第11回 総合芸術・総合文化としての茶道⑤ー文学(源氏物語、新古今和歌集、俳諧など)との関わり 第12回 武家の茶と家元制度 第13回 煎茶の流行と文人趣味 第14回 「茶の湯」の近代化ー女性教育と茶道、近代数寄者ー 第15回 茶道文化と美術のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：第1回の授業で指示された、毎授業ごとの教科書の指定ページを読了しておき、図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、「茶の湯」「茶道」に関連した新聞記事やテレビの特別番組、美術館の公式SNSなどを読んだり視聴したりすること。近隣の博物館・美術館で開催される「茶道に関する歴史や美術」などの展覧会を観覧することなども、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。また、茶道をより深く理解するためには点茶(抹茶を点てる)経験は有効であるので、デモンストラーションや簡易体験を取り入れていく。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料類への対処などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%：毎回の小テストや出題したレポート課題に対する、内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数の3分の2以上になるように心がけること。 (2)配布したレジメなどは可能ならばファイリングし、毎回の授業に持参すること。 (3)近隣の博物館等の茶の湯などの展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。 (4)授業内容は茶道文化検定3級の出題範囲をカバーしており、小テストでは過去の検定問題などを出題するので、検定受験を希望する人は参考書欄の『茶の湯がわかる本』も入手することが望ましい。						
教科書	『茶の湯と日本文化ー飲食・道具・空間・思想からー』神津朝夫著 淡交社(2012) ISBN:978-4-473-03849-4 なお、各回の授業ごとにレジメや資料類を適宜配布する。						
参考書	『茶の湯がわかる本』第2版 茶道資料館監修 淡交社〔2023.2〕ISBN978-4-473-04468-6 『茶道具の鑑賞と基礎知識』茶道資料館編 淡交社〔2002〕ISBN:978-4-473-01862-5 『茶道聚錦』(全13巻)小学館〔1983-87〕ISBN:978-4-093-84001-9 ほか 『裏千家今日庵歴代』第一巻：利休宗易 千宗室監修 淡交社〔2008〕ISBN:978-4-473-03451-9						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J73270
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、方言調査結果の集計と分析の方法について体系的に学び、分析結果を発表する。						
到達目標	(1)調査した結果から、データを整理し、客観的な分析ができるようになる。【汎用的技能(2)】 (2)分析結果を、説得力のある形で発表できるようになる。【汎用的技能(1)】 (3)発表に対して、積極的に質疑できるようになる。【汎用的技能(3)】						
授業計画	第1回 ガイダンス [PC必携] 第2回 調査結果の管理方法 [PC必携] 第3回 表計算ソフトでの集計方法 [PC必携] 第4回 データ入力 [PC必携] 第5回 入力データの見直し [PC必携] 第6回 調査結果の分析方法 [PC必携] 第7回 各グループの分析方法の検討・確認 [PC必携] 第8回 データ分析 [PC必携] 第9回 データ分析(前回の続き) [PC必携] 第10回 発表内容と方法の検討 [PC必携] 第11回 中間発表 [PC必携] 第12回 発表内容と方法の見直し [PC必携] 第13回 最終発表(前半グループ) [PC必携] 第14回 最終発表(後半グループ) [PC必携] 第15回 まとめ [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業計画前半のデータ入力やデータの分析は授業時間外での作業が必須となる。(学習時間:授業前後各2時間) また、授業計画後半の結果発表に際しては、発表内容の検討を授業時間内で行い、それに従って授業外でも資料の作成を行う。(学習時間:授業前後各2時間)						
授業方法	<BYOD対象科目> 演習形式 個別の課題について調査や分析を行い、発表する(履修者数によっては、グループワークとなることもありうる)。 そのうち、発表内容について全員でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	毎回のレポート(分析の進捗状況の報告)30%(到達目標(1)に関する到達度の確認) 最終発表(質疑含む)・レポート70%(到達目標(2)(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・履修者数によってはグループワークの可能性もあるため、共同作業の責任を負えない者は履修を控えること。 ・前期の「社会言語学調査法」にて調査した結果を分析・考察するため、これを併せて履修できない者は、履修を控えること(応相談)。 ・2/3以上の出席に満たない者は、最終発表の資格を失う。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学調査法						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J73260
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学び、授業の後半あるいは夏休みに実際に方言調査を実施する。						
到達目標	(1) 調査内容をよく理解したうえで、的確な調査票を作成できるようになる。【知識・理解(1)および汎用的技能(2)】 (2) 方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。【汎用的技能(3)および態度・志向性(2)】						
授業計画	第1回 ガイダンス [PC必携] 第2回 兵庫県の方言概説 (区画、音声・音韻) [PC必携] 第3回 兵庫県の方言概説 (アクセント) [PC必携] 第4回 兵庫県の方言概説 (文法) [PC必携] 第5回 兵庫県の方言概説 (待遇表現) [PC必携] 第6回 これまでの調査結果 [PC必携] 第7回 おおまかな調査内容検討 [PC必携] 第8回 調査方法検討 [PC必携] 第9回 質問内容検討 [PC必携] 第10回 質問内容検討・調査票作成 [PC必携] 第11回 模擬調査 [PC必携] 第12回 模擬調査 [PC必携] 第13回 模擬調査 [PC必携] 第14回 調査票完成 [PC必携] 第15回 調査票の概要作成 [PC必携]						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	調査票の作成には、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。調査目的に合わせて作成し、授業時に検討。検討結果を持ち帰り、調査票の改良に取り組む。(学習時間: 授業前・後各2時間) このサイクルでより良いものを目指してほしい。						
授業方法	<BYOD対象科目> 講義形式と演習形式をミックスさせた方法をとる。 第2～6回: 前年までの調査の結果や資料をもとに講義を行う。 第7回以降は、調査票を作成し発表 (模擬調査) する演習形式とする。なお、これは履修者数によってはグループワークを行うこともありうる。 (夏休みにフィールドワークを行う)						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 (授業時の質疑応答、調査時の態度含む) 40% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 発表・レポート (調査票含む) 60% (到達目標(1)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・8月初旬に朝来市近辺で2泊の方言調査を実施するので、参加することが望ましい (要宿泊費・交通費)。 調査に参加できない者、調査票作成にかかわる共同作業に責任を負わない者は、履修を控えること。 ・後期の「社会言語学演習」を合わせて履修できない者は、履修を控えること (応相談)。 ・2/3以上の出席に満たない者は、最終評価の資格を失う。  ※新型コロナウイルス感染症の影響、あるいは先方の都合によって予定の調査が不可能となる可能性もある。その場合、代替措置を講ずる。 授業の初回に諸々の説明を行うので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。						
教科書	指定しない。必要な場合はプリント (PDF) を配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	社会言語学の基礎						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J72550
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の位相差を知る						
授業の概要	たとえば同じ内容のことを表現する場合でも、それを使う人の出身地や住む場所、年齢、社会階層、言語意等の違いによって言語にはさまざまな変種があり得る。この講義では、そのようなことばのバリエーションに注目し、その解を深めることを目指す。主に前半では地域差に注目し、後半はその他の位相差を取り扱う。						
到達目標	(1)日本語の位相差に関する基礎的知を身につけ、それを説明できる(知識・理解(1)) (2)日本語の位相差に関するデータを観察することで、正しい分析結果を導き出すことができる(汎用的技能(2))						
授業計画	第1回: 社会言語学の研究域【対面】 第2回: 方言のさまざまな分布と解釈【対面】 第3回: 発音の地域差【遠隔】 第4回: アクセントの地域差【遠隔】 第5回: 文法の地域差(1)―活用の地域差など―【遠隔】 第6回: 文法の地域差(2)―助詞の地域差など―【遠隔】 第7回: 待遇表現の地域差【遠隔】 第8回: ここまでのまとめ【遠隔】 第9回: 言語と属性(1)―性―【遠隔】 第10回: 言語と属性(2)―年齢差―【遠隔】 第11回: 言語と属性(3)―役割語―【遠隔】 第12回: 言語と属性(4)―年齢・世代による変化―【遠隔】 第13回: 言語景観【遠隔】 第14回: 言語と文化【遠隔】 第15回: 総括【対面】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前: 授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。(学習時間: 2時間) 授業後: 授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	<遠隔指定授業> 講義: Zoomを用いた講義形式だが、受講者にgoogleフォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、毎回松蔭manabaを使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。テストもmanaba上で行う。						
評価基準と評価方法	小テスト30% (到達目標(1)に関する到達度の確認) 中間試験35% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 期末試験35% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・基本的にはカメラやマイクはOFFでかまわないが、ONにすることを求める場合がある。すみやかに応じる用意をしておくこと。 ・積極的に授業に参加すること。こちらからの問いかけには積極的に応じることを求める。						
教科書	プリント(PDFまたはWordファイル)を配布する。						
参考書	木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 編著『方言学入門』(2013、三堂) 小隆・篠崎晃一編『方言の発一知られざる地域差を知る』(2010、ひつじ書房)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書とデザイン						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J73410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	現代における「書」と「デザイン」の関係について考える						
授業の概要	いかに伝統的な「書」を日常生活に取り入れたり、商業的なデザインとして活用することができるかを考える。また、書をとおした社会貢献について考える。						
到達目標	①書とデザインの関係について、自分の言葉で語るができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②日常生活に取り入れたり、「商品」などにふさわしいデザイン作品を、意図を明確にして制作することができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業の進め方について）【PC必携】 2) 「書」と「デザイン」について【PC必携】 3) 作品A（テーマの設定）【PC必携】 4) 作品A（用具・用材）【PC必携】 5) 作品A（墨色・線質）【PC必携】 5) 作品A（構成）【PC必携】 7) 批評会（総合評価、次のテーマに向けて）【PC必携】 8) 作品B（用具・用材）【PC必携】 9) 作品B（墨色・線質）【PC必携】 10) 作品B（構成）【PC必携】 11) 批評会（総合評価、次のテーマに向けて）【PC必携】 12) 作品C（用具・用材）【ゲストスピーカーによる指導】【PC必携】 13) 作品C（墨色・線質）【PC必携】 14) 作品C（構成）【PC必携】 15) 批評会（総合評価、まとめ）【PC必携】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：制作テーマとなる題材、素材を考え、資料調査をすること。（学習時間：2時間） 授業後学習：次の作品に生かすことができるように、制作した作品の不足点を整理し、制作ノートにまとめること。（学習時間：2時間）						
授業方法	制作課題に取り掛かる前に講義を行う。 制作物について、目的、意義、課題などについてプレゼンテーションし、それについてディスカッションを行う。 制作する回では、実技指導を行う。 〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	テーマ設定と作品60%：到達目標②の到達度確認 取り組み態度20%：到達目標①②の到達度確認 制作ノート20%：到達目標①の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品やレポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展示会があれば鑑賞課題を設けることがある。 近隣商店の依頼にこたえる制作をとおして、地域連携を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。 テーマへの関心、実技能力の向上を常に意識しておく必要がある。 学科関連のイベントがあれば、それに即した制作を行うことがある。						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J73470
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	書に関する総合的な知識を習得し、現代社会における書の役割について考える。						
授業の概要	書に関わる基本的な事項を学習し、習得する。 長い歴史の中で、書がどのように考えられ、どのように鑑賞されてきたのかを学習する。 伝統的な書が、現代社会において、どのような役割を果たすことができるのかを考える。						
到達目標	①書を総合的に理解できる。【知識・理解】 ②書について自分自身の言葉で論じることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（授業内容や課題などの説明）、書に関わる諸分野について</li> <li>2) 書とは何か（書写と書道、作品について）</li> <li>3) 書道史について（中国と日本の書の歴史）</li> <li>4) 書はどのように考えられてきたのか①—中国の書論について</li> <li>5) 書はどのように考えられてきたのか②—中国の書論を読む</li> <li>6) 書はどのように考えられてきたのか③—日本の書論について</li> <li>7) 書はどのように考えられてきたのか④—日本の書論を読む（明治期以前）</li> <li>8) 書はどのように考えられてきたのか⑤—日本の書論を読む（明治期以後）</li> <li>9) 書の美について（書の美学、美的価値）</li> <li>10) 作品の鑑賞と制作について</li> <li>11) 文房四宝について</li> <li>12) 表具・作品の装丁について</li> <li>13) 書と他分野との関わりについて（文学、美術、工芸）</li> <li>14) 現代における書について（メディア表現としての書）</li> <li>15) まとめ、質疑応答、確認テスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：毎時、次時で取り扱う内容について予告するので、それについて下調べをすること。 （学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。 （学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p>						
授業方法	毎時、設定のテーマについての講義を行い。 理解、関心を深めるため、グループディスカッションを行う。 書や美術工芸に関わるものを制作する実習も行う。						
評価基準と評価方法	<p>平常点20%：授業態度</p> <p>テスト40%：到達目標①の到達度確認</p> <p>レポート40%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：テストは返却し、レポートは授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 受講者の人数によっては、文房四宝や表具などの体験型授業を行うことがある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業時に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書の作品制作						
担当教員	丸山果織・真鍋昌生・石井みや美					科目ナンバ-	J73520
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験をふまえて書作品を制作する。						
授業の概要	古典学習を踏まえた、基本的な書作品の制作を行う。その中で、各自が表現したいことを大切にすることは忘れない。制作手順を習得し、自らの作品を制作する。段階に応じ、個人に対して必要な助言・指導を行い、作品の完成へ導く。また、書と関わりの大きい水墨画や、書を引き立てる彩色についても学ぶ。さらに、作品にふさわしい印を制作する。						
到達目標	①自らの着想にもとづき、意図、書く内容、書体、書風、形式を明確にすることができる。【知識・理解】【態度・志向性】 ②①をもとに制作を進めることができる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 作品制作とは何か 【丸山】</li> <li>2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成） 【丸山】</li> <li>3) 作品制作A（集字、草稿） 【丸山】</li> <li>4) 作品制作A（助言、指導） 【丸山】</li> <li>5) 作品A発表、助言、指導 【丸山】</li> <li>6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀） 【真鍋】</li> <li>7) 書作品と印②（補刀、押印練習） 【真鍋】</li> <li>8) 作品制作B（集字・草稿） 【丸山】</li> <li>9) 作品制作B（助言・指導） 【丸山】</li> <li>10) 作品制作B（発表、助言・指導、作品Cに向けて） 【丸山】</li> <li>11) 作品制作C（書と水墨画～季節に応じた水墨画） 【石井】</li> <li>12) 作品制作C（書と彩色～季節に応じた彩色） 【石井】</li> <li>13) 作品制作C（展開） 【丸山】</li> <li>14) 作品制作C（押印の場所と押印） 【真鍋】</li> <li>15) 作品C発表、助言、指導、まとめ 【丸山】</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：実技添削物の復讐。（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p> <p>授業時間内での練習量では限界があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p>						
授業方法	<p>制作課題ごとに講義を行う。</p> <p>作品の意図について発表し、質疑応答を行う。</p> <p>制作時には、実技指導を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点（作品制作の取り組み姿勢）30%：到達目標①②の到達度確認</p> <p>制作ノート20%：到達目標①の到達度確認</p> <p>作品50%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、制作ノートについては授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。</p> <p>紙以外に、印材や顔彩などを購入する必要がある。（2,000円～3,000円程度）</p> <p>欠席するとその時間分の進行が遅れるので注意すること。</p> <p>印の制作や水墨画・彩色の授業は前後する可能性がある。</p> <p>関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。</p> <p>授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。</p> <p>書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。</p> <p>学科関連のイベントがあれば、それに即した制作を行うことがある。</p>						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71400
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：実技添削物の復習。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。 授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。						
授業方法	取り組む古典作品についての講義を行う。 質問を受け付けながら実技指導を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品は添削し、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/9784544005318 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/9784544005325 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71400
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：実技添削物の復習。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。 授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。						
授業方法	取り組む古典作品についての講義を行う。 質問を受け付けながら実技指導を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品は添削し、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/9784544005318 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/9784544005325 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	世界の近現代戯曲						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ	J72670
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。(レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について)						
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技(行動)分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較する。						
到達目標	①俳優の演技という視点から戯曲分析や上演分析を行う力を身につけ、応用できるようになる。(知識・理解) ②映像言語として俳優の動きの重要性とその役割をしっかりと自分の言葉で語るができるようになる。(汎用的技能) ③社会問題への関心を広げ、現代社会が抱える問題に積極的に参加できるようになる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品とその背景</li> <li>2. 映画作品と戯曲について</li> <li>3. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。① 映像資料を中心に作品を理解する</li> <li>4. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。② 出来事の経緯についてまとめる</li> <li>5. 演技を考える: 与えられた状況(演じる役)</li> <li>6. 演技を考える: 与えられた状況(演技する環境)</li> <li>7. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より</li> <li>8. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に</li> <li>9. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に</li> <li>10. 物語の展開と作品の背景について</li> <li>11. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)の特徴と時代背景</li> <li>12. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)を見る。</li> <li>13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較</li> <li>14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に</li> <li>15. 授業内容の要点のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(授業前準備学習) 各回授業で扱うテキスト(戯曲)を、登場人物の性格に深く関連した言動に注意を払いながら精読し、特に重要と思われる言動を2、3ピックアップしておく。またなぜそれが重要だと考える理由も述べるようにしておく。(学習時間2時間程度) (授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)						
授業方法	講義: 戯曲と映像の分析方法を提示してペアまたはグループで行い、さらにその結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションを中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物(40%)、期末レポート(60%) 授業内での提出物: 各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②と③の確認。 期末レポート: 指定されたテーマに示された問題を、戯曲と映像分析を中心に明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①と② 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	『Film Analysis映画分析入門』マイケル・ライアン、メリッサ・レノス(著)、田畑暁生(翻訳) 『映画のどこをどう読むか(ジブリLibrary—映画理解学入門)』ドナルド・リチー(著)、三木宮彦・司馬叡三(翻訳)、スタジオジブリ						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。演習はそれぞれが担当箇所を読み、まとめ、口頭発表する形式で進める。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」について、発表を通じて主体的に発信できるコミュニケーション能力をもてる【汎用性技能①】 ② 母語である「日本語」を客観的に分析する判断力を背景として、問題点を考えることができる【汎用的技能③】 ③ 日本語に関する色々な問題を発見し、自分なりにそれに理由を与えることができる【態度・志向性①②】						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 日本語文法への招待 第3回 日本語の品詞 第4回 名詞述語分と形容詞述語 第5回 語から文へ――助詞 第6回 文の要素のとりたて――焦点化 第7回 ハとガの話――主語か述語か 第8回 動詞述語 第9回 ヴォイス1――受身 第10回 ヴォイス2――使役 第11回 ヴォイス3――授受 第12回 ヴォイスの選択 第13回 テンス――述語のル形とタ形 第14回 アスペクト1――ル形・タ形とテイルの形 第15回 アスペクト2――テアル・テオク・テシマウ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べること<授業外学習：2時間> 事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること、発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。<授業外学習：2時間>						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それに関するディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度や参加度（30%） 発表（50%）とレポート（20%）【到達目標①②③に関する到達度の確認】 授業態度や参加度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけではなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円） ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習A						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	① 文芸作品の意味を読み取り、解釈することができる。【汎用的技能】 ② 現代文化の重要作品を見分けることができる。【汎用的技能】 ③ 現代日本社会の文化現象を説明することができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 導入 2. 発表例の提示：作品（1）内容紹介 3.     "       : 作品（2）メッセージ 4.     "       : 人物（1）経歴 5.     "       : 人物（2）作品 6.     "       : テーマ（1）社会 7.     "       : テーマ（2）時代 8. 参加者の発表（1） 9.     "       (2) 10.    "       (3) 11.    "       (4) 12.    "       (5) 13.    "       (6) 14.    "       (7) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）・文芸の作品を鑑賞・体験する。（30時間） 事後学習：鑑賞・体験した作品の関連文献を読む。（30時間）						
授業方法	演習。テーマを取り扱った文章を読みながら、質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（56%）：応答の内容を3段階で評価する。 【評価基準】文芸作品の解釈と意味を問う質問に的確に答えられるかどうか。 テスト（44%）：授業内容が理解できているかどうかを確認するテストを行う 【評価基準】現代日本社会の文化現象を的確に説明できるかどうか。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習A						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるメディア						
授業の概要	出版やテレビ、映画、インターネット・SNS、広告・広報などを題材に、メディアの仕組みや特徴、社会における役割を考える。そのために、メディアに関する文献や映像を読み解き、発表することを通して、メディアについての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学ぶ。						
到達目標	(1)さまざまなメディアを題材に、メディアの仕組みや特徴、社会における役割を考えることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 (2)テキストの内容を正確に理解し、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	1 イントロダクション：研究の方法、発表者割り当て 2 文芸メディア紹介① 3 文芸メディア紹介② 4 論文講読① 5 論文講読② 6 論文講読③ 7 論文講読④ 8 論文の要約発表とディスカッション① 9 論文の要約発表とディスカッション② 10 論文の要約発表とディスカッション③ 11 論文の要約発表とディスカッション④ 12 論文の要約発表とディスカッション⑤ 13 論文の要約発表とディスカッション⑥ 14 論文の要約発表とディスカッション⑦ 15 まとめ  ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 事前にテキストを精読し自分の考えや疑問を整理しておく。発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： ディスカッションで議論した内容を整理しておく。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習。学生によるテキストの要約発表およびディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	発表 70%： テキストで扱った内容の理解度、および、発表レジュメの内容・記述の的確さ、を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業への参加度 30%： ディスカッションにおける質疑応答の的確性を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	授業中に指定する。						
参考書	授業中に指定する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	総合演習A						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバー	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本古典文学および日本文化研究						
授業の概要	原点となる日本古典文学および展開としての日本文学・文化について、学生が自分の意見を組み立て論文に仕上げていく上で必要な、対象の取り扱い方の基本、対象を研究するための方法の基本を考え、個々の興味や関心に応じて選んだ研究対象に対する助言や指導、その学生相互分かち合いを行って、論文の質の向上をはかる。						
到達目標	(1) 日本古典文学・日本文学・日本文化について選択した対象について読解と考察を徹底し、自分の意見をまとめその意義を理解して説明することができる。【知識・理解】 (2) 対象に関する重要な過去の情報(議論・論文)の要点を的確に把握し、その価値を正しく評価して、それに対する自分の見解を示すことができる。【汎用的技能】 (3) 日本古典・文学・文化について、多くの対象や他者の意見に広く関心を持ち、自分の考えを対象化することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 卒業論文作成についての意義と価値の考察とその定位 第2回 予定している研究テーマについての発表 第3回 研究対象と研究テーマについての検討① 第4回 研究対象と研究テーマについての検討② 第5回 研究対象・研究テーマに関する重要な過去の情報(活字媒体・電子媒体)の探索 第6回 研究に関する過去の情報に対する要点把握と評価① 第7回 研究に関する過去の情報に対する要点把握と評価② 第8回 個々の論文作成の基本指導① 第9回 個々の論文作成の基本指導② 第10回 個々の研究の試行(実験)、中間報告の分かち合い① 第11回 個々の研究の試行(実験)、中間報告の分かち合い② 第12回 個々の研究基本指導① 第13回 個々の研究基本指導② 第14回 前期間での個々の研究の総括と今後の展望の開拓 第15回 今後の研究計画とその分かち合い						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 自ら選んだテーマにつき自ら向き合い続けつつ、次の授業に求められる準備を行う。〈2時間〉 授業後学習: 授業で気づき記録した内容を振り返り、研究対象の勉強方法と対照して生かす。〈2時間〉						
授業方法	自分の論文の勉強を他者に向き合って発表する(プレゼンテーション)。 他者の論文の勉強の発表に耳を傾けてその意義を理解する(コンプリヘンション)。 自他相互の勉強の相互理解と分かち合い(ディベート)。 個々の論文の勉強に対する基本的な助言と指導。						
評価基準と評価方法	中間報告 90% 到達目標 (1)(2)(3)に関する到達目標の確認。 口頭発表と分かち合い 10% 到達目標 (1)(2)に関する到達目標の確認。						
履修上の注意	継続的に努力と試行錯誤を続ける中で、自分の勉強の意義を理解して深めてゆき、仲間の意見形成に相互により意味での刺激であり続けること。						
教科書	必要に応じ、プリントなどで配布する。						
参考書	個々のテーマ、ゼミ全体に必要なテーマについて、必要に応じて提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習A						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。						
授業の概要	テレビドラマのシーン分析を行うことで演劇やドラマ研究に必要な知識や検証方法を学ぶ。まず、分析方法の基本知識を学ぶところから始め、グループにわかれて、俳優の衣装、声、動きなどの映像分析をする。また俳優の演技をジェンダーなどの視点から考察することも行っていきたい。						
到達目標	①演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる（汎用的技能） ②映像作品の検証方法について、しっかりと自分の言葉で語るができるようになる（知識・理解） ③舞台パフォーマンスを深く学び、演劇への興味・関心を具体的に意識することができる（態度・志向性）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 映像分析と上演分析について ①</li> <li>3. 映像分析と上演分析について ②</li> <li>4. ドラマ『グッド・ドクター』（日本版）分析場面の選定</li> <li>5. ドラマ『グッド・ドクター』（日本版）分析：グループワーク ①</li> <li>6. ドラマ『グッド・ドクター』（日本版）分析：グループワーク ②</li> <li>7. 各グループ発表</li> <li>8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。</li> <li>9. 観劇実習</li> <li>10. 観劇した作品の批評 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. ドラマ『グッド・ドクター：名医の条件』（アメリカ版）分析場面の選定</li> <li>12. ドラマ『グッド・ドクター：名医の条件』（アメリカ版）分析：グループワーク ①</li> <li>13. ドラマ『グッド・ドクター：名医の条件』（アメリカ版）分析：グループワーク ②</li> <li>14. 各グループ発表</li> <li>15. 『グッド・ドクター』の日本版とアメリカ版の比較</li> </ol> </li> </ol> <p>※学外研修を実施予定</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で与えられたテーマに関して、本やインターネットから情報収集を行い、400字程度にまとめておく。課題が分析の場合は、しっかり作業を進めること。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容を整理してまとめる。各自のテーマに合わせてプレゼンテーションの準備を行う。（学習時間：3時間）</p>						
授業方法	演習を中心に行う。 テーマに関する個人のプレゼンテーションを中心に、ディスカッションで理解を深め、必要な情報、または知識に関しては補足として講義で解説する。						
評価基準と評価方法	<p>授業内提出物（50%）、グループ発表（30%）観劇レポート（20%）</p> <p>授業内提出物：各回の授業で行うリアクションペーパー（授業内容に関するコメント質問など）の内容や記述の的確さ等を評価する。（到達目標②と③の到達度を確認）</p> <p>個人発表：それぞれのテーマに関して30分のプレゼンテーションを行う。（到達目標①と②の到達度を確認）</p> <p>観劇レポート：2回ある観劇実習のレポートを1000字程度で作成。（到達目標①、②、③の到達度の確認）</p>						
履修上の注意	<p>授業回数2/3に満たないものは、単位を取得できません。</p> <p>※学外研修として、観劇実習を1回行いますが、3000円程度の実費負担となります。</p>						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」について、発表を通じて主体的に発信できるコミュニケーション能力をもてる【汎用性技能①】 ② 母語である「日本語」を客観的に分析する判断力を背景として、問題点を考えることができる【汎用的技能③】 ③ 日本語に関する色々な問題を発見し、自分なりにそれに理由を与えることができる【態度・志向性①②】						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表(前半) 第2回 夏休みのレポートの発表(後半) 第3回 イクとクル、テイクとテクル 第4回 単文から複文へ～従属節の色々 第5回 連体修飾節 第6回 時を表す従属節 第7回 条件を表す条件節 第8回 出来事の関係を表す従属節 第9回 モダリティーの表現 第10回 出来事の関係づけ 第11回 終助詞 第12回 待遇表現――敬語 第13回 指示語 第14回 文から談話へ 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べる<授業外学習:2時間> 事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること、 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。<授業外学習:2時間>						
授業方法	講義と各自の発表(プレゼンテーション)の後、それに関するディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度や参加度(30%) 発表(50%)とレポート(20%)【到達目標①と②に関する到達度の確認】 授業態度や参加度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	近藤安月子(2008)『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社(1800円) ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習B						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	① 文芸作品の意味を読み取り、解釈することができる。【汎用的技能】 ② 現代文化の重要作品を見分けることができる。【汎用的技能】 ③ 現代日本社会の文化現象を説明することができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 夏休みの報告 2. 参加者の発表 (1) 3. " (2) 4. " (3) 5. " (4) 6. " (5) 7. " (6) 8. " (7) 9. " (8) 10. " (9) 11. " (10) 12. " (11) 13. " (12) 14. " (13) 15. まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：サブカルチャー(マンガ、アニメ、ゲームetc)の作品を鑑賞・体験する。(30時間) 事後学習：鑑賞・体験した作品の関連文献を読む。(30時間)						
授業方法	演習。テーマを取り扱った文章を読みながら、質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点(56%)：応答の内容を3段階で評価する。 【評価基準】文芸作品の解釈と意味を問う質問に的確に答えられるかどうか。 テスト(44%)：授業内容が理解できているかどうかを確認するテストを行う 【評価基準】現代日本社会の文化現象を的確に説明できるかどうか。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習B						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアの実践的理解						
授業の概要	出版やテレビ、映画、インターネット・SNS、広告・広報などを題材に、メディアの仕組みや特徴、社会における役割を考える。とりわけ、メディア表現による社会問題の解決の可能性について考える。そのために、メディア制作を通して、コミュニケーション・デザインのための知識や実践的な方法について学ぶ。						
到達目標	(1) さまざまなメディア現象を題材に、メディアの仕組みや特徴、社会における役割を考えることができる。 【汎用的技術】【態度・志向性】 (2) メディア制作を通じて、他者と協働し、自らのアイデアを表現するための実践的な技法を習得することができる。【汎用的技術】						
授業計画	1 イン트로タクシオン 2 文献講読① 3 文献講読② 4 文献講読③ 5 文献講読④ 6 メディア制作① 7 メディア制作② 8 メディア制作③ 9 メディア制作④ 10 メディア制作⑤ 11 メディア制作⑥ 12 メディア制作⑦ 13 メディア制作発表① 14 メディア制作発表② 15 まとめ  ・メディア制作の内容は授業中に教員とともに考える。 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。（学習時間：4時間）						
授業方法	演習。 メディア制作に際しては、松蔭manabaを活用しながらグループワークにもとづく学習を実施し、成果物を制作、発表する。						
評価基準と評価方法	制作課題 70%： 制作物を通じたアイデア表現の的確性・創造性を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業への参加度 30%： グループワーク参加への積極性および協調性を評価する。到達目標（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	メディア制作ではとくに主体的に取り組むことが求められるため、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	授業中に指定する。						
参考書	授業中に指定する。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	総合演習B						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	原点としての日本古典文学およびその展開としての日本文学・文化の卒業研究						
授業の概要	原点としての日本古典文学・展開としての日本文学・文化に関する卒業論文の作成とそれへの助言。研究対象に関する過去の情報の的確な収集・評価・重要事項に関する要点把握とそれへの助言。対象に対する一層の読解の徹底と参加者相互の分かち合い、ディベートを通じた、個性と社会的価値ある議論への醸成＝卒業論文の完成。						
到達目標	(1) 日本の原点としての古典文学・展開としての文学や文化に関して、自分の意見を総括し、論文に仕上げることができる。【知識・理解】 (2) 過去の広範な情報から必要な情報を素早く選び、的確に要約し、自ら正当に評価できる。【汎用的技能】 (3) 原点としての日本古典文学・展開としての文学や文化に関する継続的な学習を通して深い洞察力を身につけ、自分の見解を発表し仲間の見解を評価できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 夏期休業中での勉強の進捗について 第2回 個別の勉強の中間報告に対する指導と助言 第3回 卒業論文の題目と目次の発表 第4回 卒業論文についての中間発表と分かち合い① 第5回 卒業論文についての中間発表と分かち合い② 第6回 中間発表に関する指導と助言 第7回 分かち合いと助言に基づく研究の方向性に関するフィードバックと修正 第8回 中間発表以降の勉強の進捗① 第9回 中間発表以降の勉強の進捗② 第10回 卒業論文の題目と目次の修正と再発表 第11回 個別の研究とそれに対する指導 第12回 研究のまとめ① 第13回 研究のまとめ② 第14回 口頭試問 第15回 卒業論文の発表会と分かち合い						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： これまでの自分の勉強を整理し、必要に応じ説明できるよう準備しておく。〈2時間〉 授業後学習： 授業を踏まえ、指導助言や分かち合いで得た知見を自己の議論の活性化に積極的に生かして卒業論文執筆を推進する。〈4時間〉						
授業方法	適宜の卒業論文執筆に関する進捗状況の説明 卒業論文執筆についての説明（プレゼンテーション）と分かち合い(ディベート) 卒業論文のための指導と助言						
評価基準と評価方法	研究成果を反映した卒業論文(口頭試問を含む) 90% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 途中経過での発表と相互の分かち合い 10% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 これらの基準についてはルーブリックを提示し、それに基づいて行う。						
履修上の注意	授業時間以外に、個々の指導や面談を実施することがある。 研究をやり多くする必要条件は、継続である。試行錯誤をためらわず、多くの失敗経験から立ち直る不屈さで個々の能力や才能の壁を、参加者全員で励まし合って、最後まで乗り越え続ける。 卒業論文について、当人の許可を得て、公表することがある。						
教科書	個々の卒業論文テーマにつき、必要に応じプリントなどで配布。						
参考書	個々の卒業論文とその進捗状況に応じ、必要な資料を提示する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	総合演習B						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。						
授業の概要	テレビドラマのシーン分析を行うことで演劇やドラマ研究に必要な知識や検証方法を学ぶ。まず、分析方法の基本知識を学ぶところから始め、グループにわかれて、俳優の衣装、声、動きなどの映像分析をする。また俳優の演技をジェンダーなどの視点から考察することも行っていきたい。						
到達目標	①演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる（汎用的技能） ②映像作品の検証方法について、しっかりと自分の言葉で語るができるようになる（知識・理解） ③舞台パフォーマンスを深く学び、演劇への興味・関心を具体的に意識することができる（態度・志向性）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期イントロダクション: 授業の進め方</li> <li>2. 映像分析の応用: グループワーク①</li> <li>3. 映像分析の応用: グループワーク②</li> <li>4. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>5. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>6. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>7. 観劇実習にむけて</li> <li>8. 観劇実習</li> <li>9. 観劇した作品の批評</li> <li>10. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>11. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>12. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>13. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>14. 個人研究のプレゼンテーション</li> <li>15. 個人研究のプレゼンテーションとまとめ</li> </ol> <p>※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。また観劇費用として3000円ほど自己負担してもらう可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で与えられたテーマに関して、本やインターネットから情報収集を行い、400字程度にまとめておく。課題が分析の場合は、しっかり作業を進めること。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容を整理してまとめる。各自のテーマに合わせてプレゼンテーションの準備を行う。（学習時間：3時間）</p>						
授業方法	演習を中心に行う。 テーマに関する個人のプレゼンテーションを中心に、ディスカッションで理解を深め、必要な情報、または知識に関しては補足として講義で解説する。						
評価基準と評価方法	<p>授業内提出物（50%）、個人発表（30%）観劇レポート（20%）</p> <p>授業内提出物：各回の授業で行うリアクションペーパー（授業内容に関するコメント質問など）の内容や記述の確さ等を評価する。（到達目標②と③の到達度を確認）</p> <p>個人発表：それぞれのテーマに関して30分のプレゼンテーションを行う。（到達目標①と②の到達度を確認）</p> <p>観劇レポート：2回ある観劇実習のレポートを1000字程度で作成。（到達目標①、②、③の到達度の確認）</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、単位を取得できません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	草書法						
担当教員	小出水 博					科目ナンバ-	J72460
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	草書の基本用筆を理解・習得した上で、草書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	草書の特徴を学習し、それを基に草書の用筆法を習得する。 草書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した草書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	①草書の基本的な知識と技法を習得できる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②草書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 硬筆による草書の基礎を習得する（草書の用筆法を習得し、草書の特徴を理解する。） 第2回 『書譜』について①～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ 四文字臨書 第3回 『書譜』について②～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 第4回 『書譜』について③～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 第5回 『書譜』について④～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 第6回 『書譜』について⑤～半切作品のまとめ方～ 第7回 『書譜』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 第8回 『十七帖』について①～王羲之の草書を学ぶ～ 半紙臨書 第9回 『十七帖』について②～王羲之の草書を学ぶ～ 半切臨書 第10回 『真草千字文』について①～細字作品の書き方～ 第11回 『中秋帖』について②～全紙作品のまとめ方～ 第12回 創作① 創作について 第13回 創作② 作品の変化について(墨の濃淡、字の大小等) 第14回 創作③ 創作(草稿) 第15回 創作④ 創作(清書) 仕上げ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることに目を通しておく。(学習時間2時間) 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義：はじめの約30分で、各回講義で扱う古典の解説を行う。 実技：古典の歴史的な背景を理解したうえで、臨書を行う。						
評価基準と評価方法	提出作品 50% 到達目標①の到達度確認 筆記試験 30% 到達目標②の到達度確認 平常点 20% 取り組み姿勢 課題に関するフィードバック 毎時添削を行う。						
履修上の注意	書道の用意(筆、半紙、墨、新聞紙等)は、講義第2回目から毎時間必ず持参すること。 半紙は多めに持って来ること。 携帯電話のマナーは厳守。私語は慎む。 授業での作品成果を発表する作品展などを行う予定である。						
教科書	中国法書選 孫過庭『書譜』二玄社 ISBN:4544005387						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を作成する						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。しかし、日本語を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。それを通じて各自テーマを見つけ、卒業論文を作成します。 この授業は留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析し、深い知識を身につけることができる。【知識・理解①】 ② 身につけた知識を役立てながら、生涯、日本語に興味を持って生きる姿勢を習得することができる。【態度・志向性①】 ③ 日本語に関する色々な問題を発見し、自分なりにそれに理由を与えることができる【態度・志向性②】						
授業計画	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第5回 参考文献の検索方法～著作権について～ 第6回 研究倫理の基本～「ねつ造」「改ざん」「盗用」について～ 第7回 データの収集と分析方法 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて発表と質疑応答4 第10回 各自のテーマについて発表と質疑応答5 第11回 各自のテーマについて発表と質疑応答6 第12回 各自のテーマについて発表と質疑応答7 第13回 各自のテーマについて個別指導1 第14回 各自のテーマについて個別指導2 第15回 前期のまとめと夏休みにすることの発表</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについての発表と質疑応答7 第23回 グラフや表の作り方 第24回 分析・考察の書き方 第25回 結論の書き方 第26回 要旨・参考文献の作成 第27回 卒業論文の完成 第28回 口頭試問1 第29回 口頭試問2 第30回 卒業論文発表会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：課された資料を読むこと<授業外学習時間：2時間> 事後学習：授業中にわからなかったことやキーワードについて調べる<授業外学習時間：2時間> 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。						
評価基準と評価方法	卒論のテーマの発表と授業態度（40%）【到達目標①と③に関する達成度の確認】 卒業論文の制作と口頭試問（60%）【到達目標②と③に関する達成度の確認】  授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望む。</li> <li>・欠席するときは必ず事前に連絡すること。</li> <li>・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。</li> </ul> なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						

教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	授業の中で紹介する。

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	メディア現象の分析と研究						
授業の概要	各自の関心に応じて、メディア現象（サブカルチャー、文学、映画、文芸作品など）を取り上げ、自分の考えを論理的な文章にまとめる練習を行う。						
到達目標	【知識・理解】文芸作品を解釈し、分析することができる。 【態度・志向性】先行研究を踏まえながら、作品を文化史的・歴史的な観点から、自らの力で位置づけることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画の説明、卒論の書き方の指導</li> <li>2. 先行研究の探し方、発表の順番の決定</li> <li>3. 「はじめに」とテーマの説明 (1)</li> <li>5. 同 (2)</li> <li>6. 同 (3)</li> <li>7. 同 (4)</li> <li>8. 「第1章 具体例の紹介」の発表 (1)</li> <li>9. " (2)</li> <li>10. " (3)</li> <li>11. " (4)</li> <li>12. 「第2章 定説と先行研究の紹介」 (1)</li> <li>13. " (2)</li> <li>14. " (3)</li> <li>15. 前期のまとめ</li> </ol> <p style="text-align: center;">夏休みの課題： テーマに関連した文献を読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 夏休みの課題報告 (1)</li> <li>17. " (2)</li> <li>18. 「第3章 定説に対する反論」の発表発表 (1)</li> <li>19. " (2)</li> <li>20. " (3)</li> <li>21. " (4)</li> <li>22. 「第4章 本論の発表」 (1)</li> <li>21. " (2)</li> <li>22. " (3)</li> <li>23. " (4)</li> <li>24. 「第5章 結論」の発表 (1)</li> <li>25. " (2)</li> <li>26. " (3)</li> <li>27. " (4)</li> <li>28. レジメの指導</li> <li>29. 口頭試問 1</li> <li>30. 口頭試問 2</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマに関連した作品と批評、研究論文を読む。（30時間以上）						
授業方法	演習：以下の手順で進められる。 担当者の発表→教員による質問→受講生との質疑応答						
評価基準と評価方法	発表（25%）、平常点（25%）、卒業論文の内容（50%） 質問、内容評価は授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	資料の収集、先行文献の研究など、資料調査を怠らないこと。						

教科書	なし
参考書	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の実践						
授業の概要	卒業研究に求められる論理的思考力を養成すると共に、研究対象を科学的に分析するための方法を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 論文の構成が理解できる。</p> <p>b. 問いの必要性が理解できる。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>自説・他説の改善に貢献する意志を持っている。</p>						
授業計画	<p>【前期】</p> <p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 卒業研究の指導 (1)</p> <p>03: 卒業研究の指導 (2)</p> <p>04: 卒業研究の指導 (3)</p> <p>05: 卒業研究の指導 (4)</p> <p>06: 卒業研究の指導 (5)</p> <p>07: 卒業研究の指導 (6)</p> <p>08: 卒業研究の指導 (7)</p> <p>09: 卒業研究の指導 (8)</p> <p>10: 卒業研究の指導 (9)</p> <p>11: 卒業研究の指導 (10)</p> <p>12: 卒業研究の指導 (11)</p> <p>13: 卒業研究の指導 (12)</p> <p>14: 中間発表会 (1)</p> <p>15: 中間発表会 (2)</p> <p>【後期】</p> <p>01: 進捗状況の報告</p> <p>02: 卒業研究の指導 (1)</p> <p>03: 卒業研究の指導 (2)</p> <p>04: 卒業研究の指導 (3)</p> <p>05: 卒業研究の指導 (4)</p> <p>06: 卒業研究の指導 (5)</p> <p>07: 卒業研究の指導 (6)</p> <p>08: 卒業研究の指導 (7)</p> <p>09: 卒業研究の指導 (8)</p> <p>10: 卒業研究の指導 (9)</p> <p>11: 卒業研究の指導 (10)</p> <p>12: 卒業研究の指導 (11)</p> <p>13: 卒業研究の指導 (12)</p> <p>14: 卒業論文発表会 (1)</p> <p>15: 卒業論文発表会 (2)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と卒業研究の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題・課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>卒業研究: 80%</p> <p>上記到達目標 (1-3) の確認</p> <p>質疑応答: 20%</p> <p>上記到達目標 (1-2) の確認</p>						

評価基準と 評価方法	特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。
教科書	
参考書	



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導を行う。						
到達目標	(1) 自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることができる。【知識・理解】 【汎用的技術】 (2) 研究の仕方を学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>前期</p> <p>1 イン트로ダクション</p> <p>2 卒論の書き方①： 卒論とは？</p> <p>3 卒論の書き方②： 資料収集の方法</p> <p>4 卒論の書き方③： アウトラインの作成</p> <p>5 卒論の書き方④： パラグラフを書く</p> <p>6 卒論の書き方⑤： 文章の形式を守る（研究倫理教育）</p> <p>7 卒論の書き方⑥： 文章をきれいに整える</p> <p>8 卒論の書き方⑦： 文章を推敲する</p> <p>9 卒論テーマ・アウトラインの発表①</p> <p>10 卒論テーマ・アウトラインの発表②</p> <p>11 卒論テーマ・アウトラインの発表③</p> <p>12 卒論テーマ・アウトラインの発表④</p> <p>13 卒論テーマ・アウトラインの発表⑤</p> <p>14 卒論テーマ・アウトラインの発表⑥</p> <p>15 卒論テーマ・アウトラインの発表⑦</p> <p>後期</p> <p>16 卒論中間発表①</p> <p>17 卒論中間発表②</p> <p>18 卒論中間発表③</p> <p>19 卒論中間発表④</p> <p>20 卒論中間発表⑤</p> <p>21 卒論中間発表⑥</p> <p>22 卒論中間発表⑦</p> <p>23～28 個別指導による論文作成</p> <p>29～30 提出に向けた最終確認</p> <p>・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 発表を担当するときは、文献探索、資料収集、文献精読を踏まえたうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 発表後のディスカッションの内容を整理し、卒業論文に反映させる。（学習時間：1時間）</p> <p>また、授業前後を通して卒業論文の執筆に取り組む。</p>						
授業方法	<p>演習： 卒業論文の内容発表およびディスカッションを行う。また、個別指導による指導を実施する。</p> <p>講義： 卒業論文の作成方法に関する解説を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>卒業論文 80%： 卒業論文で扱った内容を理解しているか、および、形式を守って論文が書けているか、を評価する。また、卒業論文を通じた興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 20%： 発表の準備度合いおよびディスカッションへの参加度を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>教員への進捗状況の報告、相談などコミュニケーションを欠かさないこと。</p> <p>自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。</p> <p>2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。</p>						

教科書	授業中に指示する。
参考書	授業中に指示する。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	演劇や映画を中心に個々人が関心のあるテーマを選んで問いを立て、それに関する資料収集、分析・検証、そして卒業論文の作成指導を行う。						
到達目標	①情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に再現する高度なコミュニケーション能力の習得（汎用的技能） ②自立した人間としての自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢の習得（態度・志向性）						
授業計画	<p>前期</p> <p>1. 卒業論文作成の進め方、研究倫理教育</p> <p>2. 卒業論文の書き方・作成の仕方①</p> <p>3. 卒業論文の書き方・作成の仕方②</p> <p>4～6. 卒業論文に関する個人発表：文献の要約</p> <p>7～14. 卒業論文に関する個人発表：主要テキストや上演作品の選定</p> <p>15. 問題の絞り込みと夏休み期間の研究計画</p> <p>後期</p> <p>16. 夏休み期間の研究状況の報告</p> <p>17～22. 卒業論文の中間発表</p> <p>23～25. 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>26. 初稿の提出</p> <p>27～28. 提出前の点検</p> <p>29～30. 提出論文の講評と再提出指導</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前期の授業では卒業論文の書き方や論文作成に有効となる批評理論の文献や資料を事前にまとめておく。 授業前・後学習：卒論のテーマを決定するために必要な資料収集や参考文献の購読などは、できる限り集中的に時間をかけて行ってください。資料収集だけでもかなり時間がかかります。夏休み以降の卒論作成においても、週3日くらいは集中的にしっかりと作り込んでください。（学習時間6時間程度）						
授業方法	演習形式及び個別指導。演習では文献の要旨発表から卒業論文の中間発表などを行い、個別指導で論文作成の細かな指導を行う。						
評価基準と評価方法	中間発表20%、卒業論文80% 中間発表：情報の収集能力、卒論の構成の仕方、自分の考えを表現する能力の評価。到達目標の①と②の到達度を確認する。評価に関しては、発表後個別に行う。 卒業論文：自分の考えを論理的にまとめるために、的確な構成と必要な情報収集が的確になされているかを評価する。到達目標の①の到達度を確認する。評価に関しては、学科の複数の教員にも依頼する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	プリントを適宜配布する。						
参考書	各自のテーマに応じて決定していく。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本の造形芸術についての研究						
授業の概要	書、絵画など日本の造形芸術や、日本文学・文化との関連などを中心とした卒業論文を執筆する学生に対して、助言、指導を行う。						
到達目標	①日本の造形芸術を対象に、自分自身で研究、考察することができる。【知識・理解】【態度・志向性】 ②研究、考察したことを、自分の言葉で発表することができる。【態度・志向性】 また、その成果を卒業論文としてまとめることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 卒業研究について、研究倫理教育について</li> <li>2) 予定している研究テーマについての発表</li> <li>3) 研究テーマについての検討①</li> <li>4) 研究テーマについての検討②</li> <li>5) 研究テーマに関する先行研究</li> <li>6) 研究テーマに関する書籍、資料の探索</li> <li>7) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価①</li> <li>8) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価②</li> <li>9) 研究報告・指導①</li> <li>10) 研究報告・指導②</li> <li>11) 論文の書き方について①</li> <li>12) 論文の書き方について②</li> <li>13) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導①</li> <li>14) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導②</li> <li>15) 夏期休暇の課題発表</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究報告・質疑応答・指導①</li> <li>2) 研究報告・質疑応答・指導②</li> <li>3) 論文の題目・目次（構成）の報告・指導</li> <li>4) 中間発表・指導①</li> <li>5) 中間発表・指導②</li> <li>6) 中間発表・指導③</li> <li>7) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認①</li> <li>8) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認②</li> <li>9) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認③</li> <li>10) 文章表現、記述に関する確認</li> <li>11) 参考文献の表記、引用に関する確認</li> <li>12) 研究報告・質疑応答①</li> <li>13) 研究報告・質疑応答②</li> <li>14) 研究報告・質疑応答③</li> <li>15) 卒業論文の成果報告</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	提示された資料は必ず調査し、そこから新たな資料を探索することを望む。（学習時間：180分）						
授業方法	研究発表と質疑応答。質疑応答は学生間で行う。質疑応答の際、担当教員が補足的に指導を行う。						
評価基準と評価方法	態度（受講態度、課題の取り組み姿勢など）（30%）：到達目標①の到達度確認 発表（20%）：到達目標②の到達度確認 論文（50%）：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	授業時間外に、個別面談を行う場合がある。 常に自身の関心事と向き合い、できるだけ早く卒業論文のテーマを決め、資料の収集と分析に取り組むことを望む。 他者の研究発表に対しても関心をもち、積極的に質問を行い、自らの関心事と照らし合わせて考えることを望む。 書道展を予定しており、卒業論文を展示する。						

教科書	
参考書	個別に提示する

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J02050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「正しい」とされることばづかいを知り、「正しいことばづかい」について考える						
授業の概要	敬語や日本語の運用上の「正しさ」について講義する。受講生には適切な言語運用能力も養ってほしいが、その奥にあるルールを知り、規範主義的なものの見方だけではなく、記述主義的な考え方も身につけてほしい。						
到達目標	(1)日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。【汎用的技能(1)】 (2)日本語の適切な言語運用に関する知識を身につけることによって、ある状況におけることばの正誤判断(ふさわしいか否か)とその理由の説明ができるようになる。【知識・理解(1)】 (3)受講した内容について、批判的に考えられるようになる。【汎用的技能(2)】						
授業計画	第1回 ガイダンス/敬語の種類とはたらき① 素材敬語と対者敬語 [PC必携] 第2回 敬語の種類とはたらき② 尊敬語・謙譲語(謙譲語Ⅰ) [PC必携] 第3回 敬語の種類とはたらき③ 授受表現の敬語・丁寧語(謙譲語Ⅱ)・丁寧語 [PC必携] 第4回 敬語の種類とはたらき④ 美化語/二重敬語 [PC必携] 第5回 「(さ)せていただく」/間違いやすい敬語 [PC必携] 第6回 丁寧に話すための方略/ポライトネス [PC必携] 第7回 ここまでのまとめ [PC必携] 第8回 ことばの乱れ? ① 「ら抜きことば」など [PC必携] 第9回 ことばの乱れ? ② 「マニュアル敬語」など [PC必携] 第10回 文法とことばの正しさ [PC必携] 第11回 方言・位相とことばの正しさ [PC必携] 第12回 漢字表記と送り仮名 [PC必携] 第13回 仮名遣い [PC必携] 第14回 まとめと記述課題 [PC必携] 第15回 「正しいことばづかい」とは [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前: 敬語を含め、授業計画にあることばの問題を身近な例で確認することに努める。(学習時間: 2時間) 授業後: 授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。(学習時間: 2時間) 特に、前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。						
授業方法	<BYOD対象科目> 講義: 基本的には講義形式だが、受講者にgoogleフォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、毎回松蔭manabaを使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(コメントの記述内容を含む)20%(到達目標(1)(3)に関する到達度の確認) 小テスト30%(到達目標(2)に関する到達度の確認) 中間試験20%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 期末試験30%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある(退席者は当該の回は欠席と見做す)。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論						
担当教員	辻野 梨花					科目ナンバ-	J72100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共生						
授業の概要	グローバル化の世界的潮流の中で、国境を越えた人の移動が活発な時代を私たちは生きています。多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していきます。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在します。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきます。テーマに応じて海外の事例についてもみていきます。						
到達目標	①多文化共生、異文化接触、異文化受容・適応に関する概念について説明することができる【知識・理解】 ②身近に存在する文化の多様性、グローバルな世界情勢とローカルでの状況との関連性について説明することができる【知識・理解、汎用性技能】 ③在住外国人の視点を知り、社会の様々な局面における多文化共生の実践としくみについて説明することができる、具体化することができる【汎用性技能】						
授業計画	<p>第1回イントロダクション  第2回日本社会における在住外国人の概要  第3回映像に見る多文化社会日本の歴史  第4回異文化接触空間と多文化イベント  第5回グローバリゼーションと共生  第6回グループワーク：地域社会における共生の取り組み  第7回グローバリゼーションと人の移動  第8回グローバリゼーションと日本社会  第9回 日本 の在留外国人政策  第10回「ともに働く」日本と世界、外国人労働者と受入れ制度  第11回「ともに暮らす」実践例から学ぶ  第12回グループワーク：伝える・伝わるを考える  第13回グループワーク：外国人女性とリプロダクティブ・ライツ  第14回グループワークとプレゼンテーション  第15回映像とグループワークを通して考える多文化共生とまとめ</p> <p>講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります  映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に配布する資料・課題について予習する。各回の授業内容について図書館・インターネットで下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだことをまとめる。授業内で指示したテーマ・課題について準備してくる。（学習時間：2時間） 授業で取り組む課題について、授業時間内に完成できなかった場合は、次回までに完成させてくること。日ごろから世界情勢や日常の情景に目を向け、関心をもつ習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じてグループワーク、ディスカッション、ピア・ラーニング、プレゼンテーションを行います。授業中にmanabaを利用する場合があります。						
評価基準と評価方法	課題、小テストなどの総合評価とする。 小テスト（複数回実施）40%【到達目標①②にかんする達成度の確認】 課題40%【到達目標③にかんする到達度の確認】 授業中にかいてもらったりアクシオンペーパー・平常点20%【到達目標②③にかんする到達度の確認】 授業でフィードバックを行う						
履修上の注意	授業利用はmannabaで共有する。授業中の課題に積極的に取り組んでください。グループワーク等でPCを利用する場合があります。						
教科書	なし						
参考書	授業中に随時紹介します。 『多文化社会への道』駒井洋編著（明石書店） 『外国人労働者受け入れを問う』宮島喬・鈴木江里子（岩波書店） 『移住者が暮らしやすい社会に変えていく30の方法』移住労働者と連帯する全国ネットワーク編（合同出版） 『多文化共生のコミュニケーション-日本語教育の現場から 改訂版-』徳井厚子（アルク） 『「移民国家」としての日本：共生への展望』宮島喬（岩波新書）						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J73290
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。 日本語教育における「第二言語習得 (SLA)」の基本的なところから最新の動向まで具体的に学ぶ。 自分自身の外国語を学んできた言語習得に関する知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に「第二言語習得論 (SLA)」の基本的な知識を学ぶ。 第一言語を学ぶ時と、第二言語を学ぶときに何が違うのか、どのような問題が起こるのかを具体的に学ぶ。 同時にバイリンガリズムや子供の言語習得についても学び、日本語教育と心の問題についても考える。 また、このクラスでは留学生との交流授業を行ったり、学外見学に行くこともある。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 「第二言語習得論 (SLA)」に対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② 多言語・多文化化する日本における日本語の学習支援の現状や課題について話し合うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 第二言語習得 (SLA) 研究とは 第3回 2つの言語習得論と言語転移のとらえ方 第4回 「エラー」の捉え方の変遷～中間言語分析～ 第5回 SLAの認知プロセス～談話理解と予測～ 第6回 個人差がSLAに与える影響 第7回 SLAの環境と特徴～教室・言語環境の設定～ 第8回 社会とつながるSLA研究 第9回 CLD児の言語習得 第10回 CLD児への教育と支援～言語政策と「ことば」～ 第11回 CLD児への教育と支援～多文化共生 (地域社会における共生)～ 第12回 SLA研究に基づく日本語指導～学習ストラテジーと習得過程～ 第13回 SLA研究に基づく日本語指導～日本語の学習・教育の情意的側面～ 第14回 SLAと評価 第15回 まとめ及び到達度確認テスト						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習 <学習時間2時間> 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行うなどアクティブラーニング形式の活動が多く含まれる。 リアクションペーパーや、manabaで授業の内容を確認する小テストを行うkotogaaru						
評価基準と評価方法	授業の参加度・小テスト・リアクションペーパー：50% 期末の到達度確認テストあるいはレポート：40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 授業中の話し合いなどでの発表：10% 【到達目標②に関する達成度の確認】 期末の到達度確認テストは授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	奥野由紀子 [編著] (2021) 『超基礎・第二言語習得研究』 ISBN :978-4-87424-884-3 C1081						
参考書	授業の中で紹介する。						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	真鍋 昌生					科目ナンバー	J72480
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景を踏まえ当時の書の特徴を理解する。その際、具体的な作品を取り上げ鑑賞・臨書し、より理解を深める。						
到達目標	①漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開などがわかるようになる。【知識・理解】 ②中国の書の歴史の基本的事項について理解習得することができる。【知識・理解】						
授業計画	①ガイダンス、中国書道史について ②殷、西周（甲骨文、金文） ③西周、東周（石鼓文、帛書） ④秦、前漢（小篆、隸書） ⑤後漢（八分隸、漢碑） ⑥三国、西晋（残紙、書人の登場） ⑦東晋（王羲之、王献之） ⑧南北朝（龍門二十品） ⑨隋、唐（墓誌銘、初唐の三大家） ⑩唐（中唐・晩唐の書、顔真卿） ⑪宗（淳化閣帖、北宋の四大家） ⑫元、明（趙孟頫、元末明初の書人） ⑬明（中期の書道興隆、董其昌） ⑭清（明末清初の書） ⑮清（揚州八怪、金石学、篆刻）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各授業で扱う内容について、下調べをするなどの予習をすること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、重要な個所を確認・整理すること。（学習時間：2時間） 授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。						
授業方法	講義：各授業で扱う内容について調べ、その後ディスカッションを行い理解を深める。						
評価基準と評価方法	平常点50%（取り組み態度） 課題・レポート50%：到達目標①②を確認						
履修上の注意	10回以上の出席が必要。不足の場合は評価対象外となる。 授業用に、ノートを一冊準備すること。						
教科書	『書Ⅰ』（光村図書）490円（内税） 『書Ⅱ』（光村図書）490円（内税）						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	篆書法・隸書法						
担当教員	真鍋 昌生					科目ナンバ-	J72790
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	篆書法と隸書法の基礎的な知識および実技能力						
授業の概要	篆書法および隸書法の基礎的な知識および実技能力を身につける。 基本的な半紙や半切への書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、篆書および隸書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、篆書および隸書作品の創作につなげる。						
到達目標	①篆書および隸書の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②篆書および隸書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、篆書および隸書について</li> <li>2) 篆書演習－小篆①《泰山刻石》半紙への臨書</li> <li>3) 篆書演習－小篆②《泰山刻石》半切への臨書</li> <li>4) 篆書演習－大篆①《石鼓文》半紙への臨書</li> <li>5) 篆書演習－大篆②《石鼓文》半切への臨書</li> <li>6) 篆書演習－清代の篆書作品について</li> <li>7) 篆書演習－半切への創作①練習</li> <li>8) 篆書演習－半切への創作②清書</li> <li>9) 隸書演習－後漢①《曹全碑》半切への臨書</li> <li>10) 隸書演習－後漢②《乙瑛碑》半切への臨書</li> <li>11) 隸書演習－前漢①木簡作品 半切への臨書</li> <li>12) 隸書演習－前漢②木簡作品 半切への臨書</li> <li>13) 隸書演習－清代の隸書作品について</li> <li>14) 隸書演習－半切への創作①練習</li> <li>15) 隸書演習－半切への創作②清書</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：実技添削物の復習（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p> <p>授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を期待する。</p>						
授業方法	講義および実技						
評価基準と評価方法	<p>平常点（作品制作への取組み態度）20%：到達目標①②到達度確認</p> <p>レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認</p> <p>提出作品50%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：作品は添削し、レポートなどについては授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>以下の書道道具を持参のこと：大筆、墨、半紙、半切、雑巾 （書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する）</p> <p>授業用にノートを一冊準備すること。</p> <p>関連する展覧会があれば、鑑賞課題を設けることがある。</p> <p>書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。</p>						
教科書	適宜プリント等を配布する。						
参考書	授業時に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	デジタル表現の基礎						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J72610
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	グラフィックソフトを使用したメディア制作						
授業の概要	この講義では、グラフィックソフト（IllustratorとPhotoshop）の基本的な操作方法を習得し、簡単なメディア制作を行う。具体的には、Illustratorを使用して、図形や線を描いたり、文章レイアウトを作ったりする方法を学ぶ。また、Photoshopを使って、画像を補正したり、修正・加工する方法を習得する。さらに、それらの基本的な操作方法を学んだうえで、簡単な広告物を制作できるようになることを目指す。						
到達目標	<p>(1) グラフィックソフトの基本的な機能を理解し、その操作方法を習得することができる。【汎用的技能】</p> <p>(2) メディア制作を通して、自らのアイデアを発信するための表現力を身につけることができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 illustratorの基本： illustratorでできること</li> <li>3 図形や線を描く</li> <li>4 オブジェクトを編集する</li> <li>5 文字を入力する</li> <li>6 オブジェクトを取り込む</li> <li>7 中間課題①： illustratorを使ったメディア制作</li> <li>8 Photoshopの基本： Photoshopでできること</li> <li>9 色調を補正する</li> <li>10 選択範囲を操作する</li> <li>11 画像を修正・加工する</li> <li>12 中間課題②： Photoshopを使ったメディア制作</li> <li>13 フライヤー制作①</li> <li>14 フライヤー制作②</li> <li>15 制作課題の発表および講評</li> </ol> <p>・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 授業で扱う内容の範囲をあらかじめ読んでおく。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>講義および実習。</p> <p>毎回、教員が教科書の解説をしたあとで受講生がパソコン操作を行う。</p> <p>松蔭manabaを利用して資料の共有、質疑応答を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>制作課題 50%： 制作課題において自分のアイデアを表現できているか、表現の的確性・創造性を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>中間課題 20%： ソフトの基本的な機能を理解し、操作方法を習得できているかを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>なお、第15回の講評を通して、制作課題に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>授業を欠席した場合は、次回までに必ず授業内容を自習しておくこと。</p> <p>2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。</p>						
教科書	『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』、ピクセルハウス、技術評論社、2018年、ISBN：978-4774195513						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	東西芸術の文化史						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	J72570
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき、新しいものが生まれる。						
授業の概要	西洋と東洋はそれぞれに独自の文化を発展させてきた。その東西が出会うとき、いつも新たな文化的展開の可能性が生まれてきたと言える。西洋はどのように東洋と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、芸術という側面から、幾つかの歴史的場面を取り上げて検証する。						
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を変えることに気づくことができる。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつことができるようになる。 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 東と西 第2回 東西の世界観 第3回 キリスト教世界における東と西 第4回 まだ見ぬ東方世界へ 第5回 異端について 第6回 日本と南蛮 第7回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクー 第8回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第9回 シノワズリー・ジャポニズム 第10回 ジャポニズムと印象主義 第11回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第12回 異界のイメージ 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットや書籍で調べてみるなどして予習を行うこと(学習時間2時間)。 ・授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる(学習時間2時間)。授業内で紹介した絵画や図書、映画も見てみて欲しい。						
授業方法	講義：各回のテーマについて、スライドを見ながら講義を行う。コロナなどの状況が許せば、簡単なワークショップ、個人の発表、ディスカッションも取り入れていきたい。						
評価基準と評価方法	・平常点30%：毎回提出のリアクションシート(授業内容についてのコメント・課題に対する解答)。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。 ・宿題レポートなどの提出物や発表など20%：授業内容についての課題に対する解答・自身の意見提示。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・期末レポート50%：授業内容の理解度と、歴史を踏まえ異文化交流とそこから生まれる新たな文化的展開について積極的に考察・展望する姿勢を評価する。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	受講に際しての注意事項は最初の授業時にプリントで配布する。 授業の進行状況や新しいトピックの挿入等により、毎回の授業計画に変更の可能性もある。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学						
担当教員	金 智英					科目ナンバ-	J72070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日韓の言語と文化を対照する						
授業の概要	韓国語と日本語は語彙や文法等における類似点が多いことよく知られている。しかし、文字の仕組み、言語運用等においては相違点も多々存在する。この授業では、日韓両言語を幾つかの項目を通して対照しながら、類似点と相違点について考える。また、提示された問題についてペア（またはグループ）で考察と意見交換を行い、母語である日本語に対して客観的に捉える練習をしていく。受講者は韓国語の初級レベル以上の知識があることが望ましい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本語と韓国語の文字・文法・表現方法における共通点と相違点の一端を理解できる【知識・理解】</li> <li>●言語とそれが属する社会・文化の関係を理解できる【知識・理解】</li> <li>●母語（日本語）を他言語と対照しながら客観的に捉えることができる【態度・志向性】</li> </ul>						
授業計画	第1回 漢字文化圏と日本語と韓国語 第2回 韓国語の基礎知識 第3回 文字と発音の仕組み 第4回 語彙の種類 第5回 表現方法（1） 第6回 表現方法（2） 第7回 まとめと小テスト 第8回 ことわざ・慣用表現 第9回 言語行動（1） 第10回 言語行動（2） 第11回 日韓の文学作品の翻訳 第12回 発表（1） 第13回 発表（2） 第14回 発表（3） 第15回 授業内容のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業前準備学習&lt;2時間&gt; 前もって予定されている授業内容をシラバスなどで確認し、関連用語等を調べておく</li> <li>●授業後学習&lt;2時間&gt; 授業で学んだ内容をノート整理し、興味を持った内容について調べ、発表やレポートに備える</li> </ul>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●演習</li> <li>・授業で取り上げる内容について、参加者全員で意見交換を行う</li> <li>・毎回の授業終了時に、学習内容に関するコメントシートを提出する</li> <li>・12回目～14回目では、授業で取り上げた内容をもとに、特に興味を持った部分についてさらに調査したものを発表する</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点 30%（授業中の意見交換、発表）</li> <li>・コメントシート 20%</li> <li>・小テスト 30%</li> <li>・レポート 20%（授業内容から興味を持ったテーマを選び、調査と考察を加えてまとめる）</li> </ul>						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は単位取得不可となる						
教科書	プリント配布						
参考書	油谷幸利『日韓対照言語学入門』9784891747336						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学						
担当教員	古川 典代					科目ナンバ-	J72050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	(1) 中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握できる。【知識・理解】 (2) 日本と中国との異同の中から歴史的関係性に興味を持つことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中国・中国語概況</li> <li>② 日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響</li> <li>③ 日中同形異義語</li> <li>④ 中国人にとって難しい日本語（作文）</li> <li>⑤ 中国人にとって難しい日本語（会話）</li> <li>⑥ 中国人日本語学習者の誤用分析</li> <li>⑦ 外来語の受容と色彩感覚の差異</li> <li>⑧ アルファベットや数字によるコミュニケーション</li> <li>⑨ 中国の通過儀礼（結婚式事情）</li> <li>⑩ 日中の飲食文化について（中国茶の種類）</li> <li>⑪ 日中祝祭日比較</li> <li>⑫ 受講生がテーマを決めて研究発表（習慣）</li> <li>⑬ 受講生がテーマを決めて研究発表（文化）</li> <li>⑭ 受講生がテーマを決めて研究発表（言葉）</li> <li>⑮ 総括</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアンテナを張り巡らせておく。各回のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。後半に研究発表が控えているので、日頃から問題意識を持ち、情報収集する。（学習時2時間）</p>						
授業方法	<p>演習：毎回のテーマに合わせ、日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。12回目の授業時より、自身が興味を持った事柄について調べ、10分程度の研究発表を行う。それに関してクラス内でディスカッションする。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点50%（授業中のパフォーマンス等で到達目標(1)(2)の達成度を確認する。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各-1点）、研究発表30%、レポート20%</p>						
履修上の注意	<p>中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。</p>						
教科書	<p>指定テキストは無し。必要に応じてプリントを配布する。</p>						
参考書	<p>『日本語と中国語の対照研究論文集』（上）（下） 大河内康憲編集 くろしお出版</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学の研究						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73280
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする意味論・語用論						
授業の概要	言葉と意味との関係を学んだのち、我々が言葉の意味をどのように理解しているかを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 言葉と意味との関係を掴む。</p> <p>b. 言語の曖昧性・多義性を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>d. 意味の計算過程を辿ることができる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 自然言語における音声と意味との関係</p> <p>03: 言葉の意味とは?</p> <p>04: 意味と用法との違い</p> <p>05: 比喩的な意味</p> <p>06: 意味の面から見た集合</p> <p>07: 意味の面から見た関数</p> <p>08: 中間課題指導</p> <p>09: 離散的範疇</p> <p>10: 典型</p> <p>11: 意味論と語用論との違い</p> <p>12: 語用論に基づく意思疎通</p> <p>13: 語用論的意味から意味論的意味への変化</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	無し						
参考書	<p>田中 拓郎 (2016) 『形式意味論入門』 開拓社</p> <p>吉本 啓・中村 裕昭 (2016) 『現代意味論入門』 くろしお出版</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72320
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教員養成課程の必修授業の1つとして、日本語教育の教壇実習を行う技能を身につける。 (この授業は2クラス開講です。どちらのクラスを履修しても構いません)						
授業の概要	日本語教育の模擬実習と実習をを行う。 初級教材『みんなの日本語』の教材研究のあと、実習のためにさまざまな教授法について概説する。 また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、日本語教育における実習授業を実施する。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。 そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学内・学外での授業実習や見学を行うことがある。						
到達目標	① 第二言語習得の視点から教科書の教えるべき文型が理解できる。【知識・理解①】 ② 日本語の文法、日本文化を含んだ教案を主体的に自分自身で作ることができる。【汎用性技能①】 ③ 学習者が日本語を楽しく学べるような工夫を行い、国内外で日本語教師になるための努力ができる【態度・指向性①】						
授業計画	第1回 オリエンテーション～日本語教師の資質と能力～ 第2回 実習のための授業見学 第3回 実習のための教授法（パターンプラクティスに基づく練習） 第4回 実習のための教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第5回 実習のための教案指導の書き方 第6回 目的・対象別指導法 第7回 日本語教育とICT～著作権に触れない教材作成～ 第8回 模擬授業1（各自担当箇所） 第9回 模擬授業2（各自担当箇所） 第10回 模擬授業3（各自担当箇所） 第11回 模擬授業4（各自担当箇所） 第12回 模擬授業5（各自担当箇所） 第13回 模擬授業6（各自担当箇所） 第14回 実習授業1（日本語短期プログラムの学生に対して） 第15回 実習授業2（日本語短期プログラムの学生に対して） 第15回 まとめ～自己点検～						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り<学習時間2時間> 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備<学習時間2時間>						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。 外部や内部で留学生に対して実習を授業を行うことがある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級 I 本冊（スリーイーネットワーク）2,500円 ISBN：9784883196036						
参考書							



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J72320
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教員養成課程の必修授業の1つとして、日本語教育の教壇実習を行う技能を身につける。 (この授業は2クラス開講です。どちらのクラスを履修しても構いません)						
授業の概要	日本語教育の模擬実習と実習を行う。 初級教材『みんなの日本語』の教材研究のあと、実習のためにさまざまな教授法について概説する。 また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、日本語教育における実習授業を実施する。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。 そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学内・学外での授業実習や見学を行うことがある。						
到達目標	① 第二言語習得の視点から教科書の教えるべき文型が理解できる。【知識・理解①】 ② 日本語の文法、日本文化を含んだ教案を主体的に自分自身で作ることができる。【汎用性技能①】 ③ 学習者が日本語を楽しく学べるような工夫を行い、国内外で日本語教師になるための努力ができる【態度・指向性①】						
授業計画	第1回 オリエンテーション～日本語教師の資質と能力～ 第2回 実習のための授業見学 第3回 実習のための教授法（パターンプラクティスに基づく練習） 第4回 実習のための教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第5回 実習のための教案指導の書き方 第6回 目的・対象別指導法 第7回 日本語教育とICT～著作権に触れない教材作成～ 第8回 模擬授業1（各自担当箇所） 第9回 模擬授業2（各自担当箇所） 第10回 模擬授業3（各自担当箇所） 第11回 模擬授業4（各自担当箇所） 第12回 模擬授業5（各自担当箇所） 第13回 模擬授業6（各自担当箇所） 第14回 実習授業1（日本語短期プログラムの学生に対して） 第15回 実習授業2（日本語短期プログラムの学生に対して） 第15回 まとめ～自己点検～						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り<学習時間2時間> 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備<学習時間2時間>						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。 外部や内部で留学生に対して実習を授業を行うことがある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級 I 本冊（スリーイーネットワーク）2,500円 ISBN：9784883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72330
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教員養成課程の必修授業の1つとして、日本語教育の教壇実習を行う技能を身につける。 (この授業は2クラス開講です。どちらのクラスを履修しても構いません)						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、学内の留学生を対象として日本語教育の教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置いて、実習を行う。この教壇実習では、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え直接フィードバックをもらうことで日本語を教える技能の上達を目指す。						
到達目標	① 第二言語習得の視点から教科書の教えるべき文型が理解できる。【知識・理解①】 ② 日本語の文法、日本文化を含んだ教案を主体的に自分自身で作ることができる。【汎用性技能①】 ③ 学習者が日本語を楽しく学べるような工夫を行い、国内外で日本語教師になるための努力ができる。【態度・指向性①】						
授業計画	第1回 オリエンテーション～授業分析と自己点検能力～ 第2回 子供？大人？どのような学習者に教えるか～多文化共生～ 第3回 上手な教え方の工夫～学習者要因における困難～ 第4回 実習授業1(担当箇所) 第5回 実習授業2(担当箇所) 第6回 実習授業3(担当箇所) 第7回 実習授業4(担当箇所) 第8回 実習授業5(担当箇所) 第9回 実習授業6(担当箇所) 第10回 実習授業7(担当箇所) 第11回 実習授業8(担当箇所) 第12回 実習授業9(担当箇所) 第13回 実習授業10(担当箇所) 第14回 日本語教育における文法と場面 第15回 実践研修全体総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	担当箇所の教案作り(学習時間2時間) 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備(学習時間2時間)						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。 外部や内部で留学生に対して実習を授業を行うことがある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育実習の基礎」あるいは「日本語教育演習A」を履修済みであること。</li> <li>・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 4年生の人。</li> <li>2 卒業後、TAを目指している人。</li> <li>3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。</li> </ul> </li> <li>・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。</li> <li>・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。</li> </ul>						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊(スリーエーネットワーク) 2,500円 ISBN: 9784883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J72330
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教員養成課程の必修授業の1つとして、日本語教育の教壇実習を行う技能を身につける。 (この授業は2クラス開講です。どちらのクラスを履修しても構いません)						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、学内の留学生を対象として日本語教育の教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置いて、実習を行う。この教壇実習では、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え直接フィードバックをもらうことで日本語を教える技能の上達を目指す。						
到達目標	① 第二言語習得の視点から教科書の教えるべき文型が理解できる。【知識・理解①】 ② 日本語の文法、日本文化を含んだ教案を主体的に自分自身で作ることができる。【汎用性技能①】 ③ 学習者が日本語を楽しく学べるような工夫を行い、国内外で日本語教師になるための努力ができる。【態度・指向性①】						
授業計画	第1回 オリエンテーション～授業分析と自己点検能力～ 第2回 子供？大人？どのような学習者に教えるか～多文化共生～ 第3回 上手な教え方の工夫～学習者要因における困難～ 第4回 実習授業1(担当箇所) 第5回 実習授業2(担当箇所) 第6回 実習授業3(担当箇所) 第7回 実習授業4(担当箇所) 第8回 実習授業5(担当箇所) 第9回 実習授業6(担当箇所) 第10回 実習授業7(担当箇所) 第11回 実習授業8(担当箇所) 第12回 実習授業9(担当箇所) 第13回 実習授業10(担当箇所) 第14回 日本語教育における文法と場面 第15回 実践研修全体総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	担当箇所の教案作り(学習時間2時間) 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備(学習時間2時間)						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。 外部や内部で留学生に対して実習を授業を行うことがある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育実習の基礎」あるいは「日本語教育演習A」を履修済みであること。</li> <li>・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 4年生の人。</li> <li>2 卒業後、TAを目指している人。</li> <li>3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。</li> </ul> </li> <li>・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。</li> <li>・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。</li> </ul>						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊(スリーエーネットワーク) 2,500円 ISBN: 9784883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7331A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。 外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに ～言語学習・言語環境とは～ 第2回 名詞文・名詞文 1-名詞の種類- 第3回 名詞文・名詞文 2-名詞文の構文- 第4回 形容詞・形容詞文 1-形容詞とは- 第5回 形容詞・形容詞文 2-活用による分類- 第6回 形容詞・形容詞文 3-意味による分類- 第7回 動詞の分類 1-動詞とは- 第8回 動詞の分類 2-活用の種類と名称- 第9回 動詞の分類 3-動詞の種類- 第10回 辞書形 第11回 ます形 第12回 て形 第13回 た形 第14回 異文化コミュニケーション～留学生との交流授業～(日程が変わることもある) 第15回 まとめ及び到達度確認テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習 <学習時間2時間> 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。 授業後に事後学習としてmanabaで授業の内容を確認する小テストを行う。						
評価基準と評価方法	授業の参加度・小テスト・リアクションペーパー：50% 期末の到達度確認テストあるいはレポート：40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 留学生との交流授業:10%【到達目標③に関する達成度の確認】 期末の到達度確認テストは授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J7331A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。 外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに ～言語学習・言語環境とは～ 第2回 名詞文・名詞文 1-名詞の種類- 第3回 名詞文・名詞文 2-名詞文の構文- 第4回 形容詞・形容詞文 1-形容詞とは- 第5回 形容詞・形容詞文 2-活用による分類- 第6回 形容詞・形容詞文 3-意味による分類- 第7回 動詞の分類 1-動詞とは- 第8回 動詞の分類 2-活用の種類と名称- 第9回 動詞の分類 3-動詞の種類- 第10回 辞書形 第11回 ます形 第12回 て形 第13回 た形 第14回 異文化コミュニケーション～留学生との交流授業～(日程が変わることもある) 第15回 まとめ及び到達度確認テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習:業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習 <学習時間2時間> 授業後学習:授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。 授業後に事後学習としてmanabaで授業の内容を確認する小テストを行う。						
評価基準と評価方法	授業の参加度・小テスト・リアクションペーパー:50% 期末の到達度確認テストあるいはレポート:40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 留学生との交流授業:10% 【到達目標③に関する達成度の確認】 期末の到達度確認テストは授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7331B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに～言語学習とは～ 第2回 自動詞・他動詞1(自動詞) 第3回 自動詞・他動詞2(他動詞) 第4回 テンス～一般言語学的視点から～ 第5回 アスペクト 第6回 モダリティ 第7回 ヴォイス1(受身1)～対照言語学的視点から～ 第8回 ヴォイス1(受身2) 第9回 ヴォイス2(使役) 第10回 ヴォイス3(可能) 第11回 授受表現1(あげる、もらう、くれる) 第12回 授受表現2(～てあげる、～てもらう、～てくれる) 第13回 助詞 第14回 まとめと到達度確認テスト 第15回目 振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習:業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習<学習時間2時間> 授業後学習:授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。授業後に事後学習としてmanabaで授業の内容を確認する小テストを行う。						
評価基準と評価方法	授業の参加度・小テスト・リアクションペーパー:50% 期末の到達度確認テストあるいはレポート:40%【到達目標①②に関する達成度の確認】 留学生との交流授業:10%【到達目標③に関する達成度の確認】 期末の到達度確認テストは授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J7331B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに～言語学習とは～ 第2回 自動詞・他動詞1(自動詞) 第3回 自動詞・他動詞2(他動詞) 第4回 テンス～一般言語学的視点から～ 第5回 アスペクト 第6回 モダリティ 第7回 ヴォイス1(受身1)～対照言語学的視点から～ 第8回 ヴォイス1(受身2) 第9回 ヴォイス2(使役) 第10回 ヴォイス3(可能) 第11回 授受表現1(あげる、もらう、くれる) 第12回 授受表現2(～てあげる、～てもらう、～てくれる) 第13回 助詞 第14回 まとめと到達度確認テスト 第15回目 振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習:業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習<学習時間2時間> 授業後学習:授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。授業後に事後学習としてmanabaで授業の内容を確認する小テストを行う。						
評価基準と評価方法	授業の参加度・小テスト・リアクションペーパー:50% 期末の到達度確認テストあるいはレポート:40%【到達目標①②に関する達成度の確認】 留学生との交流授業:10%【到達目標③に関する達成度の確認】 期末の到達度確認テストは授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	J7212A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な基礎的な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合がある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身に付けることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：1章 日本語教育と国語教育の共通点と相違点 第3回：2章 国内の日本語学習者～日本の在留外国人政策～ 第4回：2章 海外の日本語学習者～世界と日本の日本語教育事情～ 第5回：3章 日本語教師になるためには～日本語教育史～ 第6回：4章 日本語能力の測定と試験 第7回：5章 コースの目標と評価方法（テスト）を決めよう 第8回：5章 教材について考えよう1 第9回：5章 教材について考えよう2 第10回：5章 何をどの順番で教えるのか考えよう～授業計画とコースデザイン～ 第11回：6章 様々な外国語教授法～教室と言語環境の設定～ 第12回：6章 直接法と間接法 第13回：6章 教授法の最近の傾向 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある）～異文化コミュニケーションを体験してみよう～ 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習〈学習時間：2時間〉 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。〈学習時間2時間〉						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題・試験などの総合評価とする。 課題：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標1に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標2に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	『超基礎 日本語教育』森篤嗣〔編著〕くろしお出版 ISBN978-4-87424-803-4						
参考書	『日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識』岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバ-	J7212A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な基礎的な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合がある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身に付けることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：1章 日本語教育と国語教育の共通点と相違点 第3回：2章 国内の日本語学習者～日本の在留外国人政策～ 第4回：2章 海外の日本語学習者～世界と日本の日本語教育事情～ 第5回：3章 日本語教師になるためには～日本語教育史～ 第6回：4章 日本語能力の測定と試験 第7回：5章 コースの目標と評価方法（テスト）を決めよう 第8回：5章 教材について考えよう1 第9回：5章 教材について考えよう2 第10回：5章 何をどの順番で教えるのか考えよう～授業計画とコースデザイン～ 第11回：6章 様々な外国語教授法～教室と言語環境の設定～ 第12回：6章 直接法と間接法 第13回：6章 教授法の最近の傾向 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある）～異文化コミュニケーションを体験してみよう～ 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習〈学習時間：2時間〉 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。〈学習時間2時間〉						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題・試験などの総合評価とする。 課題：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標1に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標2に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	『超基礎 日本語教育』森篤嗣〔編著〕くろしお出版 ISBN978-4-87424-803-4						
参考書	『日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識』岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	J7212B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合がある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身に付けることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション～日本語教師の資質と能力～ 第2回：7章 いろいろな教材・教具 第3回：7章 初級総合教科書の内容と構成 第4回：7章 教材分析 第5回：8章 学習者の誤用～中間言語分析～ 第6回：9章 日本語を日本語で教えるための工夫～目的・対象別日本語教育法～ 第7回：9章 ティーチャートーク 第8回：10章 教室でのやりとりと学習者へのフィードバック～授業分析・自己点検能力～ 第9回：11章 日本語の授業と教案 第10回：11章 「文型ベース」の授業の流れと展開～授業計画～ 第11回：11章 「タスクベース」の授業の流れと展開～授業計画～ 第12回：12章 日本語の授業の見学～日本語教育プログラムの理解と実践～ 第13回：13章 模擬授業の準備 ロールプレイを活用しよう 第14回：15章 これからの日本語教育 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題・試験などの総合評価とする。 課題：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標1に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標2に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	『超基礎 日本語教育』森篤嗣 [編著] くろしお出版 ISBN978-4-87424-803-4						
参考書	『日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識』岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバ-	J7212B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。(この授業は2クラス開講しているので、どちらを取っても構いません)						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合がある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身に付けることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション～日本語教師の資質と能力～ 第2回：7章 いろいろな教材・教具 第3回：7章 初級総合教科書の内容と構成 第4回：7章 教材分析 第5回：8章 学習者の誤用～中間言語分析～ 第6回：9章 日本語を日本語で教えるための工夫～目的・対象別日本語教育法～ 第7回：9章 ティーチャートーク 第8回：10章 教室でのやりとりと学習者へのフィードバック～授業分析・自己点検能力～ 第9回：11章 日本語の授業と教案 第10回：11章 「文型ベース」の授業の流れと展開～授業計画～ 第11回：11章 「タスクベース」の授業の流れと展開～授業計画～ 第12回：12章 日本語の授業の見学～日本語教育プログラムの理解と実践～ 第13回：13章 模擬授業の準備 ロールプレイを活用しよう 第14回：15章 これからの日本語教育 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題・試験などの総合評価とする。 課題：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標1に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標2に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	『超基礎 日本語教育』森篤嗣 [編著] くろしお出版 ISBN978-4-87424-803-4						
参考書	『日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識』岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語音韻史						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73150
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	古代日本語の音韻および表記の変遷						
授業の概要	音声と文字との関係を理解したのち、日本語における音韻・表記の歴史を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 音と文字との関係が理解できる。</p> <p>b. 音声と音韻との差異が理解できる。</p> <p>c. 日本語の文字・表記史に関する知識を身に付けている。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 事物の構造に意識的である。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 『萬葉集』の表記法</p> <p>03: 音読みと訓読みとの違い</p> <p>04: 音声から文字への転写</p> <p>05: 文字から音声への推定</p> <p>06: 日本への漢字伝来</p> <p>07: 音仮名による音節表記</p> <p>08: 訓仮名による音節表記</p> <p>09: 音訓の交用</p> <p>10: 漢文と和文との違い</p> <p>11: 和文の成立</p> <p>12: 歌の文字化</p> <p>13: 万葉仮名文から仮名文へ</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習(毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習(毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p> <p>(3) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標(1, 3)の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標(2, 3)の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書							
参考書	<p>樺島 忠夫(1979)『日本の文字: 表記体系を考える』(岩波新書・黄版75) 岩波書店</p> <p>小松 茂美(1968)『かな: その成立と変遷』(岩波新書・青版679) 岩波書店</p> <p>服部 四郎[1951](1979)『新版 音韻論と正書法』大修館書店</p> <p>佐竹 昭廣・木下 正俊・小島 憲之(校訂)(1998)『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本語教育入門／日本語入門						
担当教員	田附 敏尚・池谷 知子					科目ナンバ-	J01020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。(知識・理解) ② 受講内容に対する自分の考えを文章化して述べるができるようになる。あるいはその考えをもって他者との議論ができるようになる。(汎用的技能)						
授業計画	オムニバス科目 (池谷知子: 8回担当, 田附敏尚: 7回担当) 《池谷担当》 第1回 インTRODクシヨN [PC必携] 第2回 世界の言語と日本語 [PC必携] 第3回 日本語の文字1 (ひらがな・カタカナ) [PC必携] 第4回 日本語の文字2 (漢字) [PC必携] 第5回 世界の文字 [PC必携] 第6回 日本語の語彙1 (和語・漢語) [PC必携] 第7回 日本語の語彙2 (外来語・和製英語・混種語) [PC必携] 第8回 まとめと日本語教育の復習テスト [PC必携] 《田附担当》 第9回 日本語の音声・音韻1 (子音・母音) [PC必携] 第10回 日本語の音声・音韻2 (アクセント・イントネーション) [PC必携] 第11回 日本語の文法1 (学校文法) [PC必携] 第12回 日本語の文法2 (現代の文法研究の考え方) [PC必携] 第13回 日本語のバリエーション1 (地域方言) [PC必携] 第14回 日本語のバリエーション2 (社会方言) [PC必携] 第15回 まとめと日本語の復習テスト [PC必携]						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前: 授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。〈学習時間: 2時間〉 授業後: 授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。〈学習時間: 2時間〉 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	〈BYOD対象科目〉 ・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 ・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 (授業へ取り組み・ペアワークなどの積極性、リアクションペーパーなどの総合的判断) 40% 【到達目標②に関する到達度の確認】 中間および期末試験40%、小テスト・課題20% 【到達目標①に関する到達度の確認】						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい (大学の学びの基本です)。 ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟 (2018) 『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN: 978-4866391915 藤田保幸 (2010) 『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN: 978-4757605411 野田尚史・野田春美 (2017) 『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN: 978-4469213621						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本語教育入門／日本語入門						
担当教員	田附 敏尚・池谷 知子					科目ナンバ-	J01020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。(知識・理解) ② 受講内容に対する自分の考えを文章化して述べるができるようになる。あるいはその考えをもって他者との議論ができるようになる。(汎用的技能)						
授業計画	オムニバス科目 (田附敏尚：8回担当、池谷知子：7回担当) 《田附担当》 第1回 インTRODクシヨン [PC必携] 第2回 日本語の音声・音韻1 (子音・母音) [PC必携] 第3回 日本語の音声・音韻2 (アクセント・イントネーション) [PC必携] 第4回 日本語の文法1 (学校文法) [PC必携] 第5回 日本語の文法2 (現代の文法研究の考え方) [PC必携] 第6回 日本語のバリエーション1 (地域方言) [PC必携] 第7回 日本語のバリエーション2 (社会方言) [PC必携] 第8回 まとめと日本語の復習テスト [PC必携] 《池谷担当》 第9回 世界の言語と日本語 [PC必携] 第10回 日本語の文字1 (ひらがな・カタカナ) [PC必携] 第11回 日本語の文字2 (漢字) [PC必携] 第12回 世界の文字 [PC必携] 第13回 日本語の語彙1 (和語・漢語) [PC必携] 第14回 日本語の語彙2 (外来語・和製英語・混種語) [PC必携] 第15回 まとめと日本語教育の復習テスト [PC必携]						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。＜学習時間：2時間＞ 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。＜学習時間：2時間＞ 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	＜BYOD対象科目＞ ・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 ・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 (授業へ取り組み・ペアワークなどの積極性、リアクションペーパーなどの総合的判断) 40% 【到達目標②に関する到達度の確認】 中間および期末試験40%、小テスト・課題20% 【到達目標①に関する到達度の確認】						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい (大学の学びの基本です)。 ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟 (2018) 『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN : 978-4866391915 藤田保幸 (2010) 『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN : 978-4757605411 野田尚史・野田春美 (2017) 『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN : 978-4469213621						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語文法史						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73160
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	古典日本語力の強化						
授業の概要	作歌・作文を通して、古典日本語文法の基礎を習得すると共に、日本語史の素養を身に付ける。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: 古典日本語文法の基礎を習得している。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 事物の構造に意識的である。 b. 外界を正確に言語化できる。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 古典日本語と現代日本語との関係 03: 文の構造 04: 文節の構造 05: 名詞の構造 06: 受身、自発、可能、使役、否定の文法的表現 07: 06を使った作歌・作文 08: 時間、現実性の文法的表現 09: 08を使った作歌・作文 10: 08に生じた史的变化 11: 妥当性、可能性、現実性の表現 12: 意志、勧誘、願望の表現 13: 11, 12を使った作歌・作文 14: 全体のまとめと期末課題指導 15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。 (3) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した芸術的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	無し。						
参考書	<p>清瀬 義三郎 則府（1971）「連結子音と連結母音と：日本語動詞無活用論」『國語學』86, pp. 42-56、國語學會 小田 勝（2015）『実例詳解 古典文法総覧』和泉書院</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。						
到達目標	①日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。【知識・理解】 ②日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス、日本書道史について</li> <li>2) 漢字の伝来以前と漢字の受容</li> <li>3) 奈良時代①（中国の書）</li> <li>4) 奈良時代②（天平文化・万葉仮名）</li> <li>5) 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺）</li> <li>6) 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺）</li> <li>7) 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成）</li> <li>8) 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙）</li> <li>9) 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経）</li> <li>10) 室町時代（墨跡）</li> <li>11) 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺）</li> <li>12) 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書）</li> <li>13) 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論）</li> <li>14) 昭和初期・戦後現代（ゲストスピーカーによる講義）</li> <li>15) 今日の書の展望</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容について教科書を読んで予習すること。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：扱った内容を復習すること。また、授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行うこと。（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p>						
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション						
評価基準と評価方法	<p>平常点20%：授業態度</p> <p>テスト50%：到達目標①の到達度確認</p> <p>課題・レポート30%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：テストは返却し、レポートは授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。</p> <p>関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。</p>						
教科書	『決定版 日本書道史』名児耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円＋税金 適宜プリントを配布する。						
参考書	『書学挙要－書の歴史と文化－』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本の近現代戯曲						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J71660
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	如月小春の戯曲『DOLL』を読む。						
授業の概要	1980年代を代表する劇作家如月小春の『DOLL』を読む。戯曲を場面ごとに読んで、戯曲の構造を理解していく。そして戯曲と上演との関係も映像記録などを使って説明していく。また、テーマとなっている高校生の自殺という社会問題がどのように描かれているか考察も行っていく。						
到達目標	①舞台上演を前提とした日本の小劇場戯曲の基本的な特徴について予備知識のない人がわかるように説明できるようになる。(知識・理解) ②現代社会という視点から戯曲を読み、現在の社会が抱える問題を分析して理解を深めて自分の考えを述べ、レポートを作成できる能力をつける。(汎用的技能) ③社会が抱える課題への関心を高め、自分でリサーチできる能力を身につける。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の説明：上演記録、そしてテーマとその背景について【対面】</li> <li>2. 小説と違った戯曲にある約束事についての解説【対面】</li> <li>3. 第1場：場所の描写、登場人物の紹介【遠隔】</li> <li>4. 第2場：みどりの人物描写、夢の世界の表現【遠隔】</li> <li>5. 刑事たちと1980年代という時代の関係【遠隔】</li> <li>6. 第3場：いつみの人物描写 優等生という苦悩、独白の役割について【遠隔】</li> <li>7. 第4場：麻里の人物描写 高校生の受験に対する意識、将来の悩みとは【遠隔】</li> <li>8. 第5場：京子の人物描写 大人への反抗とその理由【遠隔】</li> <li>9. 第6場：恵子の人物描写 他人への気遣い、自己主張の難しさ【遠隔】</li> <li>10. 第7場：海という存在についての考察【遠隔】</li> <li>11. 第8場：刑事たちの劇における役割について【遠隔】</li> <li>12. 第9場：「なぜ、少女たちはみずになったのか」というメッセージについての考察【遠隔】</li> <li>13. まとめ① 象徴としての刑事たち【遠隔】</li> <li>14. まとめ② 劇構造におけるサスペンスについて【対面】</li> <li>15. まとめ③ このテーマは現代社会にも当てはまることなのかを考えてみる【対面】</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>【授業前準備学習】各回授業で扱うテキスト(戯曲)を読み、戯曲の特徴や登場人物の心情の理解を深める。また次回の授業テーマと関連した課題として、提示された社会現象、歴史に関する事柄の詳細を調べる。(学習時間2時間程度)</p> <p>【授業後学習】授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)</p>						
授業方法	<p>〈遠隔指定授業〉</p> <p>4回の講義形式での対面授業：授業内容の導入時やまとめの授業で実施し、重要なポイントを解説するとともに、グループでディスカッションも行う。</p> <p>11回の遠隔での講義：戯曲と映像の分析方法を提示し、課題を与える。また、グループに分かれてディスカッションの時間を与え、考えを共有し、理解を深める。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物(40%)、期末レポート(60%)</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。(到達目標②と③の確認)</p> <p>期末レポート：戯曲の社会的なテーマを議論して明確に述べ、戯曲と上演の特徴をどれだけ理解しているか評価する。(到達目標①と②)</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	manabaのコンテンツに授業資料も含めてあげておく。						
参考書	『如月小春のフィールドノート』如月小春(著)、而立書房						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本美術史						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ-	J72580
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	絵画・書跡・彫刻・工芸・建築など、日本美術の歴史的な変遷を概観する。						
授業の概要	東アジアの東端に位置する日本は、中国や朝鮮半島からの大陸文化をはじめ、海外からの影響を受けながら、独自の文化を形成してきた。美術分野においても、外来の美術様式の受容と和様化の歴史を繰り返しながら、独自の美的世界を創造してきた。古代から現代にいたる日本美術の流れを概観し、日本文化特有の美意識や思想について考察する。						
到達目標	(1) 古代から現代までの多様な美術に関連する一連の変遷を理解することで、日本の文化の特質についての深い知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2) 次世代の人々や諸外国の人々に、日本の美術をベースとしながら、伝統文化の特色を紹介することができるようになる。【汎用的技能】 (3) 一連の美術の変遷を知ることで、豊かな感性を持って自身の美術に関する指向性を認識し、深く学び続けようとする姿勢を持つことができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨN 「美術」とは何かー 第2回 縄文・弥生・古墳時代の美術 第3回 飛鳥・奈良時代の美術ー古代国家の造形、仏教美術を中心にー 第4回 平安時代前期の美術ー密教美術の展開と浄土美術の諸相ー 第5回 平安時代後期の美術 第6回 鎌倉時代の美術 第7回 南北朝・室町時代の美術ー禅宗美術、東山文化を中心にー 第8回 桃山・江戸時代初期の美術ー織豊政権と茶の湯文化を中心にー 第9回 江戸時代前期の美術ー寛永美術の展開ー 第10回 江戸時代中期の美術ー元禄美術の展開ー 第11回 江戸時代後期の美術ー化政美術の展開ー 第12回 明治期の美術ー文明開化と近代精神の揺らぎー 第13回 大正・昭和前期の美術ーモダニズムと軍国主義ー 第14回 昭和後期・平成期の美術ー戦後から現代へー 第15回 日本美術史のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：各回の授業で指示された教科書の指定ページを読了しておき、図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、「日本美術」に関連した新聞記事やテレビの特別番組、美術館の公式SNSなどを読んだり視聴したりすること。近隣の博物館・美術館で開催される「日本美術」に関連する展覧会を観覧することなども、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。コロナ禍の推移によって対面授業、遠隔授業のいずれになっても、manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。 また、日本美術に関連する展覧会(特に京阪神での開催展)については、展覧会チラシなどの資料を随時配布し、授業に関連して展覧会内容を紹介する。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料などに対する対応などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%：毎回の小テストや出題した課題に対する内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】と(3)【態度・指向性】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1) 出席が授業回数数の3分の2以上になるように心がけること。 (2) 配布したレジメなどは可能ならばファイリングして毎回の授業に持参すること。 (3) 近隣の博物館等の茶の湯などの展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	『増補新装[カラー版]日本美術史』辻惟雄監修 美術出版社〔2018〕ISBN:978-4-568-40065-6(本体価格:1,900円+消費税) なお、各回の授業ごとにレジメや資料類、授業に関連する展覧会チラシなどを適宜配布する。						
参考書	『日本美術史 美術出版ライブラリー-歴史編』山下裕二・高岸輝監修 美術出版社(2014) ISBN:978-4-568-38907-4 『日本美術の歴史』辻惟雄著 東京大学出版会(2012) ISBN:978-4-13-082086-8 『教養の日本美術史』古田亮監修 ミネルヴァ書房(2019) ISBN:978-4-623-08515-6 『日本美術全集 1-24巻+別巻1・2』前川誠郎ほか編集 講談社(1990-94) ISBN:4-06-196401-1 ほか						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶ						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J72180
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	平安朝の生活と文化						
授業の概要	日本文化を理解してゆく上で、平安朝の人々の生活と文化への理解は重要で欠くことのできない土台となる。この授業では、文学作品に現れる具体的なシーン、歴史的資料や図録などを併用しながら、平安時代の生活と文化について講義する。前回の講義に関する小テストを実施する。						
到達目標	(1) 平安貴族の暮らしと文化について、理解し説明できる。【知識・理解】 (2) 日本文化全般、あるいは現代と比較して、平安時代の文化や生活の特徴を記述できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 平安京 第2回 後宮 第3回 宮仕え・宮廷行事 第4回 貴族の邸宅 第5回 食生活 第6回 女性の一生・結婚の制度と風習 第7回 妊娠出産に関わる事情 第8回 女性と服飾とその美 第9回 女性美としての生活の品々と乗り物 第10回 女性の容姿美・美容 第11回 女性と教養 第12回 娯楽 第13回 病気と医療・葬儀と服喪 第14回 女性と宗教 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 次回テーマについて指示した内容を予習する。とくに疑問に感じたことをメモして質疑に備える。〈1時間〉 授業後学習： 授業で学んだことを復習し、とくに予習で疑問に感じたこととその解決を記録しておく。〈1時間〉						
授業方法	テキストを用いた講義と資料の読解。内容理解に基づいた分かち合い、ディスカッション。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 取り組み姿勢 10% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	池田亀鑑『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫） ISBN-13：978-4480094285						
参考書	必要に応じ指示します。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文学・文化入門						
担当教員	長谷川 佳男・丸山 果織					科目ナンバ-	J01040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学・文化についての基礎						
授業の概要	日本語日本文学学科の学生として理解しておかなければならない日本文学と文化の基礎的な事柄について学ぶ。						
到達目標	(1) 日本の文学と文化について基礎的な事柄について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 日本の文学と文化の、時代の変化を理解し、その特徴を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	<p>オムニバス科目（長谷川佳男：8回担当、丸山果織：7回担当） BYOD対象科目</p> <p>第1回 日本の歴史・文学・美術における時代区分（長谷川） [PC必携] 第2回 干支について（長谷川） [PC必携] 第3回 暦について（長谷川） [PC必携] 第4回 和歌の修辞技巧①（枕詞・序詞など）について（長谷川） 第5回 和歌の修辞技巧②（本歌取り・歌枕など）について（長谷川） 第6回 物語について（長谷川） 第7回 能・狂言について（長谷川） 第8回 浄瑠璃・歌舞伎について（長谷川） 第9回 文字の変遷について（丸山） [PC必携] 第10回 日本美術①古代～近世について（丸山） [PC必携] 第11回 日本美術②近代～現代(1)について（丸山） [PC必携] 第12回 日本美術③現代(2)について（丸山） [PC必携] 第13回 四季と節句①について（丸山） 第14回 四季と節句②について（丸山） 第15回 芸道について、手紙について（丸山）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：次回の授業で扱う課題について提示された事柄について調べる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだ事柄について確認し、整理する。 授業中に提示した課題について調べ、レポートなどにまとめる。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>〈BYOD対象科目〉 講義と演習 PCで作業する回もある。 また、調べて来たことを発表するプレゼンテーションも取り入れる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト40% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 レポート40% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 平常点（授業中に書き込んだワークシート、リアクションペーパー、およびプレゼンテーションを含めた授業に対する取り組み）20% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・欠席をしないこと。理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 授業中にワークシートを書き込んだり、小テストを実施したりするので、出席することが重要。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。 推薦図書の読書レポートの課題を課す。</p>						
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文学・文化入門						
担当教員	長谷川 佳男・丸山 果織					科目ナンバ-	J01040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学・文化についての基礎						
授業の概要	日本語日本文学学科の学生として理解しておかなければならない日本文学と文化の基礎的な事柄について学ぶ。						
到達目標	(1) 日本の文学と文化について基礎的な事柄について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 日本の文学と文化の、時代の変化を理解し、その特徴を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	<p>オムニバス科目（丸山果織：8回担当、長谷川佳男：7回担当）          BYOD対象科目          第1回 日本の歴史・文学・美術における時代区分（丸山）【PC必携】          第2回 文字の変遷について（丸山）【PC必携】          第3回 日本美術①古代～近世について（丸山）【PC必携】          第4回 日本美術②近代～現代(1)について（丸山）【PC必携】          第5回 日本美術③現代(2)について（丸山）【PC必携】          第6回 四季と節句①（春・夏）について（丸山）          第7回 四季と節句②（秋・冬）について（丸山）          第8回 芸道について、手紙について（丸山）          第9回 干支について（長谷川）【PC必携】          第10回 暦について（長谷川）【PC必携】          第11回 和歌の修辞技巧①（枕詞・序詞など）について（長谷川）          第12回 和歌の修辞技巧②（本歌取り・歌枕など）について（長谷川）          第13回 物語について（長谷川）          第14回 能・狂言について（長谷川）          第15回 浄瑠璃・歌舞伎について（長谷川）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：次回の授業で扱う課題について提示された事柄について調べる。（学習時間：2時間）          授業後学習：授業で学んだ事柄について確認し、整理する。          授業中に提示した課題について調べ、レポートなどにまとめる。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>〈BYOD対象科目〉          講義と演習          PCで作業する回もある。          また、調べて来たことを発表するプレゼンテーションも取り入れる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト40% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。          レポート40% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。          平常点（授業中に書き込んだワークシート、リアクションペーパー、およびプレゼンテーションを含めた授業に対する取り組み）20%          到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・欠席をしないこと。理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。          授業中にワークシートを書き込んだり、小テストを実施したりするので、出席することが重要。          3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。          推薦図書の読書レポートの課題を課す。</p>						
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	ファンタジーの世界						
担当教員	釣 馨					科目ナンバ-	J73750
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの起源と構造、およびファンタジーの現代性について理解する						
授業の概要	ファンタジーは、神話や伝承から得た着想をテーマに掲げ、魔法などの空想的な要素が一貫性のある設定として導入されている。一方でファンタジーは架空の世界にもかかわらず、その世界には作品が書かれた地域やその時代の文化や思想が背景にある。それらを3大ファンタジー（『指輪物語』『ナルニア国物語』『ゲド戦記』）と現代の新しいファンタジーの中に読み取りつつ、比較、整理する。						
到達目標	近現代の小説、詩歌、演劇、映画、サブカルチャー、ジャーナリズム、広告などの諸相において、その文化的意味、現代的意義を享受し、理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ファンタジーとは何か 定義・歴史・構造 第2回 『指輪物語』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第3回 『指輪物語』(2) 物語の構成と素材について 第4回 『ナルニア国物語』の特徴 第5回 『ゲド戦記』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第6回 『ゲド戦記』(2) 物語の構成と映画版との違い 第7回 「ハリー・ポッター」シリーズ(1) 「秘密の部屋」の鑑賞と作品全体の概要 第8回 「ハリー・ポッター」シリーズ(2) 作品が反映する現代社会の問題 第9回 「ハリー・ポッター」シリーズ(3) ウォルデモートに見られる悪と血統の問題 第10回 『千と千尋の神隠し』(1) 作品の鑑賞 物語の概要 第11回 『千と千尋の神隠し』(2) 善と悪の問題とイニシエーション 第12回 『千と千尋の神隠し』(3) 女性と労働 第13回 『アナと雪の女王』(1) 「アナ雪」の新しさ 第14回 『アナと雪の女王』(2) ポストフェミニズム 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で映画になったファンタジー作品を部分的に鑑賞するが、全体を通して見る時間がないので、授業の前に各自で作品を見ておくこと（学習時間2時間）。また毎回授業のまとめと意見を書くプリントに、自分で見たり読んだりした作品の小レポートを書く欄を設けるので、自分で興味を持った作品を選び、書き込んでおくこと（学習時間2時間）。						
授業方法	講義。毎回、取り上げる作品のワンシーンを見ながら、また配布したプリントに重要なポイントを書き込んでもらいながら解説していきます。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物50%：各回の授業の最後にリアクションペーパーとして授業内容の簡単なまとめと自分なりの解釈を書いてもらい、評価します。それによって到達目標に関する到達度を確認します。筆記試験50%：授業で扱ったファンタジー論に対する理解度、それを自分の言葉で表現する力を評価します。それによって到達目標に関する到達度を確認します。						
履修上の注意	出席を重視します。						
教科書	教科書は使用せず、随時プリントを配布します。						
参考書	小谷真理『ファンタジーの冒険』、脇明子『魔法ファンタジーの世界』、アーシュラ・K・ル＝グウィン『夜の言葉 ファンタジー・SF論』、島田裕己『ハリー・ポッター 現代の聖書』、河野真太郎『戦う姫、働く少女』						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文芸創作法						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	J72760
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の文法を学びながら、ヒット作の創作方法を探る。						
授業の概要	ハリウッド映画の法則、ファンタジーの文法について学ぶ。エンタテインメントと「芸術」の境界がどこにあるのかについても考える。						
到達目標	【知識・理解】 虚構作品の法則性を指摘することができる。 【汎用的技能】 物語を「劇」構築の観点から読み解くことができる。						
授業計画	1. 導入 2. 映画の脚本術 (1) インTRODクシヨN 3. 同 (2) ファースト・インシデント 4. 同 (3) ターニングポイント 5. 同 (4) クライマックスとエンディング 6. 物語の文法 (1) 発端の状況 7. 同 (2) 禁止・留守・禁を破る 8. 同 (3) 援助者の出現・呪具の贈与 9. 同 (4) 敵の出現・戦い 10. 同 (5) 難題の解決と帰還 11. 劇の構築 (1) 溝口健二の映画 12. 同 (2) 近松浄瑠璃 13. 同 (3) シナリオの制作過程 14. 小説作法入門 15. まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：いろいろな物語を鑑賞する。(2時間) 事後学習：いろいろな映像作品を見る。(2時間)						
授業方法	講義。テーマについて解説した後、質疑応答形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点(56%)：質疑応答の内容を3段階で評価する。 期末テスト(44%)：講義内容を問う問題 通常授業時の質疑応答では、虚構の法則性に気づくことができるかどうかを評価基準とする。 講義内容を問う問題では、物語の法則と虚構作品における劇構築について尋ね、理解の程度に応じて評価する。						
履修上の注意	1/3以上欠席した者は受験資格を失う。						
教科書	プリント配布。						
参考書	芦刈いずみ『時計仕掛けのハリウッド映画』(角川SSC新書) W・プロップ『昔話の形態学』(水声社) 宮原昭夫『書く人はここで躓く!』(河出書房新社)						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	文芸と公共性						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J73620
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸との出会いの場を考える						
授業の概要	この講義では、ミュージアムや図書館、劇場などの文化施設を対象に、文芸の魅力をいかにして伝えることができるかを考える。各施設ごとに、その領域を専門とする教員が現況の解説と課題提示を行ったあと、受講生のグループが主体となって文芸との出会いの場を企画検討し、発表する。受講生は情報収集から企画の検討、プレゼンテーションまで、グループごとに協力して作業を進めることが求められる。これら課題解決型の学びを通して、これからの文芸的公共圏のありようを探ることを目指す。						
到達目標	(1) 文芸的営みの所産が現代社会のなかでもつ意味や価値を認識し、理解することができる。【知識・理解】 (2) また、それらが抱える問題を的確に把握し、他者との協働作業を通じて、解決するためのアイデアを発信することかできる。【汎用的技能】 (3) 文芸に対する興味や関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 文芸と公共性</li> <li>3 図書館の企画(1) : 課題の提示、グループ分け</li> <li>4 図書館の企画(2) : グループワーク① : 情報収集、企画の検討</li> <li>5 図書館の企画(3) : グループワーク② : 発表準備</li> <li>6 図書館の企画(4) : プレゼンテーション、投票</li> <li>7 ミュージアムの企画(1) : 課題の提示、グループ分け</li> <li>8 ミュージアムの企画(2) : グループワーク① : 情報収集、企画の検討</li> <li>9 ミュージアムの企画(3) : グループワーク② : 発表準備</li> <li>10 ミュージアムの企画(4) : プレゼンテーション、投票</li> <li>11 劇場の企画(1) : 課題の提示、グループ分け</li> <li>12 劇場の企画(2) : グループワーク① : 情報収集、企画の検討</li> <li>13 劇場の企画(3) : グループワーク② : 発表準備</li> <li>14 劇場の企画(4) : プレゼンテーション、投票</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>※授業資料の配付や発表準備のため、毎回 [PC必携]。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の前後に、授業内で指示した課題について、松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。(学習時間 : 4時間)						
授業方法	〈BYOD対象科目〉 グループワークを通して企画を検討し、その成果をプレゼンテーションのかたちで発表するPBL型の授業を行う。 ICT機器を活用して受講生の考えや意見を取り入れるなど、双方向型の授業を実施する。 松蔭manabaを利用して授業の前後学習を行う。						
評価基準と評価方法	<p>プレゼンテーション 75% : 授業で扱ったテーマの理解度および企画内容的確性・創造性を評価する。到達目標(1)および(2)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度 25% : グループワークへの積極的な参加を評価する。到達目標(2)および(3)の到達度の確認。</p> <p>プレゼンテーションに対する評価は、翌週の授業で紹介することでフィードバックする。</p>						
履修上の注意	グループワークへの積極的な参加が求められる。できない場合は単位取得が難しくなる。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	文法の基礎知識						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J72020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の文法の基礎的な知識を学ぶ						
授業の概要	ことばの規則性には発音、単語の作り方、文法などのような「ことばそのもの」に関わる規則性がある。同時に、敬語や、書きことばと話しことばの区別、男女差など「ことばの適切な使い分け」にも規則性がある。この授業では特に「ことばそのもの」に関わる規則に支えられた「日本語のしくみ」が見えてくるさまざまな現象を取り上げることによって、日本語という言語を考える。						
到達目標	(1) 母語である「日本語」の文法に関する基礎知識を身につけ、文法についての間違いの指摘や説明ができる。【知識・理解】 (2) 受講内容について批判的に考え、その考えを文章にして記述することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション [PC必携] 第2回 日本語の品詞/活用 [PC必携] 第3回 格助詞 [PC必携] 第4回 使役 [PC必携] 第5回 受身 [PC必携] 第6回 テンス [PC必携] 第7回 アスペクト [PC必携] 第8回 モダリティ [PC必携] 第9回 条件 [PC必携] 第10回 名詞修飾/連体修飾と連用修飾 [PC必携] 第11回 「は」と「が」 [PC必携] 第12回 とりたて助詞 [PC必携] 第13回 「のだ」 [PC必携] 第14回 授受表現/省略 [PC必携] 第15回 まとめ・テスト [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べる。授業内で講義内容に関する小テストを毎回行うので、その準備をする。(学習時間：2時間) 授業後：授業後に内容に関する復習テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理し、復習テストに臨む(学習時間：2時間)						
授業方法	<BYOD対象科目> 講義：基本的には講義形式だが、受講者にgoogleフォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、例文作成などの課題を課すこともある。 毎回松蔭manabaを使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(コメントの内容含む) 30% (到達目標(2)に関する到達度の確認) 小テスト30% (到達目標(1)に関する到達度の確認) 期末試験40% (到達目標(1)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある(退席者は当該の回は欠席と見做す)。 ・基本的に3分の2以上の出席がなければ期末試験の受験は認められない。						
教科書	庵功雄他(2020)『やさしい日本語のしくみ-日本語学の基礎-改訂版』くろしお(1100円) ISBN: 978-4-87424-830-0 C0080						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことをスライドにまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、学科の学びに関する学術的調査を行なう。 (2) 学科の学びを対象とする学術的調査とその結果とを短時間で理解できるスライドにまとめ、プレゼンテーションを行なう。 (3) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(1) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。【汎用的技能(2)】 (2) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。【汎用的技能(1)】 (3) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。【汎用的技能(2)(3)】</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明/文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第02回 課題の決定 第03回 要約の仕方 第04回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 [PC必携] 第05回 スライド資料作成① [PC必携] 第06回 スライド資料作成② [PC必携] 第07回 スライドの発表練習① [PC必携] 第08回 スライドの発表練習② [PC必携] 第09回 スライド資料修正① [PC必携] 第10回 スライド資料修正② [PC必携] 第11回 スライドの発表と質疑応答① [PC必携] 第12回 スライドの発表と質疑応答② [PC必携] 第13回 スライドの発表と質疑応答③ [PC必携] 第14回 スライドの発表と質疑応答④ [PC必携] 第15回 スライドの発表と質疑応答⑤ [PC必携]</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>〈BYOD対象科目〉 演習形式： 基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。 また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容：80% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質)：20% (到達目標(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことをスライドにまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。  具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、学科の学びに関する学術的調査を行なう。  (2) 学科の学びを対象とする学術的調査とその結果とを短時間で理解できるスライドにまとめ、プレゼンテーションを行なう。  (3) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(1) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。【汎用的技能(2)】  (2) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。【汎用的技能(1)】  (3) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。【汎用的技能(2)(3)】</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明/文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明  第02回 課題の決定  第03回 要約の仕方  第04回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 [PC必携]  第05回 スライド資料作成① [PC必携]  第06回 スライド資料作成② [PC必携]  第07回 スライドの発表練習① [PC必携]  第08回 スライドの発表練習② [PC必携]  第09回 スライド資料修正① [PC必携]  第10回 スライド資料修正② [PC必携]  第11回 スライドの発表と質疑応答① [PC必携]  第12回 スライドの発表と質疑応答② [PC必携]  第13回 スライドの発表と質疑応答③ [PC必携]  第14回 スライドの発表と質疑応答④ [PC必携]  第15回 スライドの発表と質疑応答⑤ [PC必携]</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>〈BYOD対象科目〉  演習形式：  基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。  また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容：80% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質)：20% (到達目標(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことをスライドにまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。  具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、学科の学びに関する学術的調査を行なう。  (2) 学科の学びを対象とする学術的調査とその結果とを短時間で理解できるスライドにまとめ、プレゼンテーションを行なう。  (3) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(1) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。【汎用的技能(2)】  (2) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。【汎用的技能(1)】  (3) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。【汎用的技能(2)(3)】</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明/文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明  第02回 課題の決定  第03回 要約の仕方  第04回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 [PC必携]  第05回 スライド資料作成① [PC必携]  第06回 スライド資料作成② [PC必携]  第07回 スライドの発表練習① [PC必携]  第08回 スライドの発表練習② [PC必携]  第09回 スライド資料修正① [PC必携]  第10回 スライド資料修正② [PC必携]  第11回 スライドの発表と質疑応答① [PC必携]  第12回 スライドの発表と質疑応答② [PC必携]  第13回 スライドの発表と質疑応答③ [PC必携]  第14回 スライドの発表と質疑応答④ [PC必携]  第15回 スライドの発表と質疑応答⑤ [PC必携]</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>〈BYOD対象科目〉  演習形式：  基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。  また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容：80% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質)：20% (到達目標(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	青山 ゆみこ					科目ナンバ-	J73650
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「思わず読んでしまう」文章を書く：さまざまなメディアのなかでメッセージ性の高い文章を、「書き手」「読み手」という2つの面から分析し、自分の考えや思いが伝わる文章を書く力を実践的に身につけます。						
授業の概要	<p>「書かれたもの」は「読まれたもの」。文章は、「書き手」と「読み手」がいて成立する、双方向の関わりの中にあります。書籍、コミック、SNS、Webニュース、新聞、YouTubeなど、言葉のメッセージを届けるさまざまなメディアがあり、「思わず読んでしまう」「(自分に)入ってくる」文章やフレーズと、そうでない言葉の違いはなんですか。</p> <p>メッセージを受けとる力は、発信する力ともなります。「読む」「書く」の両面からメッセージの背景や構造を読み解くことで、最終的には自分がメッセージの発信者として「声を届ける」文章を書く力を伸ばすことが目的です。</p> <p>授業では、ぼんやり頭に浮かんだこと、なんとなく感じることといった、自分のなかにある言葉にならないものを言葉に換えるワークや、メッセージを「受信する側(読み手/聞き手)」「発信する側(書き手/話し手)」のどちらの側も体験するワークなど、「声(ヴォイス)」の発信者としての意識を高めるさまざまなワークから実践的に学びます。宛先のある文章を書いて、誰かに「読まれる」体験までを共有します。</p>						
到達目標	<p>(1) 自己の内面を言語化し、他者に伝える文章表現ができる。【汎用的技能】</p> <p>(2) さまざまなメディアの発信の意図や、情報の背景を読み解くことができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) 言葉によるコミュニケーションで他者の理解を深めることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>(4) 社会のさまざまなテーマを編集的な視点から捉え直し、文章表現やコピーライティングで独創的に表現することができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(シラバス解説/授業の目的、内容、進め方、評価の方法など)文章の宛先。「書かれたもの」の声(ヴォイス)を検証する。 「発信」と「受信」、「話す」「聞く」と「書く」「読む」</p> <p>第2回 「自分の言葉」ってなんだ? 「いつ」「誰」から言葉を身につけたのか 言葉がある「場所」の考察。書籍、コミック、SNS、YouTube、映像のテロップ・字幕</p> <p>第3回 まだ見ぬ言葉を求めて「ほんとは言いたかったこと」 言葉になる前の感情・感覚を言語化する</p> <p>第4回 エッセイを読む、「人の話」を聞く</p> <p>第5回 「言葉」で見る その場で生まれる声、対話的コミュニケーション</p> <p>第6回 聞いて、書く(1): 複数の視点・言葉から思考を深める</p> <p>第7回 聞いて、書く(2): 聞き書き・インタビューの手法</p> <p>第8回 聞いて、書く(3): 口語テキストの編集手法、語り口の多様性を学ぶ</p> <p>第9回 Webコンテンツ・誌面編集の基本</p> <p>第10回 校正・推敲という「読み」方 書き手視点と読み手視点</p> <p>第11回 「伝わる文章」とはなにか(1): クリエイティブライティング 課題テーマを読み解く、読み手の想定、自分の文体をさぐる</p> <p>第12回 「伝わる文章」とはなにか(2): テーマ選び、書く目的、宛先 編集するように書く手法、文章展開の技法</p> <p>第13回 「伝わる文章」とはなにか(3): どう「読まれたか」を知る 作品講評、読まれ方の多様さを体験する</p> <p>第14回 「伝わる文章」とはなにか(4): 感想をシェアする 読んで感じたことを「伝える」</p> <p>第15回 まとめ 授業全体の振り返り</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>【事前学習】毎日30分程度(3時間半/週) インターネット、新聞、雑誌などのニュース報道・インタビュー・コラムなどから記名(執筆者名がクレジットされている)記事を読むこと。</p> <p>【事後学習】(2時間程度) 毎回、講義やワークで見聞きした要素から、「そういえば」と自分に引き寄せてエピソードを書くショートストーリーを作成してください(作文課題として毎回提出)。</p>						
授業方法	パソコン教室での講義・演習の両方のスタイルで、人の意見を聞くことにより思考を深める実践ワークを取り入れて授業を行います。 講義の要旨は、授業前にmanabaにアップ、レジュメを配布し、それらをもとに講義します。						
評価基準と評価方法	<p>成績は以下の配点で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提出物の総合評価(毎回の講義振り返り作文 約400~800字/期末の課題文章 約1200~1800字) 60%</li> <li>積極的な授業態度(ワークへの参加/質問応答など) 40%</li> </ul> <p>※提出物へのフィードバックは授業時間内にも行います。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」が好きだけれどうまく書けない。評価が気になって自由に書けないという人。また、アカデミック・ライティングではない、読む人を楽しませるクリエイティブ・ライティングに興味のある人は、ぜひ受講してください。</li> <li>「書くこと」だけでなく、「読むこと」「話すこと」「聞くこと」の練習のための参加型ワークも行いますので、大幅な遅刻や欠席の場合はできるかぎり事前に連絡してください。</li> <li>2/3以上の出席に満たない人は受講資格を失います。</li> </ul>						

教科書	『街場の文体論』内田樹著、ミシマ社 ISBN978-4-16790580-4 『人生最後のご馳走』青山ゆみこ著、幻冬舎 ISBN978-4-344-02826-5 『文にあたる』牟田都子著、亜紀書房 ISBN978-4-7505-1754-4 『小田嶋隆のコラム道』小田嶋隆著、ミシマ社 ISBN9784903908359 ※その都度、資料として複写配付しますので、必ずしも購入する必要はありません。
参考書	『エデュケーション 大学は私の人生を変えた』タラウエストーバー著/村井理子訳（早川書房）、『聞く技術、聞いてもらう技術』東畑開人著（ちくま新書）、『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』川内有緒著（集英社インターナショナル）、『違国日記』ヤマシタトモコ作（祥伝社）、『プリズン・サークル』坂上香著（岩波書店）

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア・文芸入門						
担当教員	打田 素之・西川 純司					科目ナンバ-	J01100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会におけるメディア現象を分析するための基礎的な知識とその方法を学ぶ。						
授業の概要	この授業は2名の教員によるオムニバスの授業です。 さまざまな文芸作品（マンガ・アニメ・小説・映画、他）を取り上げて、それらがどのような意味を持っているかを、その分析方法と共に考えていきます。また、こうした文芸作品がどのようなメディア環境のもとで作られ、伝えられ、消費されているのかについても合わせてみていくことで、日本社会におけるメディア現象に総合的にアプローチします。 前半はいろいろな文芸ジャンルの作品分析について学び、後半はそうした文芸作品が置かれているメディア環境をみていきます。						
到達目標	【知識・理解】現代日本社会におけるメディア現象を分析し、説明することができる。						
授業計画	1. イントロダクション 【文芸入門】（担当者：打田） 2. スーパー戦隊 [PC必携] 3. 仮面ライダー・シリーズ [PC必携] 4. J-pop と K-pop [PC必携] 5. J-pop と日本文化 [PC必携] 6. 少女マンガと双子のテーマ [PC必携] 7. 『NANA』分析 [PC必携] 8. 前半のまとめとテスト 【メディア入門】（担当者：西川） 9. メディアとは？ [PC必携] 10. メディアの分析 [PC必携] 11. メディアと社会（1）：マスメディアの時代 [PC必携] 12. メディアと社会（2）：インターネットの時代 [PC必携] 13. メディアのネットワーク化 [PC必携] 14. メディアのグローバル化 [PC必携] 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【学習の必要性】 現代のメディア現象を理解するためには、メディア内を流通するコンテンツ（作品）の内容と、それが届けられる媒体（メディア）の在り方について知る必要がある。 【学生が取り組むべき課題】 そのため、本講義を受講・理解するためには、授業で言及された作品（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）にできる限り触れる必要がある。 また、それらの作品がどのようなメディアを通して、どのような形で届けられているかを常に意識しながら、体験・鑑賞しなければならない。 【事前学習】 ①内容 現代のメディアを通して流通しているコンテンツ（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）を鑑賞・体験する。 現代社会の出来事を伝達するメディアの在り方と方法を意識的・分析的・反省的に捉える。 ②方法 メディアにアクセスする。具体的にはインターネットに入る、TVを見る、ラジオを聞く、新聞・雑誌・広告など文字媒体を読む。映画館、劇場へ行き作品を鑑賞する。美術館展覧会などに行くなど ③時間 ②で言及された内容を30時間以上行う。 【事後学習】 ①内容 事前学習で触れたコンテンツ、出来事、メディアの存在を、授業で学んだ方法を通して考察し、自らの意見・考えを構築する。 ②方法 事前学習で触れたコンテンツを図書館で借りたり、入手可能なものは手に入れ、インターネットで見ることが出来るものはネットを通して、分析・鑑賞・検討する。 また、メディアに関しては、放送メディアを通しての事件報道、ネットで話題の出来事や商品・広告が、どのように取り扱われ、どのような効果・結果をもたらしたかを、授業において紹介された方法や考え方をういて分析・考察する。 ③時間 ②で言及されている作業を30時間以上行う。 【メディア】小テストで間違えた問題を確認し、復習しておく。						

授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら質問する。理論や説を提示する場合は、それが具体的にどのような意味を持つのか、質疑応答形式で授業を進める。(BYOD対象科目)
評価基準と評価方法	メディア、文芸、両ジャンルの成績を合算して成績を出す。内訳は以下の通り。 【文芸】 平常点(30%) + 筆記試験(20%) = 50点 【メディア】 平常点(20%) + 小テスト(30%) = 50点 平常点、テストともに、現代日本社会におけるメディア現象について問う問題を尋ね、回答内容を評価する。特に授業時の質疑応答においては、現代日本の社会現象や文芸作品について、的確なコメントがなされるかどうかを、評価の対象とする。 文芸ジャンルは8回目の授業時に筆記試験を行う。 質問、テスト結果については、授業の前後、オフィス・アワーを通してフィードバックする。 平常点は、毎回の授業への参加度、発言の独自性も考慮される。
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、原則として失格とする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア・文芸入門						
担当教員	打田 素之・西川 純司					科目ナンバ-	J01100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会におけるメディア現象を分析するための基礎的な知識とその方法を学ぶ。						
授業の概要	この授業は2名の教員によるオムニバスの授業です。 さまざまな文芸作品（マンガ・アニメ・小説・映画、他）を取り上げて、それらがどのような意味を持っているかを、その分析方法と共に考えていきます。また、こうした文芸作品がどのようなメディア環境のもとで作られ、伝えられ、消費されているのかについても合わせてみていくことで、日本社会におけるメディア現象に総合的にアプローチします。 前半は文芸作品が置かれているメディア環境をみていきます。後半はそうした文芸ジャンルの作品分析について学びます。						
到達目標	【知識・理解】現代日本社会におけるメディア現象を分析し、説明することができる。						
授業計画	1. イン트로ダクション 【メディア入門】（担当者：西川） 2. メディアとは？ [PC必携] 3. メディアの分析 [PC必携] 4. メディアと社会（1）：マスメディアの時代 [PC必携] 5. メディアと社会（2）：インターネットの時代 [PC必携] 6. メディアのネットワーク化 [PC必携] 7. メディアのグローバル化 [PC必携] 8. まとめ 【文芸入門】（担当者：打田） 9. スーパー戦隊 [PC必携] 10. 仮面ライダー・シリーズ [PC必携] 11. J-pop と K-pop [PC必携] 12. J-pop と日本文化 [PC必携] 13. 少女マンガと双子のテーマ [PC必携] 14. 『NANA』分析 [PC必携] 15. 後半のまとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【学習の必要性】 現代のメディア現象を理解するためには、メディア内を流通するコンテンツ（作品）の内容と、それが届けられる媒体（メディア）の在り方について知る必要がある。 【学生が取り組むべき課題】 そのため、本講義を受講・理解するためには、授業で言及された作品（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）にできる限り触れる必要がある。 また、それらの作品がどのようなメディアを通して、どのような形で届けられているかを常に意識しながら、体験・鑑賞しなければならない。 【事前学習】 ①内容 現代のメディアを通して流通しているコンテンツ（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）を鑑賞・体験する。 現代社会の出来事を伝達するメディアの在り方と方法を意識的・分析的・反省的に捉える。 ②方法 メディアにアクセスする。具体的にはインターネットに入る、TVを見る、ラジオを聞く、新聞・雑誌・広告など文字媒体を読む。映画館、劇場へ行き作品を鑑賞する。美術館展覧会などに行くなど ③時間 ②で言及された内容を30時間以上行う。 【事後学習】 ①内容 事前学習で触れたコンテンツ、出来事、メディアの存在を、授業で学んだ方法を通して、考察し自らの意見・考えを構築する。 ②方法 事前学習で触れたコンテンツを図書館で借りたり、入手可能なものは手に入れ、インターネットで見ることが出来るものはネットを通して、分析・鑑賞・検討する。 また、メディアに関しては、放送メディアを通しての事件報道、ネットで話題の出来事や商品・広告が、どのように取り扱われ、どのような効果・結果をもたらしたかを、授業において紹介された方法や考え方をういて分析・考察する。 ③時間 ②で言及されている作業を30時間以上行う。 【メディア】小テストで間違えた問題を確認し、復習しておく。						

授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら質問する。理論や説を提示する場合は、それが具体的にどのような意味を持つのか、質疑応答形式で授業を進める。(BYOD対象科目)
評価基準と評価方法	メディア、文芸、両ジャンルの成績を合算して成績を出す。内訳は以下の通り。 【文芸】 平常点(30%) + 筆記試験(20%) = 50点 【メディア】 平常点(20%) + 小テスト(30%) = 50点 平常点、テストともに、現代日本社会におけるメディア現象について問う問題を尋ね、回答内容を評価する。特に授業時の質疑応答においては、現代日本の社会現象や文芸作品について、的確なコメントがなされるかどうかを、評価の対象とする。 質問、テスト結果については、授業の前後、オフィス・アワーを通してフィードバックする。 平常点は、毎回の授業への参加度、発言の独自性も考慮される。 文芸ジャンルは15回目の授業時に筆記試験を行う。
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、原則として失格とする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	メディア産業論						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J73630
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代メディア産業とジャーナリズム						
授業の概要	インターネットの登場によってメディア環境が大きく変化している現在、メディア産業やジャーナリズムのあり方も大きな影響を受けている。この授業では、産業としてのメディアや報道のあり方についての基本的な知識を学ぶ。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、インターネット時代におけるメディア産業のあり方や問題を考える。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題についての知識も身につける。						
到達目標	(1) メディア産業やジャーナリズムについての基本的な知識を得ることができる。【知識・理解】 (2) 身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力を身につけることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま (1) : 新聞社 4 メディアのいま (1) : ネット時代のニュース 5 キーワードから読み解くニュース (1) : 報道の自由 6 メディアのいま (2) : 出版社 7 メディアのいま (2) : ネット時代の出版 8 キーワードから読み解くニュース (2) : 報道被害 9 メディアのいま (3) : 放送局 10 メディアのいま (3) : ネットとテレビ 11 キーワードから読み解くニュース (3) : 炎上 12 メディアのいま (4) : インターネット 13 メディアのいま (4) : フェイクニュース 14 キーワードから読み解くニュース (4) : ソーシャルメディア有害論 15 授業のまとめと小テスト  ※授業資料はデータで配布するため、毎回 [PC必携]。						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習 : 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。(学習時間: 2時間) 授業後学習 : 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	<BYOD対象科目> 講義形式。簡単なグループワークをする機会を設けることがある。						
評価基準と評価方法	期末課題 (レポート+小テスト) 70% : 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標 (1) および (2) の到達度の確認。 授業態度 30% : 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述的確さを評価する。到達目標 (1) の到達度の確認。						
履修上の注意	マスコミ関係に就職を希望する者は受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井真二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	メディアと現代文化						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J72590
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映像メディアを分析する視座を学ぶ						
授業の概要	本講義では、映画の鑑賞を通して、映像メディアをより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。授業では、テーマごとに、まず分析手法を解説したうえで、映画を鑑賞します。鑑賞後、小レポートに取り組んでもらい、さらに教員による解説を行います。これらを通して、映像メディアを分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、映画だけでなく、文学やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に应用できることを理解してもらいたいと思います。						
到達目標	(1) 映像メディア(映画)を分析するための視座を習得することができる。【知識・理解】 (2) 映画を批評し、内容について他者と討論する力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 批評とは：映像メディアに対するアプローチ 3 メディア(1)：メディア論についての解説 4 メディア(2)：『トウルーマン・ショー』鑑賞・小レポート [PC必携] 5 メディア(3)：『トウルーマン・ショー』解説 6 社会問題(1)：社会学的分析についての解説 7 社会問題(2)：『ズートピア』鑑賞・小レポート [PC必携] 8 社会問題(3)：『ズートピア』解説 9 コミュニケーション(1)：表象分析についての解説 10 コミュニケーション(2)：『聲の形』鑑賞・小レポート [PC必携] 11 コミュニケーション(3)：『聲の形』解説 12 異文化理解(1)：異文化表象についての解説 13 異文化理解(2)：『クレイジー・リッチ!』鑑賞・小レポート [PC必携] 14 異文化理解(3)：『クレイジー・リッチ!』解説 15 まとめ  ※鑑賞する作品は変更する可能性がある。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：映画や分析手法について確認・整理する。(学習時間：2時間) 授業後学習：小レポートを作成する。(学習時間：2時間)						
授業方法	〈BYOD対象科目〉 講義形式。作品鑑賞の後、小レポートに取り組む。						
評価基準と評価方法	小レポート 60% (15%×4回)： 作品内容の理解度、および、小レポートの内容・記述的確さ、を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 授業態度 40%： ディスカッションにおける議論的確性を評価する。到達目標(2)の到達度の確認。						
履修上の注意	鑑賞後のディスカッションに積極的に参加することが求められる。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							